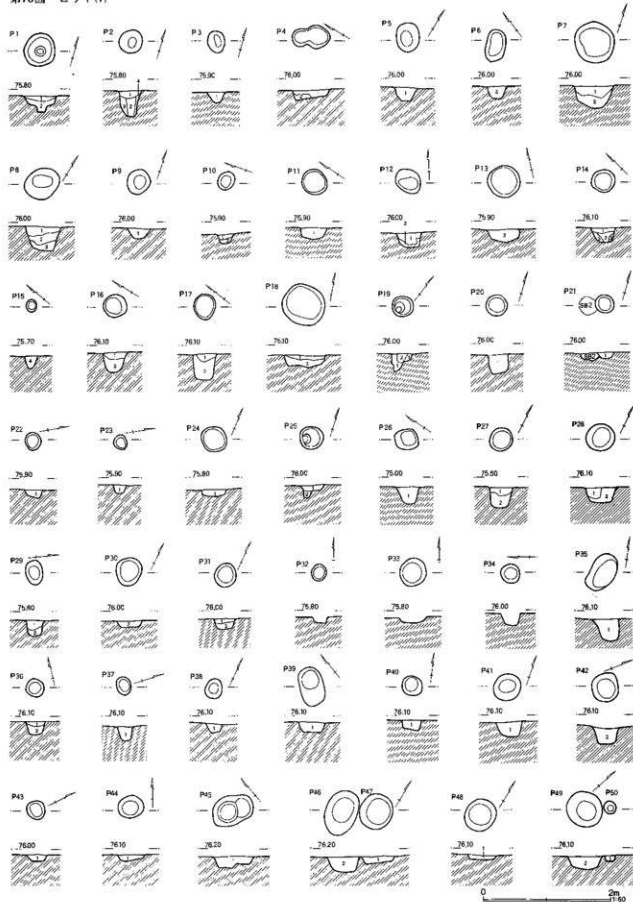
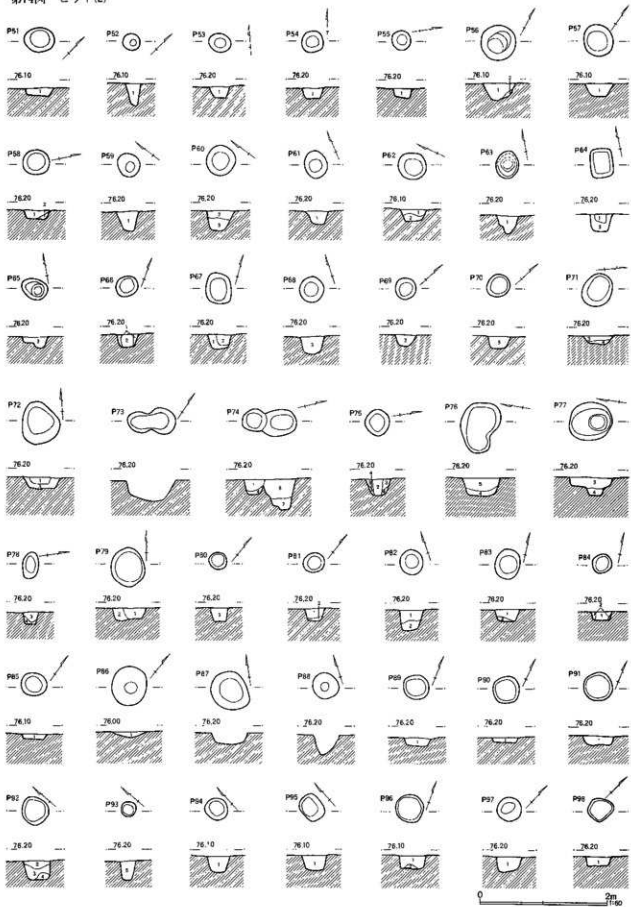


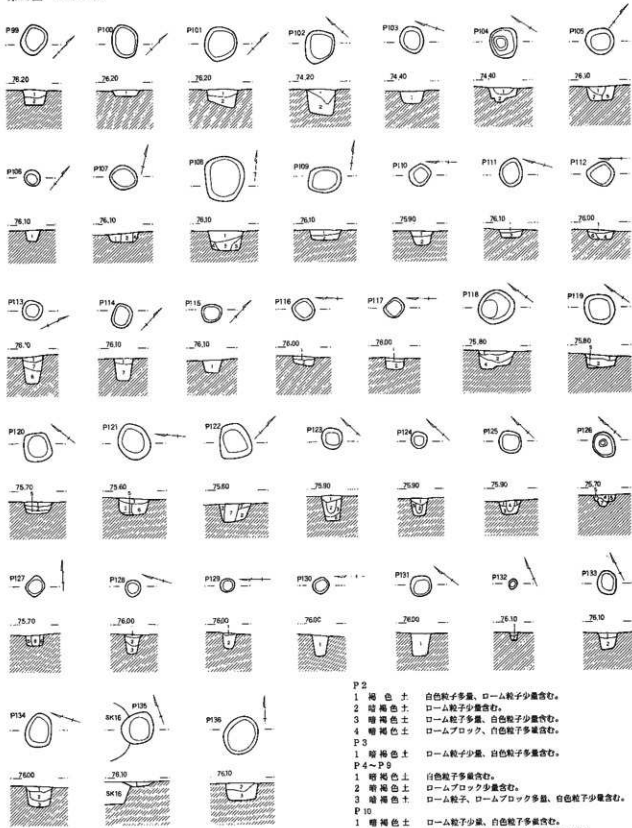
第73図 ビット(I)



第74図 ビット(2)



第75図 ビット(3)



P 1
 1 褐色土 褐色粘土、褐色粘土ブロック多量、白色粒子少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック、白色粒子多量含む。

P 2
 1 褐色土 白色粒子多量、ローム粒子少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
 3 暗褐色土 ローム粒子多量、白色粒子少量含む。
 4 暗褐色土 ロームブロック、白色粒子多量含む。
 P 3
 1 暗褐色土 ローム粒子少量、白色粒子多量含む。
 P 4~P 5
 1 暗褐色土 白色粒子多量含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック多量、白色粒子少量含む。
 P 10
 1 暗褐色土 ローム粒子少量、白色粒子多量含む。
 2 暗褐色土 ローム、ロームブロック、白色粒子少量含む。
 P 11~P 13・P 15
 1 暗褐色土 灰化物、ローム粒子少量、白色粒子多量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒子多量、白色粒子少量含む。
 3 暗褐色土 ローム粒子少量、ロームブロック、白色粒子多量含む。
 4 暗褐色土 ローム粒子少量含む。

P 14・P 16～P 18
 1 暗褐色上 ローム粘土少量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 炭化物少量含む。
 3 暗褐色上 ローム粘土少量含む。
 P 19・P 22・P 23
 1 暗褐色上 ローム粘土少量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 白色粘土少量含む。
 P 25
 1 暗褐色上 ローム粘土少量含む。
 P 21
 1 暗褐色上 ローム粘土少量、白色粘土少量含む。
 P 24・P 25
 1 暗褐色上 ローム粘土少量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 ローム、ロームブロック、白色粘土少量含む。
 P 26
 1 褐色上 灰白色粘土、粘土粒、炭化物少量含む。
 P 27
 1 褐色上 ローム粘土少量、白色粘土少量含む。
 2 黄褐色上 ローム粘土少量、白色粘土少量含む。
 P 28・P 29
 1 暗褐色上 褐色粘土ブロック多量、白色粘土少量含む。
 2 ローム粘土、ロームブロック、白色粘土少量含む。
 P 30・P 31
 1 暗褐色上 褐色粘土、褐色粘土ブロック多量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 褐色ブロック多量、白色粘土、ローム少量含む。
 3 暗褐色上 炭化物、白色粘土少量含む。
 P 35
 1 褐色上 ローム粘土少量含む。
 P 36
 1 褐色上 ローム粘土、粘土粒少量含む。
 2 褐色上 ローム粘土少量、粘土粒少量含む。
 P 37
 1 褐色上 ローム粘土少量含む。
 P 38
 1 褐色上 ローム粘土少量、白色粘土少量含む。
 P 39
 1 暗褐色上 ロームブロック多量、白色粘土少量含む。
 P 40
 1 褐色上 ロームブロック少量、白色粘土少量含む。
 P 41
 1 褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 P 42・P 43
 1 黄褐色上 ローム粘土少量含む。
 2 黄褐色上 ロームブロック少量含む。
 P 44
 1 褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 P 45
 1 褐色上 ロームブロック少量、白色粘土少量含む。
 P 46・P 47
 1 褐色上 ローム粘土、ロームブロック、白色粘土少量含む。
 2 褐色上 ローム粘土、ロームブロック少量含む。
 P 48
 1 褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 P 49・P 50
 1 褐色上 ロームブロック、白色粘土少量含む。
 2 褐色上 ロームブロック少量、白色粘土少量含む。
 P 51
 1 褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 P 52
 1 暗褐色上 粘土粒少量含む。
 P 53
 1 褐色上 ロームブロック、白色粘土少量含む。
 P 54
 1 褐色上 白色粘土少量含む。
 P 55
 1 黄褐色上 白色粘土多量、炭化物少量含む。
 P 56
 1 褐色上 粘土粒、炭化物少量含む。
 2 褐色上 ロームブロック少量含む。
 P 57
 1 黄褐色上 ロームブロック、白色粘土少量含む。
 P 58
 1 褐色上 白色粘土少量含む。
 2 黄褐色上 白色粘土少量含む。
 P 59・P 60
 1 褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 2 褐色上 白色粘土少量含む。
 3 黄褐色上 白色粘土少量含む。

P 61
 1 黄褐色上 ロームブロック、白色粘土少量含む。
 P 62
 1 暗褐色上 褐色粘土、褐色粘土ブロック多量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 ローム粘土、ロームブロック、白色粘土少量含む。
 P 63～P 72・P 74～P 78
 1 暗褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 ロームブロック少量含む。
 3 暗褐色上 灰褐色土、白色粘土、ローム少量含む。
 4 暗褐色上 粘土少量含む。
 5 暗褐色上 ローム粘土少量多量含む。
 6 暗褐色上 灰褐色粘土多量、灰褐色ブロック、炭化物少量含む。
 7 暗褐色上 粘土少量含む。
 P 79
 1 褐色上 砂質。
 2 褐色上 ローム粘土少量含む。
 P 80～P 84
 1 褐色上 ローム粘土少量含む。
 2 黄褐色上 ローム粘土少量含む。
 3 褐色上 ローム粘土少量含む。
 P 85・P 86
 1 暗褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 P 89～P 96
 1 暗褐色上 白色粘土少量含む。硬質。
 2 暗褐色上 白色粘土多量、炭化物少量含む。
 3 暗褐色上 炭化物少量含む。
 4 暗褐色上 ローム粘土少量含む。
 5 暗褐色上 ローム少量含む。
 P 97
 1 暗褐色上 ローム粘土少量、白色粘土、ローム多量含む。
 P 98
 1 暗褐色上 ローム粘土、白色粘土少量、粘土、炭化物少量含む。
 P 99～P 101
 1 暗褐色上 白色粘土多量含む。硬質。
 2 暗褐色上 白色粘土多量、炭化物少量含む。
 P 102
 1 暗褐色上 黄褐色粘土粒少量含む。
 2 暗褐色上 黄褐色粘土粒、黄褐色粘土ブロック少量含む。
 P 103
 1 褐色上 暗褐色粘土粒少量含む。
 1 褐色上 暗褐色粘土粒少量含む。
 2 褐色上 暗褐色粘土ブロック少量含む。
 P 105～P 117
 1 暗褐色上 褐色粘土ブロック多量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 褐色粘土ブロック、白色粘土少量含む。
 3 暗褐色上 ロームブロック、ローム粘土多量、炭化物少量含む。
 4 暗褐色上 ローム粘土多量、白色粘土少量含む。
 5 暗褐色上 ローム、白色粘土少量含む。
 6 暗褐色上 ロームブロック、白色粘土少量含む。
 7 暗褐色上 炭化物、白色粘土少量含む。
 8 暗褐色上 粘性あり。
 P 118～P 122
 1 暗褐色上 褐色粘土ブロック多量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 褐色粘土ブロック、白色粘土少量含む。
 3 暗褐色上 灰褐色粘土多量、粘土、炭化物少量含む。
 4 暗褐色上 炭化物、粘土少量含む。
 5 暗褐色上 ロームブロック多量含む。
 6 暗褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 7 暗褐色上 粘土、炭化物、ローム少量含む。
 P 123～P 127
 1 暗褐色上 褐色粘土ブロック多量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 褐色粘土ブロック、白色粘土少量含む。
 3 暗褐色上 ロームブロック、ローム粘土多量、炭化物少量含む。
 4 暗褐色上 褐色粘土ブロック、白色粘土少量含む。
 5 暗褐色上 ロームブロック、ローム多量、粘土少量含む。
 6 暗褐色上 ローム多量含む。
 7 暗褐色上 ローム、白色粘土少量含む。
 8 暗褐色上 粘土多量、炭化物、灰褐色粘土ブロック多量含む。
 P 128～P 134
 1 褐色上 ローム粘土、白色粘土少量含む。
 2 褐色上 白色粘土少量含む。
 3 暗褐色上 炭化物、粘土少量含む。
 P 135・P 136
 1 暗褐色上 褐色粘土粒多量、白色粘土少量含む。
 2 暗褐色上 褐色粘土ブロック多量、白色粘土少量含む。
 3 暗褐色上 褐色粘土ブロック、白色粘土少量含む。

第8表 小栗遺跡ピット一覧表

番号	位	置	形	態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1	B-3		円形		0.54	0.49	0.27
2	B-3		円形		0.37	0.35	0.42
3	B-5		円形		0.34	0.28	0.18
4	B-5		不整形		0.59	0.28	0.16
5	B-5		円形		0.45	0.37	0.22
6	B-5		楕円形		0.49	0.29	0.21
7	B-5		円形		0.64	0.63	0.37
8	B-5		円形		0.58	0.49	0.38
9	B-5		円形		0.41	0.37	0.18
10	B-5		円形		0.31	0.27	0.12
11	B-6		円形		0.42	0.41	0.19
12	B-6		楕円形		0.45	0.36	0.24
13	B-6		円形		0.53	0.52	0.20
14	B-6		円形		0.39	0.36	0.24
15	B-6		円形		0.18	0.19	0.19
16	B-6		円形		0.39	0.38	0.33
17	B-6		円形		0.42	0.36	0.44
18	B-6		円形		0.69	0.65	0.21
19	B-6		円形		0.36	0.34	0.28
20	B-6		円形		0.35	0.34	0.31
21	B-6		円形		0.42	0.39	0.13
22	B-6		円形		0.29	0.26	0.14
23	B-6		円形		0.26	0.22	0.14
24	B-6		円形		0.58	0.55	0.12
25	B-6		円形		0.50	0.49	0.22
26	C-2		方形		0.37	0.34	0.26
27	B-7		円形		0.39	0.37	0.34
28	C-3		円形		0.47	0.46	0.25
29	C-3		楕円形		0.40	0.19	0.25
30	C-3		円形		0.40	0.35	0.11
31	C-3		円形		0.47	0.42	0.21
32	C-3		円形		0.29	0.25	0.11
33	C-3		円形		0.45	0.43	0.11
34	C-3		円形		0.32	0.31	0.21
35	C-4		楕円形		0.64	0.41	0.37
36	C-4		円形		0.32	0.30	0.22
37	C-4		楕円形		0.31	0.22	0.24
38	C-4		円形		0.32	0.27	0.14
39	C-4		方形		0.62	0.39	0.18
40	C-4		円形		0.34	0.31	0.18
41	C-4		円形		0.44	0.41	0.28
42	C-4		円形		0.45	0.43	0.28
43	C-4		円形		0.31	0.29	0.11
44	C-4		円形		0.42	0.37	0.11
45	C-4		方形		0.68	0.49	0.21
46	C-4		楕円形		0.74	0.51	0.25
47	C-4		円形		0.58	0.54	0.11
48	C-4		円形		0.52	0.49	0.09
49	C-4		円形		0.21	0.20	0.11
50	C-4		円形		0.60	0.56	0.21
51	C-4		楕円形		0.52	0.40	0.14

番号	位	置	形	態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
52	C-4		円形		0.29	0.28	0.37
53	C-4		円形		0.36	0.30	0.20
54	C-4		円形		0.35	0.35	0.19
55	C-4		円形		0.32	0.31	0.15
56	C-4		円形		0.57	0.56	0.29
57	C-4		円形		0.51	0.49	0.22
58	C-4		円形		0.43	0.40	0.15
59	C-4		円形		0.38	0.35	0.32
60	C-4		円形		0.48	0.46	0.32
61	C-4		楕円形		0.44	0.36	0.24
62	C-4		円形		0.48	0.44	0.21
63	C-5		楕円形		0.42	0.38	0.32
64	C-5		方形		0.48	0.37	0.29
65	C-5		楕円形		0.43	0.33	0.19
66	C-5		円形		0.35	0.34	0.21
67	C-5		方形		0.48	0.41	0.24
68	C-5		円形		0.41	0.40	0.29
69	C-5		円形		0.35	0.34	0.20
70	C-5		円形		0.40	0.36	0.22
71	C-5		楕円形		0.55	0.48	0.17
72	C-5		楕円形		0.67	0.61	0.21
73	C-5		不整形		0.87	0.34	0.34
74	C-5		円形		0.36	0.34	0.50
75	C-5		円形		0.43	0.41	0.27
76	C-5		不整形		0.82	0.61	0.29
77	C-5		楕円形		0.71	0.62	0.32
78	C-5		楕円形		0.44	0.27	0.22
79	C-5		円形		0.64	0.56	0.21
80	C-5		円形		0.31	0.29	0.22
81	C-5		円形		0.33	0.32	0.21
82	C-5		円形		0.41	0.37	0.33
83	C-5		円形		0.49	0.42	0.21
84	C-5		円形		0.32	0.32	0.15
85	C-5		円形		0.42	0.39	0.11
86	C-5		円形		0.62	0.59	0.11
87	C-5		楕円形		0.69	0.55	0.21
88	C-5		円形		0.41	0.40	0.33
89	C-6		円形		0.43	0.40	0.14
90	C-6		円形		0.45	0.44	0.10
91	C-6		円形		0.39	0.38	0.18
92	C-6		円形		0.45	0.43	0.32
93	C-6		円形		0.26	0.24	0.32
94	C-6		円形		0.36	0.34	0.29
95	C-6		円形		0.44	0.35	0.27
96	C-6		円形		0.48	0.46	0.23
97	C-6		円形		0.41	0.40	0.24
98	C-6		不整形		0.43	0.39	0.28
99	C-6		方形		0.48	0.40	0.31
100	C-6		方形		0.51	0.42	0.17
101	C-6		円形		0.56	0.54	0.11
102	D-1		不整形		0.53	0.48	0.42

番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
103	D-2	円形	0.41	0.40	0.19
104	D-2	方形	0.51	0.45	0.22
105	D-4	円形	0.46	0.43	0.25
106	D-4	円形	0.28	0.25	0.19
107	D-4	円形	0.45	0.38	0.15
108	D-4	方形	0.71	0.60	0.35
109	D-4	方形	0.52	0.41	0.18
110	D-4	方形	0.36	0.32	0.24
111	D-4	楕円形	0.46	0.38	0.15
112	D-4	楕円形	0.46	0.39	0.17
113	D-4	円形	0.32	0.31	0.44
114	D-4	方形	0.39	0.31	0.34
115	D-4	方形	0.33	0.29	0.20
116	D-4	円形	0.37	0.34	0.14
117	D-4	円形	0.35	0.32	0.19
118	D-4	円形	0.56	0.55	0.31
119	D-4	楕円形	0.53	0.49	0.24
120	D-4	方形	0.47	0.45	0.19

番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
121	D-4	楕円形	0.58	0.52	0.28
122	D-4	方形	0.57	0.49	0.31
123	D-4	円形	0.37	0.36	0.41
124	D-4	円形	0.27	0.26	0.28
125	D-4	円形	0.38	0.37	0.21
126	D-4	楕円形	0.44	0.36	0.19
127	D-4	方形	0.31	0.25	0.21
128	D-4	円形	0.27	0.26	0.32
129	D-4	円形	0.24	0.22	0.28
130	D-4	円形	0.28	0.27	0.36
131	D-4	円形	0.38	0.36	0.38
132	D-4	円形	0.15	0.14	0.15
133	D-4	楕円形	0.38	0.33	0.28
134	D-4	楕円形	0.55	0.43	0.36
135	D-5	不整形	0.49	(0.37)	0.11
136	D-5	円形	0.59	0.57	0.25
137	C-5	楕円形	0.54	0.43	0.25

(6) グリッド出土遺物

第76図はグリッドから出土した遺物である。若干ではあるが、縄文土器と平安時代の遺物が出土している。

第76図1、2は縄文時代早期後葉の条痕文土器群である。1は外面に条痕整形を施し、内面は擦痕状の整形を行う。胎土に繊維を少量含む。2は内外面とも擦痕状の整形を行っており、胎土に繊維を若干含んでいる。

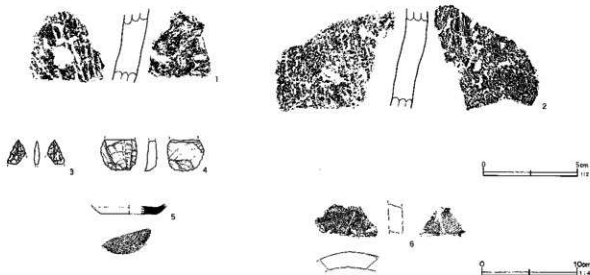
3、4は縄文時代の石器である。3は石鏃の先端部

のみ現存するものであり、チャート製で、長さ1.3cm、幅0.9cm、厚さ0.2cmを測る。4はチャート製の搔器と思われ、先端部を欠損する。長さ1.6cm、幅1.9cm、厚さ0.6cmを測る。

5は平安時代の須恵器環で、底部の約3分の1が現存する。底部は回転糸切り離し後、未調整である。9世紀の後半代の所産である。

6は布目丸瓦である。

第76図 グリッド出土遺物



第9表 小栗遺跡ピット新旧対照表

新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号
P 1	B 3 G P 2	P36	C 4 G P 1	P71	C 5 G P 10	P106	D 4 G P 2
P 2	B 3 G P 1	P37	C 4 G P 3	P72	C 5 G P 12	P107	D 4 G P 3
P 3	B 5 G P 1	P38	C 4 G P 4	P73	C 5 G P 14	P108	D 4 G P 4
P 4	B 5 G P 3	P39	C 4 G P 5	P74	C 5 G P 15	P109	D 4 G P 5
P 5	B 5 G P 4	P40	C 4 G P 6	P75	C 5 G P 17	P110	D 4 G P 7
P 6	B 5 G P 5	P41	C 4 G P 7	P76	C 5 G P 18	P111	D 4 G P 8
P 7	B 5 G P 2	P42	C 4 G P 9	P77	C 5 G P 16	P112	D 4 G P 10
P 8	B 5 G P 6	P43	C 4 G P 8	P78	C 5 G P 19	P113	D 4 G P 11
P 9	B 5 G P 7	P44	C 4 G P 10	P79	C 5 G P 22	P114	D 4 G P 12
P10	B 5 G ケ	P45	C 4 G P 11	P80	C 5 G P 21	P115	D 4 G P 13
P11	B 6 G P 1	P46	C 4 G P 13	P81	C 5 G P 11	P116	D 4 G P 14
P12	B 6 G P 2	P47	C 4 G P 12	P82	C 5 G P 23	P117	D 4 G P 15
P13	B 6 G P 3	P48	C 4 G P 14	P83	C 5 G P 24	P118	D 4 G P 16
P14	B 6 G P 5	P49	C 4 G P 15	P84	C 5 G P 25	P119	D 4 G P 17
P15	B 6 G P 4	P50	C 4 G P 16	P85	C 5 G P 27	P120	D 4 G P 18
P16	B 6 G P 6	P51	C 4 G P 17	P86	C 5 G P 28	P121	D 4 G P 19
P17	B 6 G P 7	P52	C 4 G P 19	P87	C 5 G P ㄈ	P122	D 4 G P 20
P18	B 6 G P 8	P53	C 4 G P 21	P88	C 5 G P ㄆ	P123	D 4 G P 21
P19	B 6 G P 9	P54	C 4 G P 22	P89	C 6 G P 1	P124	D 4 G P 22
P20	B 6 G P 13	P55	C 4 G P 23	P90	C 6 G P 6	P125	D 4 G P 23
P21	B 6 G P ㄅ	P56	C 4 G P 18	P91	C 6 G P 7	P126	D 4 G P 24
P22	B 6 G P 10	P57	C 4 G P 20	P92	C 6 G P 8	P127	D 4 G P 25
P23	B 6 G P 11	P58	C 4 G P 24	P93	C 6 G P 9	P128	D 4 G P 27
P24	B 6 G P ㄆ	P59	C 4 G P 25	P94	C 6 G P 10	P129	D 4 G P 28
P25	B 6 G P ㄎ	P60	C 4 G P 26	P95	C 6 G P 11	P130	D 4 G P 29
P26	C 2 G P 1	P61	C 4 G P 27	P96	C 6 G P 12	P131	D 4 G P 30
P27	B 7 G P 1	P62	C 4 G P 31	P97	C 6 G P ㄱ	P132	D 4 G P 31
P28	C 3 G P 2	P63	C 5 G P 2	P98	C 6 G P ㄎ	P133	D 4 G P 32
P29	C 3 G P 1	P64	C 5 G P 3	P99	C 6 G P ㄷ	P134	D 4 G P 26
P30	C 3 G P 3	P65	C 5 G P 4	P100	C 6 G P ㄹ	P135	D 5 G P 2
P31	C 3 G P 4	P66	C 5 G P 5	P101	C 6 G P ㄺ	P136	D 5 G P 3
P32	C 3 G P 7	P67	C 5 G P 6	P102	D 1 G P 1	P137	C 5 G P 13
P33	C 3 G P ㄹ	P68	C 5 G P 7	P103	D 2 G P 2		
P34	C 3 G P ㄻ	P69	C 5 G P 8	P104	D 2 G P 1		
P35	C 4 G P 2	P70	C 5 G P 9	P105	D 4 G P 1		

VI 日向遺跡の調査

1 遺跡の概要

日向遺跡は比企郡小川町大字中爪字馬戸場1015番地他に所在し、市野川右岸の段丘面、同川支流の谷部、河岸段丘に続く小丘陵に立地する。発掘調査は平成11年4月1日から12月28日にかけて行った。調査面積は11745㎡である。調査区は便宜上、東からA区、B区、C区（当初はA～G区）に分けた。標高はA区の谷部で約66m、丘陵の頂部であるC区で約83mと調査区内で17mの比高差がある。地形は東及び南東方向に向かって傾斜している。A区の広い部分の南東側では深い谷が入るため、遺構はまったく検出できなかった。

検出された遺構は奈良・平安時代の住居跡22軒、中・近世の溝跡13条、土壇100基、ピット85基、炭焼窯跡5基であった。遺構は一定の場所に集中する傾向があり、遺構が検出されなかった部分も多い。住居跡はA区の谷部、台地の一段高い部分、C区の南側の3箇所に集中する。平面形態は長方形が多く、長径を東西方向にもつものと南北方向にもつ住居があり、ほぼ同数である。規模は長径4m、短径3m、深さ0.2mが平均的で、カマドを北または北西に付設している。柱穴や貯蔵穴をもつものは少なく、壁溝、貼土は殆ど確認できなかった。A区は北西、C区は北とカマドの向きが調査区で異なるが、出土遺物に大きな時期差は認められなかったことから、年代的な差ではなく集落の立地や構成上の問題と考えられる。また、住居跡は斜面部に立地しているため、床面が地形に沿って緩やかな傾斜をもち、南側、南東側の壁が残存しないものも多かった。

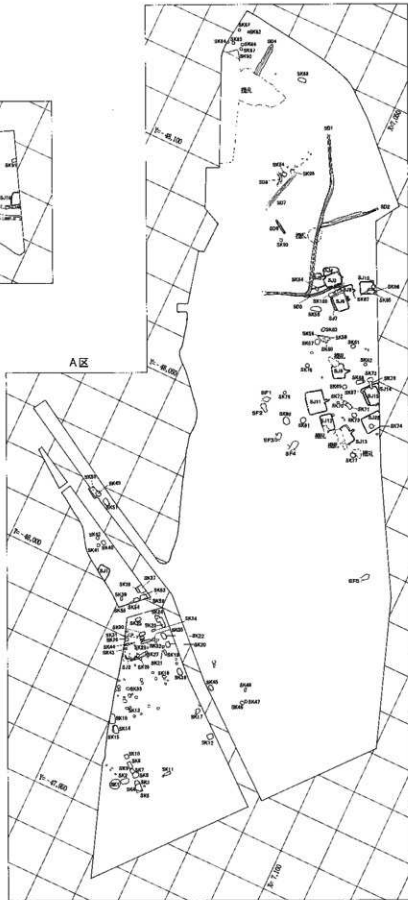
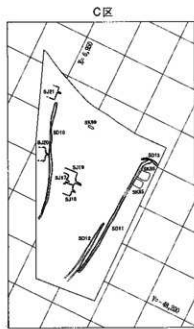
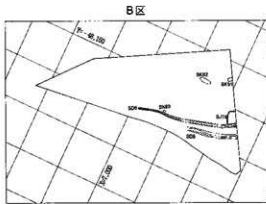
出土遺物には須恵器環、埴、蓋、甕、長頸瓶、灰釉埴、土師器環、土付甕、甕、紡錘車などがあるが、出土量は比較的少ない。須恵器の多くは南比企産で、9世紀後半頃の住居跡には木野産が混じる場合もある。また、須恵器とともに酸化焙焼された土器群も9世紀代の住居跡の中にみられ、須恵器環類主体の需要供

給体制に変化が生じ始めていることが窺われた。灰釉陶器は少量であるが、静岡産と考えられる埴、瓶類がみられた。また、日向遺跡は地理的にも男衾郡や横沢郡と接しており、9世紀代になると平底の土師器環なども伴い、木野産須恵器の搬入とともに武蔵北部の郡との流通も盛んになったものと推測される。集落は遺物から8世紀中頃から始まり、9世紀後半頃まで約百年にわたって営まれていたものと考えられる。

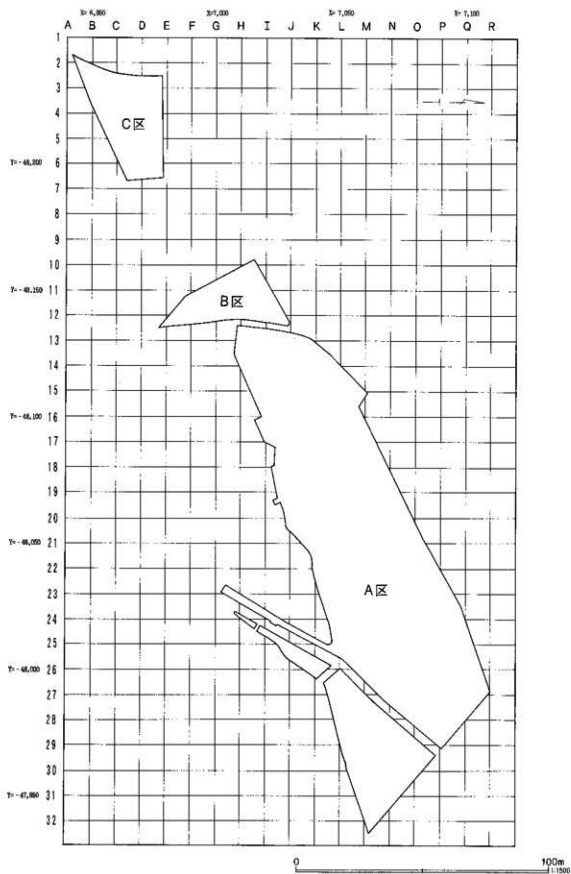
溝跡、土壇、ピット、炭焼窯跡などは遺物は出土しなかったが、殆どが中・近世以降に帰属するものと考えられる。溝跡はA区の高台、B区、C区で検出された。出土遺物も少なく、明確な構築年代は不明である。土壇は大半がA区に集中する。遺物は平安時代から近世木頃まで多岐に及んでいるが、混入の可能性がある、時期の比定が難しい。一方、かわらけ、陶磁器、占銭を伴う土壇については、形態や規模などから近世における墓塚の可能性が高い。A区の平安時代集落の周辺やB区に隣接する地点の土壇はまとまりがあり、墓塚群を形成していたものと考えられる。ピットはA区東側の斜面部に分布していたが、建物跡や構造物など構造物として捉えられなかった。付近の住居跡が殆ど床面に近い状態で検出されたことや斜面に位置していることから、この中の一部は住居跡であった可能性も考慮される。

炭焼窯跡は卵形をした特異な形態で、A区中央部の斜面に構築されている。小規模で、窯構造や主軸が同じであることから、同時期に一定量の木炭の採集が行われた可能性が高い。炭化物の断片以外の遺物を伴わないため、構築年代は不明である。しかし、近隣でも同様な形態の炭焼窯が検出されており、今後調査例が増加し、年代を裏付ける遺物などが伴えば、木炭生産の目的や窯構造の系譜などについても明らかになるものと期待される。

第77回 日向遺跡全測図



第78図 日向遺跡グリッド網図



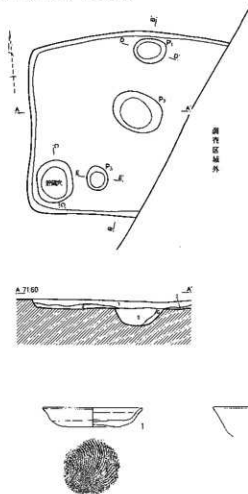
2. 発見された遺構と遺物

(1) 住居跡

第1号住居跡 (第79図)

K-25グリッドに位置し、東側の約1/3が調査区域外となる。平面形態は長方形とみられ、規模は短径が2.9m、床面までの深さは約0.15mである。覆土は暗褐色土で、ローム粒子、炭化物、焼土粒子が含まれる。床面は平坦であるが、貼床は確認されなかった。ピットは床面から4基検出された。貯蔵穴は、南西隅に設けられていた。平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.55m、床面までの深さ0.15mである。他の

第79図 第1号住居跡・出土遺物



3基のピットは、大小様々でいずれも焼土粒子を含む褐色土であったが、位置や規模などから柱穴ではないものと判断した。カマドや壁溝は検出されなかった。

遺物は2点出土した(第79図)。1はかわらけの皿で、口縁端部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたものと考えられる。周辺の遺構から混入したものとみられる。2は内面を黒色処理する坏で、やや風化している。黒色処理された部分は横方向のミガキで調整される。

S J 1

- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 3 褐色土 焼土粒子・炭化物少量、黒色ブロック微量含む。
- 4 褐色土 黒色ブロック含む。
- 5 赤褐色土 焼土粒子・焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子微量含む。
- 6 褐色土 ロームブロック少量、炭化物微量含む。
- 7 褐色土 ローム粒子・焼土粒子微量含む。
- 8 褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量含む。
- 9 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、炭化物少量含む。

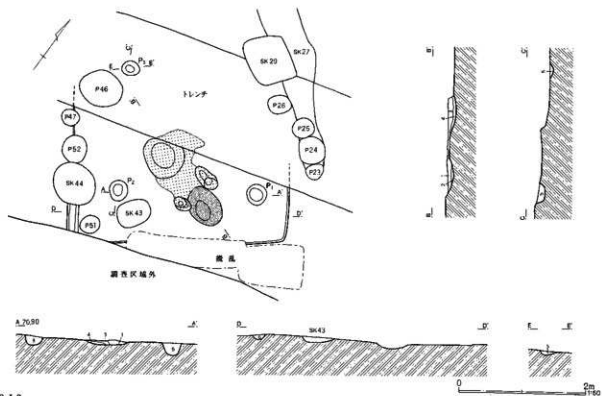
第1号住居跡出土遺物観察表 (第79図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	かわらけ	10.5	2.0	6.2	ABCF	普通	明褐色	80	
2	坏	(14.2)	-	-	ABDF	普通	褐色	10	内面黒色処理

第2号住居跡 (第80図)

L-27グリッドに位置する。南東側約半分だけが検出された。平面形態は正方形と推定される。規模は長径3.55m、床面までの深さ0.05mである。覆土は暗褐色土であるが、床面に近い状態であった。カマドは住居内の東寄りに検出されたが、住居跡はカマドと床面の向きが異っており、二軒の住居跡の重複であることが第80図 第2号住居跡・出土遺物

確認された。残存状況から、カマドのある住居跡が新しく、床面だけ検出された住居跡が古い。2基検出されたピットは主柱穴と考えられ、壁溝は西側で長さ約0.4mが確認された。遺物は3点出土した。1は土釜と称するやや厚いつくりの土師器甕である。2は土師器台付甕の脚部と考えられ、接合部には糸切りのような底跡がある。3は後世の鉢で、混入したものと考えられる。



S J 2

1 暗褐色土 焼土・炭化微粒子多量含む。

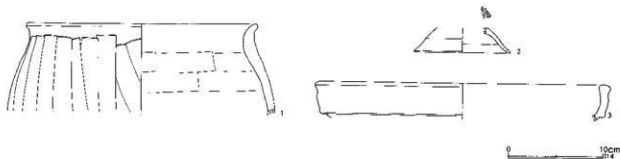
2 赤褐色土 焼土。

3 黒褐色土 黒色土多量、焼土残片・炭化物少量含む。

4 褐色土 ローム粒子少量含む。

5 黒褐色土 黒色土多量含む。

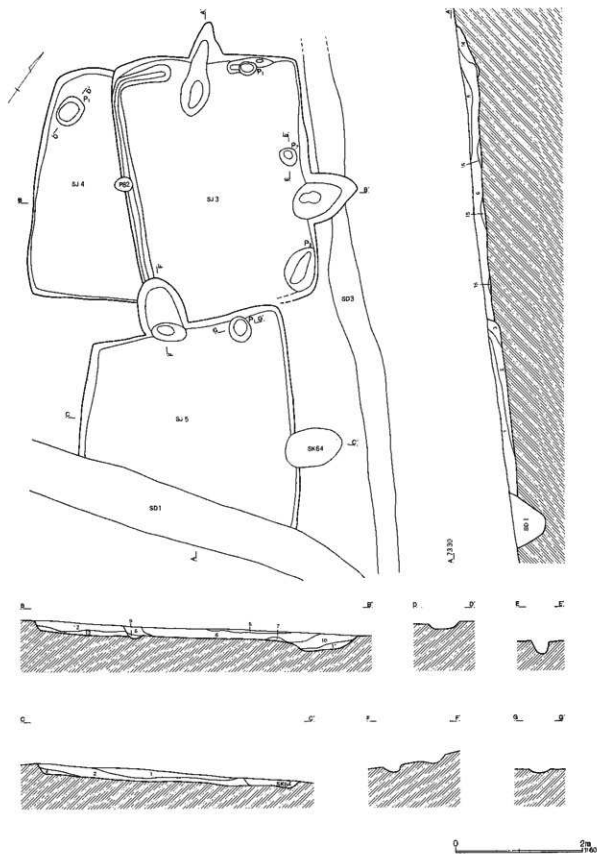
6 褐色土 炭化物少量含む。



第2号住居跡出土遺物観察表 (第80図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器甕	(24.2)			ABC F	普通	明褐色	20	
2	土師器台付甕			(10.3)	ACDEF 片	普通	褐色	20	
3	鉢	(29.7)			ACD F 片	普通	褐色	10	

第81図 第3・4・5号住居跡



SJ3・4・5

- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量含む。
- 3 褐色土 粘土ブロック少量含む。
- 4 褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。
- 5 褐色土 焼土粒子少量、炭化物・白色粘土少量含む。
- 6 暗褐色土 焼土粒子・炭化物多量、炭化物ブロック少量含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒子・粘土ブロック多量含む。

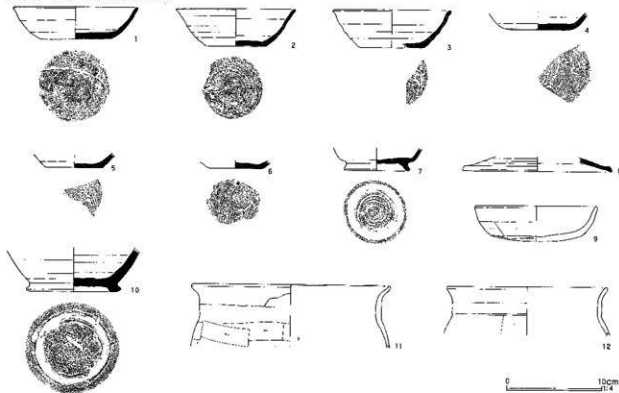
- 8 暗褐色土 焼土粒子微量、炭化物含む。
- 9 褐色土 焼土粒子微量、粘土粒子・粘土ブロック少量含む。
- 10 暗褐色土 焼土粒子・粘土ブロック多量、炭化物・粘土粒子少量含む。
- 11 暗褐色土 炭化物少量、粘土粒子微量含む。
- 12 褐色土 焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量含む。
- 13 暗褐色土 粘土粒子微量、炭化物少量、粘土粒子少量含む。
- 14 暗褐色土 焼土粒子・粘土ブロック多量、炭化物少量含む。
- 15 褐色土 粘土粒子・炭化物少量、粘土ブロック微量含む、粘土質。

第3・4・5号住居跡 (第81回)

L・M-17グリッドに位置し、SJ4→3→5の順で構築されている。

SJ3はL-17グリッドに位置し、SJ4の東側半分にかかって構築され、南西隅をSJ5のカマドと重複する。平面形態は台形に近い長方形で、規模は長径4.25m、短径3.15m、床面までの深さ0.15mである。カマドは北壁と東壁に各1基付設されていたが、新田は確認できなかった。床面は南側に緩やかに傾斜している。ピットは3基検出され、P3は東側のカマドに伴う貯蔵穴と考えられる。壁溝は北側のカマド周辺及び西壁に沿って検出された。遺物(第82回)は覆土から出土した。1~6は須恵器環で、4を除いてはいずれも焼成温度が低い。9は須恵器長頸甕で、内面は全面に研磨された痕跡が認められる。

第82回 第3号住居跡出土遺物



SJ4はL-17グリッドに位置し、SJ3の住居の東側半分を壊されている。平面形態は長方形で、規模は長径3.6m、床面までの深さ0.15mである。床面は平坦である。ピットは北西隅に1基検出された。

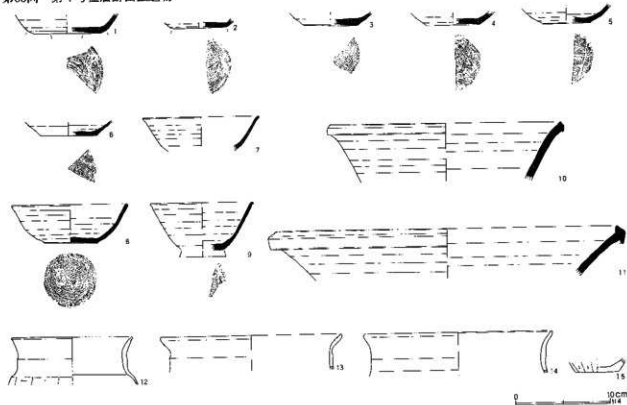
遺物(第83回)は覆土及び床面から出土した。1・2・4~8は腰部が僅かに張り、端部で外反する南北企産の須恵器環である。9は高台が削かれ、ロクロナデを明瞭に残す。10・11は須恵器甕で、10は木野蔭、11は南北企産である。12~14は「コ」の字口縁の甕である。

SJ5はK・L-17グリッドに位置する。平面形態は西辺が短い台形と推測される。規模は短径3.55m、床面までの深さ0.15mである。カマドは北壁中央付近に1基付設されていた。ピットはカマドの東側に1基検出された。床面は凹凸がある。遺物はすべて覆土から出土した。

第3号住居跡出土遺物観察表(第82図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環	13.0	3.4	7.4	ACF針	不良	茶褐色	70	南北金産
2	須恵器環	(12.5)	3.9	6.4	ABCF針	不良	淡褐色	40	南北金産
3	須恵器環	(12.2)	4.0	(6.5)	ABCF	普通	明褐色	30	
4	須恵器環			(7.0)	ACF針	良好	灰色	20	南北金産
5	須恵器環			(6.0)	ACF針	普通	褐灰色	20	南北金産
6	須恵器環			(5.6)	ACF針	不良	褐灰色	70	南北金産
7	須恵器高台付環			6.9	ACF針	良好	灰色	60	南北金産 底部へラ記号
8	須恵器蓋	(15.2)			ABCF針	良好	褐灰色	10	南北金産
9	土師器環	(12.8)	3.7		ABDF	普通	褐色	30	
10	須恵器長頸壺	(20.6)		10.0	ABCF針	普通	灰色	70	南北金産
11	土師器鉢	(20.6)			ABCF	普通	褐色	20	
12	土師器鉢	(16.6)			ABCF	普通	褐色	10	

第83図 第4号住居跡出土遺物



第4号住居跡出土遺物観察表(第83図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環			(7.0)	ACF針	良好	灰色	10	南北金産
2	須恵器環			(5.8)	AF針	普通	灰色	40	南北金産
3	須恵器環			(5.6)	ACF	普通	灰色	20	
4	須恵器環			(5.6)	ACF針	普通	暗褐色	20	南北金産
5	須恵器環			(5.0)	ABCF針	良好	褐灰色	20	南北金産
6	須恵器環			(6.0)	ACF針	普通	乳白色	10	南北金産
7	須恵器環	(12.2)			ACF針	良好	淡灰色	10	南北金産
8	須恵器環	12.1	4.1	5.5	ACF針	普通	灰褐色	70	南北金産
9	須恵器高台付環	(10.6)			ACF	不良	灰色	20	米野産
10	須恵器鉢	(24.4)			ACF	普通	灰褐色	10	木野産

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
11	須恵器甕	(36.2)			ACF針	普通	灰褐色	10	南比企産
12	土師器台付甕	(12.6)			ABDF	普通	褐色	20	
13	土師器甕	(19.0)			ABCF	普通	橙褐色	20	
14	土師器甕	(19.8)			ABCF	普通	褐色	10	
15	土師器甕			4.6	ABCEF	普通	褐色	70	

第84図 第5号住居跡出土遺物



第5号住居跡出土遺物観察表 (第84図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環			(7.0)	ACF針	普通	灰褐色	30	南比企産 底部外周へラケズリ
2	須恵器環			(5.6)	ACF針	普通	灰褐色	20	
3	土師器甕	(19.8)			ABDF	普通	褐色	10	南比企産

第6・7・8号住居跡 (第86図)

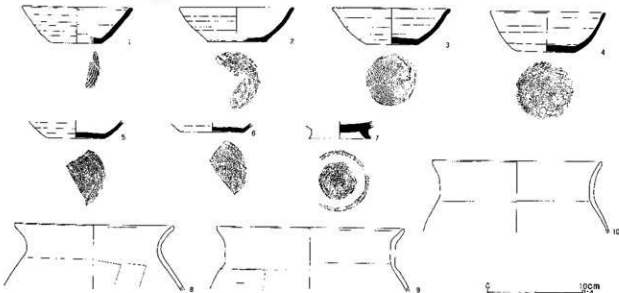
L・M-17グリッドに位置している。3軒の住居跡はS J 8→7→6の順に構築されている。平面形態はいずれも長方形である。覆土は褐色土又は暗褐色土で、焼上り土、炭化粒子を含むなど類似し、遺物も住居間で動いている可能性がある。

S J 6の平面形態は長方形で、規模は長径4.4m、短径3.1m、床面までの深さ0.3mである。カマドは南西壁中央に1基付設されていた。カマドの袖はなかったが、燃焼部は厚く焼土が残っていた。床面は平坦で、

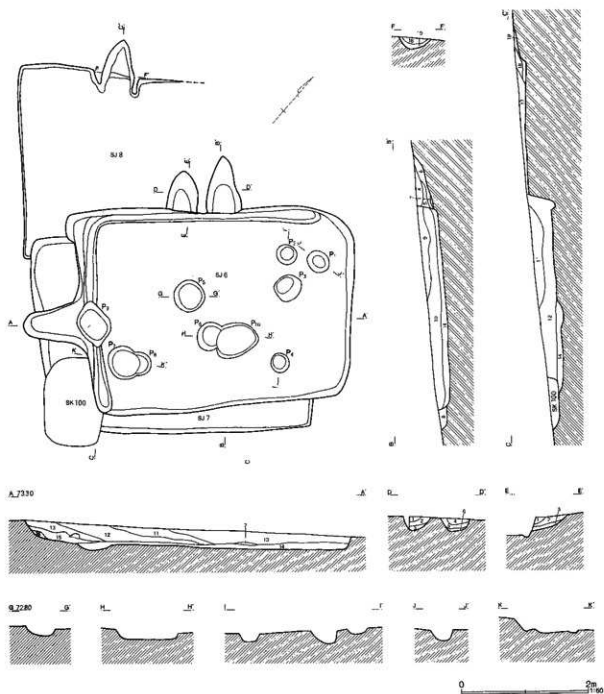
南東方向に緩やかに傾斜している。壁溝は北西及び南西の壁に沿って設けられていたが、カマド付近では袖が存在したとみられる部分にまで及んでおり、予め壁溝を掘ってから袖を構築したものと推定できる。遺物(第85図)は覆土から出土した。土師器甕は「く」の字、「こ」の字が混在する。

S J 7は大部分をS J 6と重複する。平面形態は長方形で、規模は長径4.15m、短径3.1m、床面までの深さ約0.1mと推定される。カマドは北西壁に2基並列して付設される。ピットなどは検出されなかった。

第85図 第6号住居跡出土遺物



第86図 第6・7・8号住居跡



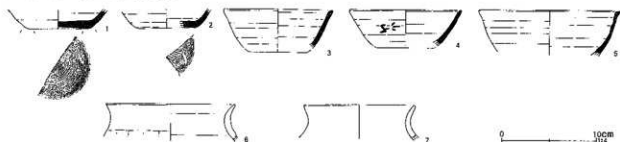
S J 6・7・8

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 炭化物少量、焼土粒子少量含む。 | 12 暗褐色土 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量含む。 |
| 2 暗褐色土 | 焼土粒子多量、炭化物少量含む。 | 13 褐色土 | 焼土粒子多量、炭化物少量、焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量含む。 |
| 3 褐色土 | 焼土粒子・炭化物少量含む。 | 14 褐色土 | 焼土粒子少量、ローム粒子多量、炭化物・ロームブロック微量含む。 |
| 4 褐色土 | 焼土粒子・炭化物微量含む。 | 15 暗褐色土 | 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物多量、ローム粒子少量含む。 |
| 5 暗褐色土 | 焼土粒子含む。 | 16 褐色土 | ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。 |
| 6 暗褐色土 | 焼土粒子・炭化物多量含む。 | 17 褐色土 | 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。 |
| 7 赤褐色土 | 焼土。 | 18 暗褐色土 | 焼土粒子・焼土ブロック多量、ローム粒子少量含む。 |
| 8 褐色土 | 焼土粒子少量含む。 | 19 暗褐色土 | 焼土粒子・炭化物少量含む。 |
| 9 暗褐色土 | 炭化物少量含む。 | | |
| 10 暗褐色土 | 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量含む。 | | |
| 11 褐色土 | 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子・粘土粒子微量含む。 | | |

第6号住居跡出土遺物観察表(第85図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環	(12.0)	3.8	(5.6)	A針砂	普通	淡灰褐色	20	風化著しい
2	須恵器環	(12.0)	3.6	(6.0)	A C F 針	普通	褐色	60	南比企産
3	須恵器環	(12.6)	3.8	5.4	A針砂	良好	青灰色	60	南比企産
4	須恵器環	(12.0)	4.2	6.1	A C F 針	普通	灰褐色	80	南比企産
5	須恵器環			(6.1)	A C F 針	良好	青灰色	30	南比企産
6	須恵器環			6.4	A針砂	普通	淡青灰色	30	南比企産
7	須恵器高台付椀			6.5	A針	良好	暗青灰色	90	南比企産
8	土師器鉢	(17.2)			A砂	普通	淡褐色	60	
9	土師器甕	(20.0)			A砂	良好	赤褐色	10	
10	土師器甕	(18.0)			A砂	普通	褐色	10	風化著しい

第87図 第7号住居跡出土遺物



第7号住居跡出土遺物観察表(第87図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環			7.4	A針砂	普通	灰色	40	南比企産 底部外周回転ヘラケズリ
2	須恵器環			(6.0)	A針砂	良好	青灰色	20	南比企産
3	須恵器環	(11.6)			A針砂	不良	淡赤褐色	20	南比企産
4	須恵器環	(11.8)			A針砂	不良	淡灰褐色	25	南比企産 外面に墨書「比」か
5	須恵器椀	(15.0)			A針	良好	淡青灰色	25	南比企産
6	土師器高台付甕	(13.6)			A B E F	普通	褐色	10	
7	土師器高台付甕	(11.6)			A砂	良好	淡赤褐色	10	

遺物(第87図)は壁際付近の床面から出土した。4の須恵器環は体部に墨書がある。

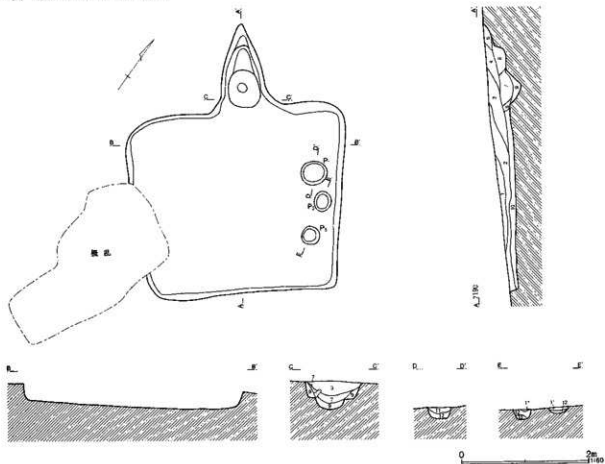
S J 8は南東側がS J 6・7と重複し、東側は確認できなかった。平面形態は長方形とみられ、規模は短径3.05m、深さ約0.1mである。カマドは北西壁中央付近に付設されている。ピットや遺物は確認できなかった。

第9号住居跡(第88図)

M-19グリッドに位置している。南東部を攪乱によって壊されているが、残存状況は良好である。平面形

態は方形で、規模は長径3.5m、短径3.1m、床面までの深さ0.25mである。覆土は暗褐色土で、焼土粒子、炭化粒子などが含まれる。カマドは北西壁中央に1基付設されていたが、軸は確認できなかった。住居跡の規模に比べてカマドはやや大型で、煙道部を長く採っている。床面は平坦で、地形に沿って緩やかに南東側に傾斜している。ピットは東壁に沿って3基検出されたが、いずれも小規模で浅く、柱穴とは考え難い。壁溝などは検出されなかった。遺物は覆土中から7点出土したが、甕類は出土しなかった。5・6の土師器環は内面は放射状と螺旋の暗文が組み合わさっている。

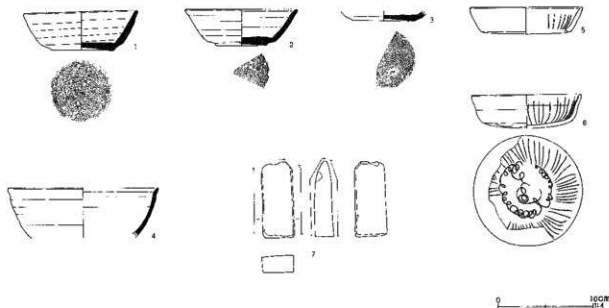
第88岡 第9号住居跡・出土遺物



S J 9

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
 2 褐色土 焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。
 3 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物少量含む。
 4 褐色土 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量含む。
 5 褐色土 焼土ブロック・ロームブロック少量含む。
 6 暗褐色土 焼土粒子・炭化物多量、焼土ブロック少量含む。

- 7 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子・焼土ブロック微量含む。
 8 暗褐色土 焼土粒子・炭化物多量、ロームブロック少量含む。
 9 暗褐色土 焼土・炭化物少量含む。
 10 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
 11 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物少量含む。
 12 褐色土 焼土粒子・炭化物少量含む。
 13 褐色土 ローム粒子少量含む。



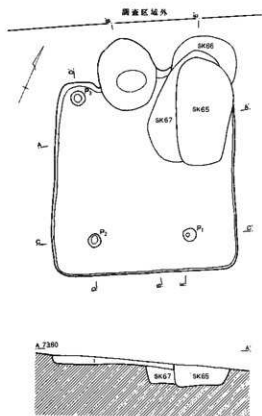
第9号住居跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器杯	12.1	3.9	6.6	A針砂	良好	青灰色	100	南比企産
2	須恵器杯	(12.0)	3.8	(5.4)	A針砂	良好	青灰色	20	南比企産
3	須恵器杯			6.3	A針	良好	青灰色	50	南比企産
4	須恵器碗	(16.0)			針砂	良好	淡青灰色	20	南比企産
5	土師器杯	(12.0)	(2.8)		B砂	普通	茶褐色	10	内面放射状障文
6	土師器杯	(11.4)	3.5		A B D F	普通	褐色	70	放射状・螺旋状障文
7	砥石	長さ8.0cm 幅3.3cm 厚さ1.8cm 重さ74.4g						90	

第10号住居跡 (第90図)

M-17グリッドに位置し、北東隅を後世の土壌SK65などと重複する。平面形態は南北に長い長方形で、規模は長径3.1m、短径2.9m、床面までの深さ0.1mと小型の住居跡である。覆土は褐色土であるが、南側は確認時に床面が露出している状態であった。カマドは北壁中央に付設されるが、壁面などが崩落し、原型を留めていなかった。ピットは3基検出された。やや浅いピットもあるが、位置的にすべて支柱穴と考えられる。

第90図 第10号住居跡

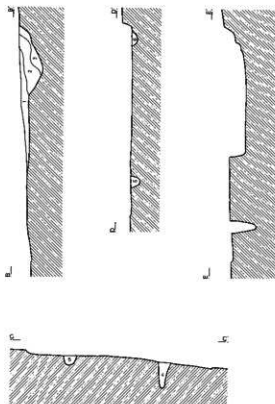
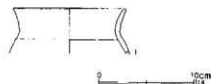


S J 10

- 1 褐色土 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量含む。
- 2 暗赤褐色土 焼土粒子多量、ロームブロック少量、炭化物微量含む。
- 3 暗赤褐色土 焼土粒子多量、炭化物少量含む。

る。貯蔵穴や溝溝は確認されなかった。遺物(第89図)は土師器小型甕の口縁部破片がカマドから1点出土した。内外面とも風化が目立つ。

第89図 第10号住居跡出土遺物



- 4 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
- 5 褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- 6 赤褐色土 焼土粒子多量、炭化物少量含む。

第10号住居跡出土遺物観察表 (第90図)

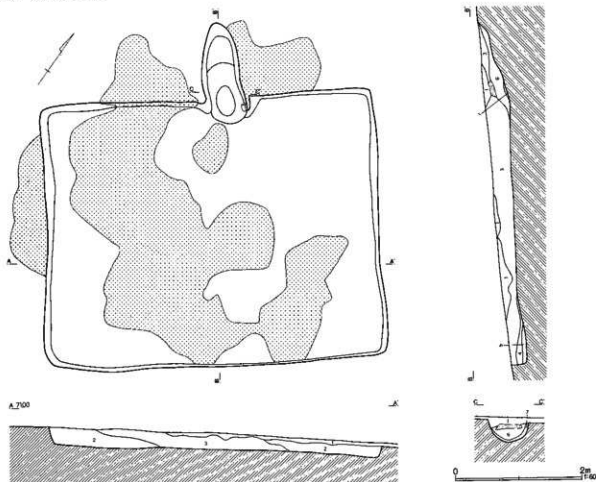
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器台付甕	(12.0)			A砂	普通	赤褐色	10	風化著しい

第11号住居跡 (第91図)

M-19・20グリッドに位置している。平面形態は東西方向に長い長方形で、規模は長径5.4m、短径4.3m、床面までの深さ0.3mである。覆土は黒褐色土で、炭化物、焼土粒子、白色粘土粒子などが含まれる。カマドは北西壁中央に1基付設されていた。袖も僅かに残存し、補強剤として緑泥片岩が使われていた。また、袖付近の覆土中にも板状の緑泥片岩がみられたことから、焚き口の天井部にも使用されていた可能性がある。床面はやや凹凸があり、地形に沿って南東側に傾斜している。スクリーントーンの範囲は住居内が床面の炭

化物、住居外が遺構確認面の炭化物を含むがりを示している。覆土中の焼土や炭化物を考慮すると、この住居跡は火災に遭つたものと推測される。また、ピットや壁溝などは検出されなかった。遺物(第92図)は覆土、カマド、床面から出土した。須恵器は坏類が多く、南比企産が主体である。10は風化が著しいが、木野産の可能性がある。須恵器甕は小破片で、外面はともに細かい斜格子叩き、12の内面は同心円文の当て具痕を明瞭に残す。土師器甕はいずれも口縁部の形態は「コ」の字である。

第91図 第11号住居跡

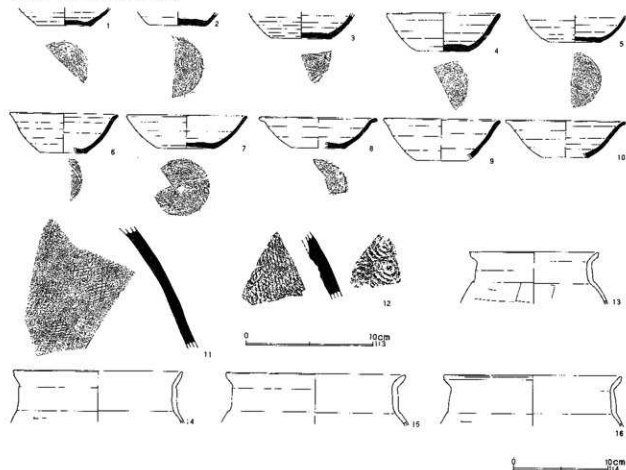


S J 11

- 1 褐色土 粘土粒子・炭化物・白色粘土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- 3 黒褐色土 炭化物少量、焼土粒子・白色粘土ブロック微量含む。

- 4 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒子・炭化物微量含む。
- 6 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物少量含む。
- 7 暗赤褐色土 焼土。

第92図 第11号住居跡出土遺物



第11号住居跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	
1	須恵器環			5.8	A礫	不良	灰白色	40		
2	須恵器環			6.0	A針	良好	淡青灰色	40	南北企産	
3	須恵器環			(6.3)	A礫	良好	青灰色	25		
4	須恵器環	(12.0)	4.0	5.0	A針砂	普通	淡青灰色	25	南北企産	
5	須恵器環			5.6	A針砂	普通	淡青灰色	40	南北企産	
6	須恵器環	(11.4)		4.1 (4.8)	A針	普通	灰褐色	20	南北企産	
7	須恵器環	(12.8)		3.5	6.0	A針	普通	灰色	50	南北企産
8	須恵器環	12.5		3.2 (5.8)	A砂	普通	淡青灰色	20		
9	須恵器環	(12.4)			A針砂	普通	灰褐色	10	南北企産	
10	須恵器環	(12.8)		3.8 (5.0)	A	不良	淡灰色	10	風化著しい	
11	須恵器環				A針砂礫	良好	淡黒褐色		南北企産	
12	須恵器環				A砂礫	良好	淡青灰色		破片	
13	土師器台付甕	(13.6)			A B砂	良好	淡赤褐色	40		
14	土師器甕	(18.0)			A B D	良好	略橙褐色	10		
15	土師器甕	(19.0)			A砂	良好	淡赤褐色	10	外面やや風化	
16	土師器甕	(19.0)			A	良好	淡橙褐色	10		

第12号住居跡 (第94図)

M-20グリッドに位置している。住居跡の北東隅には掘込みがあり、南辺の一部は床面が露出し、壁も確認

できなかった。平面形態は東西方向に長い長方形で、長径3.95m、短径2.85m、床面までの深さ0.3mである。覆土は暗褐色土で、焼土粒子、炭化物などが含ま

れる。カマドは東壁の1基付設されていたが、南側を攪乱で壊されている。既に袖はなく、カマド自体の壁も崩落していた。床面は部分的に凹凸があるが、地形に沿って南側が緩やかに傾斜している。ピットは東壁と西壁付近で3基検出された。規模や位置などから主柱穴と考えられる。壁溝や貯蔵穴などは検出されなかつ

た。遺物(第93図)は覆土から土師器環が1点出土した。全体に丸味をもち、横方向のヘラケズリで調整される。

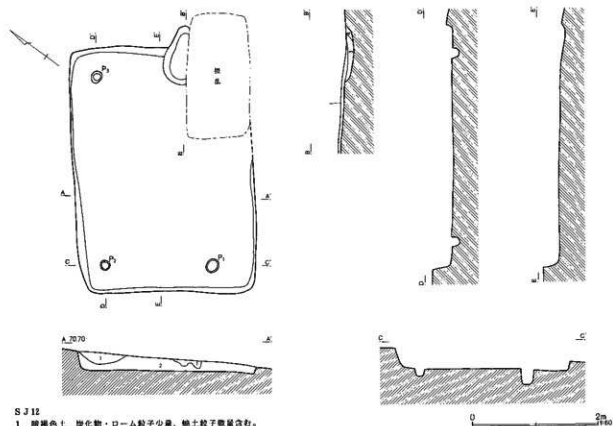
第93図 第12号住居跡出土遺物



第12号住居跡出土遺物観察表 (第93図)

番号	器種	口径	器高	炭種	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器環	(12.8)	3.5		A砂	良好	淡赤褐色	25	

第94図 第12号住居跡



S J 12

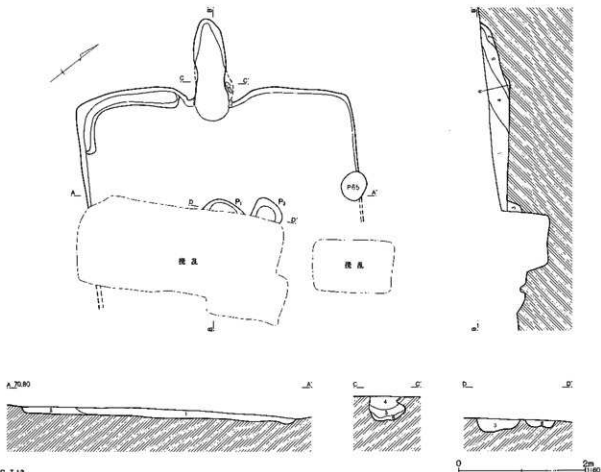
- 1 暗褐色土 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- 3 褐色土 焼土粒子微量、ロームブロック少量含む。
- 4 黒褐色土 焼土粒子多量、ロームブロック少量含む。

第13号住居跡 (第95図)

N-20グリッドに位置している。住居跡の東側約半分は、攪乱や地形によって遺構確認の位置が下がるため、検出できなかった。平面形態は方形と推定され、確認できる長径は4.4m、床面までの深さ0.3mである。

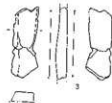
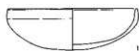
覆土は暗褐色土で、炭化物、焼上粒子、ローム粒子が含まれる。カマドは西壁中央に1基付設されていたが、袖は殆ど確認できない状態であった。焚き口付近には両袖の補強剤とみられる緑泥片岩が左右の壁に沿って出土した。床面は平坦である。壁溝は西隅付近に約2

第95図 第13号住居跡・出土遺物



S J 13

- 1 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子・ローム粒子微量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量含む。
- 3 褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・焼土ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物・ロームブロック少量含む。
- 5 褐色土 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
- 6 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子少量含む。
- 7 褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量含む。
- 8 褐色土 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量含む。



0 10cm

mにわたって検出されただけであった。ピットは住居跡中央に2基検出されたが、攪乱が入るため、各々半分別が確認された。ピットの形態は小規模な土塚状で

あり、位置的にも柱穴である可能性は低い。遺物は覆土から3点出土した。1・2の上器器環は風化が進んでいるが、底部に丸味をもつ。

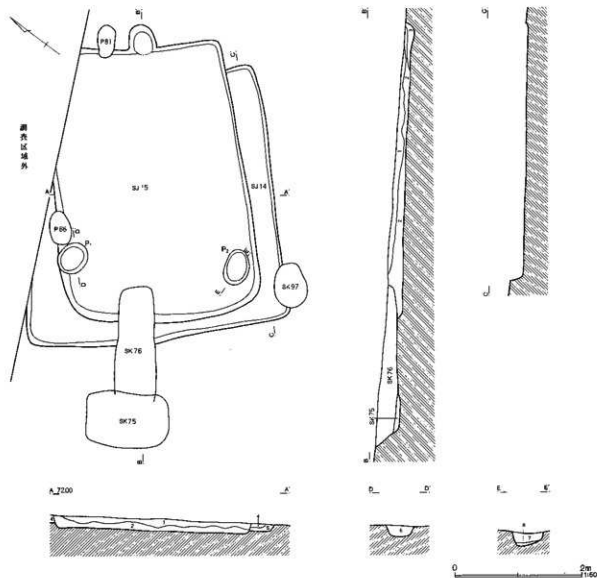
第13号住居跡出土遺物観察表 (第95図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土器器環	13.8	4.3		B砂	普通	淡橙褐色	80	内面全体に漆状の痕跡 風化著しい 赤彩の痕跡有り 風化著しい
2	土器器環	(14.0)	(4.1)		A砂	普通	淡茶褐色	20	
3	板石	残存長7.5cm 幅2.5cm 厚さ1.1cm 重さ28.1g						40	

第14・15号住居跡 (第96図)

N-19グリッドに位置し、S J 15がS J 14を切り込んで構築されている。北西側の一部が調査区域外に入るが、平面形態はS J 14が正方形、S J 15が長方形とみられる。規模はS J 14は長径4.05m、短径4 m、床面までの深さ0.1m、S J 15は長径4.3m、短径3.15m、深さ0.2mである。S J 14はS J 15が住居跡の大半にかかることにより、カマドやピットは確認できなかった。

第96図 第14・15号住居跡



S J 14・15

- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。
- 3 暗赤褐色土 焼土粒子・焼土ブロック多量、ローム粒子少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。

- 5 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- 6 褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
- 7 黒褐色土 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量含む。
- 8 褐色土 焼土粒子・ロームブロック少量含む。

第97図 第15号住居跡出土遺物



第15号住居跡出土遺物観察表 (第97図)

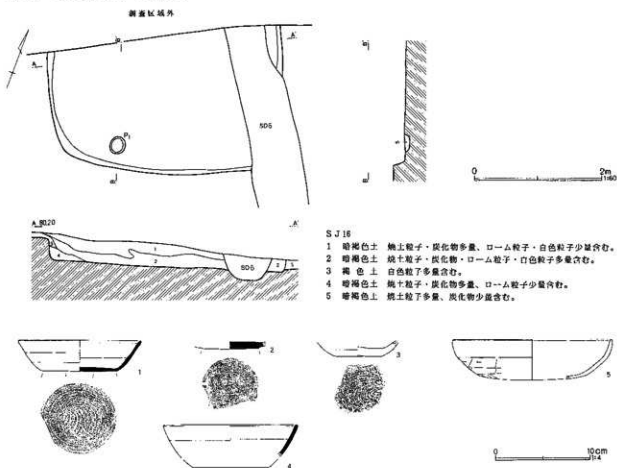
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器坏			6.8	A針	不良	淡黄灰色	50	南北企業 器面の風化著しい
2	須恵器坏			4.5	A	普通	赤褐色	30	酸化焙焼成
3	須恵器坏			(5.2)	A針砂	普通	淡茶褐色	20	南北企業 酸化焙焼成
4	土師器台付罌	(13.4)			砂	良好	淡橙褐色	20	器面風化

第16号住居跡 (第98図)

B区I-11グリッドに位置している。北側は調査区域外となるため、南側の約半分が検出された。東側を後世の溝跡SDと重複する。平面形態は方形または長方形と推定され、規模は東西3.75m、床面までの深さ0.3mである。床面はやや凹凸があり、東側に緩やかな

に傾斜している。ピットは1基検出されたが、浅く位置も壁に寄りすぎているなど不自然であることから、柱穴の可能性は低い。カマドや壁溝は検出されなかった。遺物は覆土から5点出土した。3は酸化焙焼成の坏で、他の土器と時期的に異なることから、混入した可能性がある。5は大振りの土師器坏である。

第98図 第16号住居跡・出土遺物



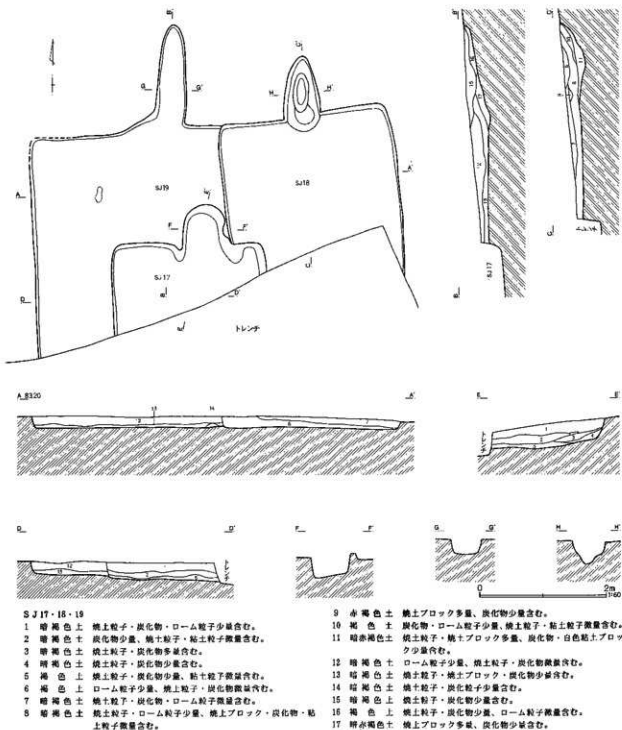
S J 16

- 1 暗褐色土 粘土粒子・炭化物多量、ローム粒子・白色粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 粘土粒子・炭化物・ローム粒子・白色粒子多量含む。
- 3 褐色土 白色粒が多量含む。
- 4 暗褐色土 粘土粒子・炭化物多量、ローム粒子少量含む。
- 5 暗褐色土 粘土粒が多量、炭化物少量含む。

第16号住居跡出土器物観察表 (第98図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環	(13.0)	3.3	7.8	A針砂	良好	淡青灰色	60	南比企産 底部外周ヘラケズリ
2	須恵器環			5.8	A針砂	良好	灰色	90	南比企産 底部全面ヘラケズリ
3	須恵器環			5.2	A砂	不良	暗橙褐色	70	酸化焙焼成
4	須恵器環	(14.2)			A針砂	良好	淡灰色	10	南比企産
5	土師器環	(17.0)	(4.3)		A B砂	良好	淡橙褐色	25	風化著しい

第99図 第17・18・19号住居跡



S J 17・18・19

- 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。
- 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子・粘土粒子微量含む。
- 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量含む。
- 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量含む。
- 褐色土 焼土粒子・炭化物少量、粘土粒子微量含む。
- 褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量含む。
- 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量含む。
- 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量含む。

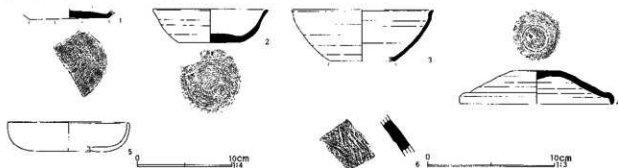
- 赤褐色土 焼土ブロック多量、炭化物少量含む。
- 褐色土 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量含む。
- 暗赤褐色土 焼土粒子・焼土ブロック多量、炭化物・白色粘土ブロック少量含む。
- 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量含む。
- 暗褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物少量含む。
- 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量含む。
- 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量含む。
- 褐色土 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量含む。
- 暗赤褐色土 焼土ブロック多量、炭化物少量含む。

第17・18・19号住居跡 (第99図)

C区B-3・4、C-3・4グリッドに位置している。南側は試掘のトレンチによって確認できなかった。住居跡は断面観察からS J 19→18→17の順で構築されている。平面形態はいずれも南北に長い長方形と推定され、カマドは北壁に設けられている。S J 17は最も小型で、規模は東西2.5m、深さ0.4mである。S J 18の規模は東西2.75m、床面までの深さ0.2mである。S J 19は最も大型の住居跡であるが、規模は不明である。

床面までの深さ0.15mである。いずれも床面は平坦で、壁溝やピットなどは検出されなかった。遺物は各々10点余り出土した。いずれも床面もしくはカマド付近から出土しており、組み合わせる土器の年代差は住居跡ごとに顕著に表れている。出土遺物は相対的に須恵器が多く、土師器は少ない。須恵器についてはすべて南比企業であるが、S J 19は器形が定型化し、底部の厚い土器も含まれる。土師器はS J 17では東北地域で見られるような平底の坏も供伴している。

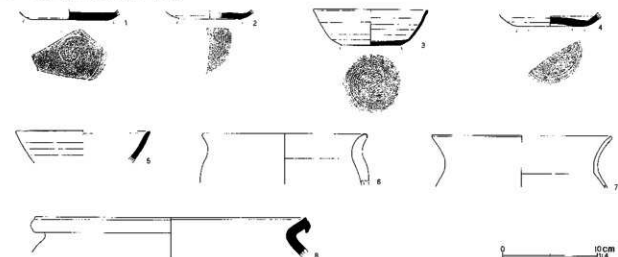
第100図 第17号住居跡出土遺物



第17号住居跡出土遺物観察表 (第100図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器坏			(8.4)	A針砂	良好	灰色	30	南比企業
2	須恵器坏	13.2	3.5	6.7	A針砂	良好	淡青灰色	60	南比企業
3	須恵器碗	(15.0)	5.4	(6.8)	A針砂	良好	淡青灰色	10	南比企業
4	須恵器蓋	(16.2)	3.5		A針砂	普通	淡青灰色	50	南比企業 天井部径5.0cm
5	土師器坏	(13.0)	3.1		A砂	良好	淡橙褐色	25	器面の風化著しい
6	須恵器妻				A砂	普通	淡青灰色		破片

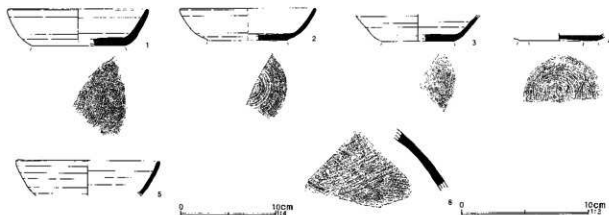
第101図 第18号住居跡出土遺物



第18号住居跡出土遺物観察表 (第101図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環			8.0	A針	普通	灰褐色	50	南北企産
2	須恵器環			(6.6)	A針砂	良好	淡青灰色	25	南北企産
3	須恵器環	11.9	3.8	6.3	A C E F針	良好	灰色	70	南北企産
4	須恵器環			(7.0)	A針	良好	青灰色	40	南北企産
5	須恵器環	(14.2)			A針	不良	淡灰褐色	30	南北企産
6	土師器袋	(17.4)			A砂	普通	暗赤褐色	10	器面全体に風化目立つ
7	土師器袋	(19.0)			A砂	普通	淡赤褐色	20	風化著しい
8	須恵器鉢	(28.6)			A砂	普通	灰白色	10	風化著しい

第102図 第19号住居跡出土遺物



第19号住居跡出土遺物観察表 (第102図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環	(15.0)	3.9	10.0	A針砂	良好	青灰色	25	南北企産
2	須恵器環	(14.2)	3.4	(8.3)	A C F針	普通	褐色	30	南北企産
3	須恵器環			(7.6)	A針	良好	青灰色	25	南北企産
4	須恵器環			8.3	A針	普通	灰褐色	50	南北企産
5	須恵器環	(15.2)			A針砂	不良	灰褐色	20	南北企産 全体に風化著しい
6	須恵器鉢				A C針	普通	淡灰褐色	破片	

第20号住居跡 (第104図)

C区B-3・4グリッドに位置している。住居跡の南側半分は攪乱が入るため、検出することはできなかった。平面形態は方形または長方形とみられ、規模は東西3.4m、床面までの深さ0.2mである。覆土は暗褐色土で、ローム粒が少量含まれる。カマドは北壁中央に1基布設されていたが、袖は確認できなかった。床面はカマド周辺に起伏があるものの、全体的には平坦で、地形に沿って緩やかに傾斜している。また、ピ

ットや壁溝については検出されなかった。遺物(第103図)は土師器環と甕の小破片がカマド右側から出土した。

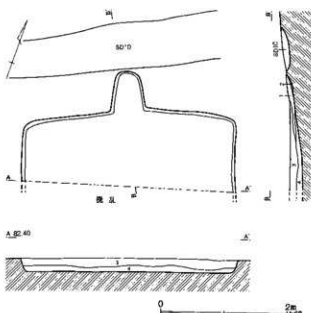
第103図 第20号住居跡出土遺物



第20号住居跡出土遺物観察表 (第103図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器環	(13.6)	3.5		A砂	普通	淡赤褐色	40	

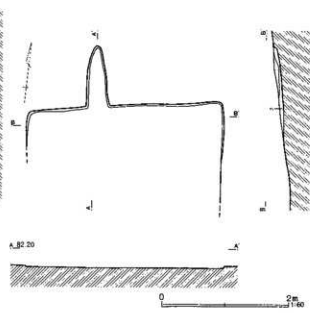
第104図 第20号住居跡



S J 20

- 1 黒褐色土 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。

第105図 第21号住居跡



S J 21

- 1 赤褐色土 焼土粒子・焼土ブロック多数、炭化物・ローム粒子少量含む。
- 2 褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。

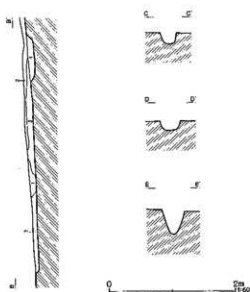
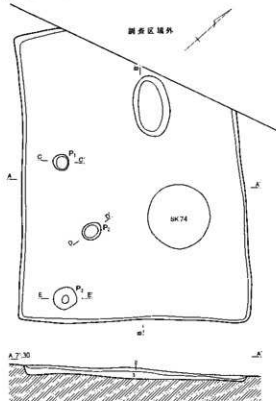
第21号住居跡 (第105図)

C区A-2グリッドに位置している。住居跡の約2/3は掘り込みが浅いことと斜面に構築されていることなどで確認できなかった。また、南側は調査区域外に入る可能性も考えられる。平面形態は、方形または長方形と推定され、規模は東西3.2m、床面までの深さ0.1mである。覆土は褐色土であるが、カマド付近では焼土を含む層が上についており、層位が二次的に変化している可能性もある。カマドは北壁やや西よりに1基付設されていた。竈はなく、燃焼部から煙道部にかけての掘り込みもやや不明瞭であった。被熱の痕跡は殆ど確認できなかった。床面は地形に沿って緩やかに傾斜し、南側では平坦になるようである。ピットや壁溝などは確認できなかった。遺物は土師器装の小破片が数点出土した。

第22号住居跡 (第106図)

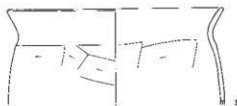
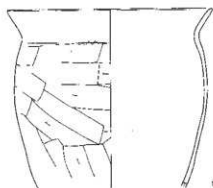
N-19・20グリッドに位置している。北側の一部が調査区域外に入るが、全体の約8割を検出した。平面形態は長方形で、規模は長径4.65m、短径3.7m、床面までの深さ0.15mである。覆土は暗褐色土で、炭化物、焼土粒子、ローム粒子が少量含まれる。床面は所々に凹凸がみられるが、平坦に近く、南東側に緩やかに傾斜している。ピットは4基検出された。P4は楕円形で、床下に設けられている。他のピットについては、柱穴の可能性も考えられるが、P2などは位置が不自然である。カマドや壁溝については検出されなかったが、焼土粒子の混入から判断すると、カマドは調査区域外の西壁に付設されているものと推測される。遺物は土師器装が床面から3点出土した。いずれも「く」の字口縁の装で、口縁部は横ナゲ、胴部は横、斜め、縦のヘラケズリで調整される。

第106図 第22号住居跡・出土遺物



S-J 22

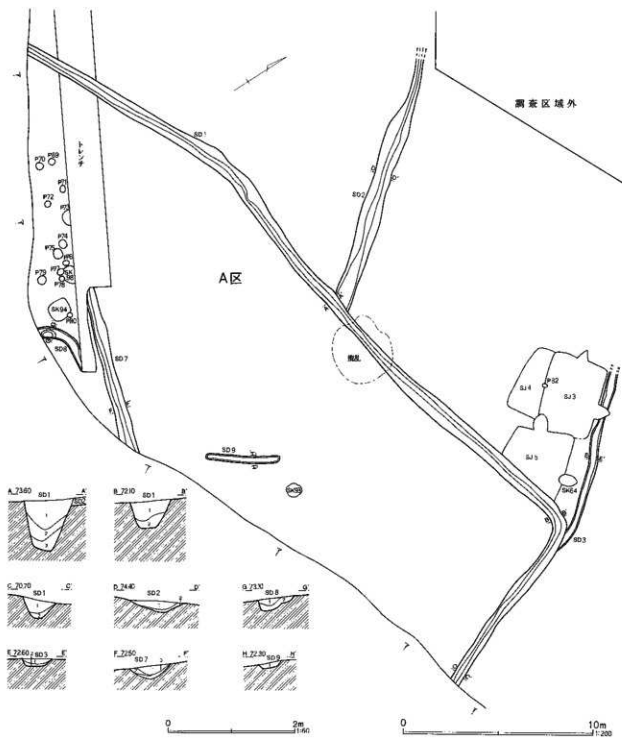
- 1 褐色土 焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子・ロームブロック微量含む。
- 3 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土粒子・焼土ブロック・炭化物多量、ローム粒子少量含む。



0 10cm

第22号住居跡出土遺物観察表 (第106図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	土師器甕	(21.8)			A B砂	良好	赤褐色	40	
2	土師器甕	(20.0)			A砂	普通	淡赤褐色	20	
3	土師器甕	(23.0)			A砂	普通	赤褐色	20	



SD 1

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 2 黄褐色土 粘土粒を多量含む。
- 3 黄褐色土 粘土粒下・粘土ブロック多量含む。

SD 2

- 1 褐色土 ローム粒子・粘土粒下・炭化飯粒を少量含む。
- 2 褐色土 粘土ブロック少量含む。

SD 3

- 1 褐色土 ローム粒子多量、炭化物・軽石粒子少量含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒子多量、炭化物・軽石粒子・粘土ブロック少量含む。

SD 7

- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・白色粒子少量含む。
- 2 褐色土 粘土粒子少量含む。
- 3 褐色土 粘土ブロック多量含む。

SD 8

- 1 暗褐色土 炭化物多量、焼土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量、粘土ブロック微量含む。

SD 9

- 1 褐色土 粘土粒を多量、粘土粒下・炭化物少量含む。

(2) 溝跡

溝跡は13条検出された。いずれも幅が1m、深さが0.5mに満たない小規模な溝である。遺物はいくつかの溝跡で伴うものの、周辺の住居跡などから混入している可能性もあり、確実に年代を捉えられるものはなかった。

第1～3号溝跡 (第107図)

第1号溝跡はJ-14-K-18グリッドにかけて約47mが検出された。K-17グリッド付近で直角に曲がる溝跡である。規模は幅0.55～0.75m、深さ0.3～0.8mで、斜面部に近いほど浅くなる。断面形態は箱葉研である。南側は斜面で確認できなかったが、底面の位置がある程度揃えられており、何らかの区画溝と考えられる。遺物(第110図-1・2・4・6)は10点余り出土した。2は灯明皿として使用されたものとみられる。3は鉢または火鉢と考えられる。第2号溝跡はL-15-K-16にかけて約14mが検出された。K-16グリッド付近で後世のSD1と重複する。規模は幅0.85m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。第3号溝跡はL-17グリッド付近で約10mにわたって検出された。SD1が直角に曲がるあたりで重複する。規模は幅0.5m、深さ0.1mである。断面形態は箱形である。遺物は出土しなかった。

第4～6号溝跡 (第108図)

第4号溝跡はH-12・13グリッドにかけて約8m検出された。東側は擾乱に入るか、斜面部に向かっている。断面の形態は楕円状で、規模は幅約1m、深さ0.25mである。遺物は出土しなかった。第5号溝跡はH-11-I-11グリッドにかけて約12mが検出された。断面形態は浅い箱形で、規模は幅0.9m、深さ0.1mの南北溝である。遺物は出土しなかった。第6号溝跡はG-11-I-11グリッドにかけてSD5と平行して約25mが検出された。断面形態はU字形または緩やかな箱形で、規模は幅0.8m、深さ0.3～0.4mの南北溝である。遺物(第110図-5・7)は炊器器裏の破片が2点

出土したが、SD6はSJ16と重複しており、この2点は住居跡からの混入と考えられる。

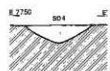
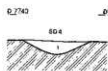
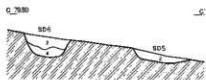
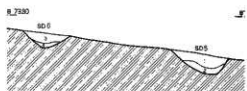
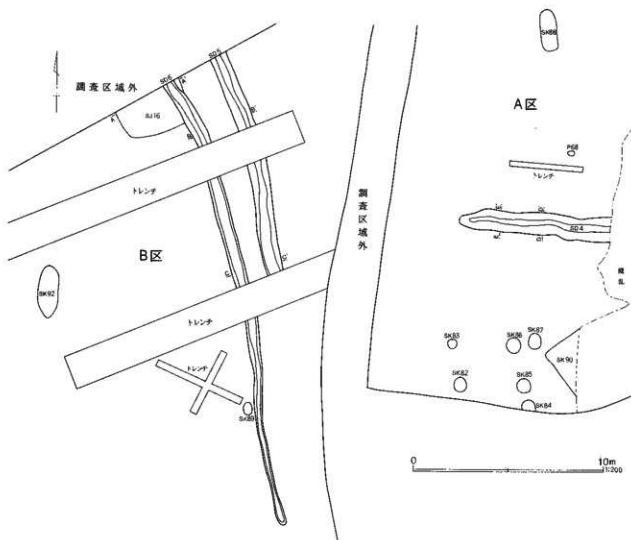
第7～9号溝跡 (第107図)

第7号溝跡はJ-15・16グリッドにかけて約9m検出された。西側は試掘トレンチの中で収まり、東側は谷部に入り、確認することはできなかったが、大規模な溝とは考え難い。断面形態は鉢鉢状で、規模は幅0.65m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。第8号溝跡はJ-15グリッド付近で、約3mが検出された。弧状の溝で、部分的に土塚状の掘り込みがある。断面形態は箱形で、規模は幅0.55m、深さ0.15mである。遺物(第110図-3)は高台付坪が1点出土した。高台は足高高台で、坯部の内面は黒色処理されている。第9号溝跡はJ-16グリッドに位置し、全長は約4mである。断面形態は浅い箱形で、規模は幅0.3m、深さ0.1mである。遺物は出土しなかった。

第10～13号溝跡 (第109図)

第10号溝跡はB-2～5グリッドにかけて約28mが検出された。谷部に入る東側は確認できなかった。断面形態は浅い箱形で、規模は幅0.6m、深さ0.1mである。遺物は出土しなかった。第11号溝跡はD-2～6グリッドにかけて約31mが検出された。D-2グリッドで後世のSD13と重複し、東側ほど幅が狭くなる。断面形態は浅い箱形で、規模は幅0.65m、深さ0.1mである。遺物は出土しなかった。第12号溝跡はD-4～6グリッドにかけて約15mが検出された。SD11と平行し、SD11とは反対に東側に向かって幅が広くなり、谷部に入るあたりから遺構の存在が不明瞭になる。断面形態は浅い箱形で、規模は幅0.8m、深さ0.15mである。遺物は出土しなかった。第13号溝跡はD-2グリッドに位置し、約5mが検出された。弧状になっており、SD11を切り込んで構築している。断面形態は浅い箱形で、規模は幅0.6m、深さ0.1mである。遺物は出土しなかった。

第108図 第4～6号溝跡



SD 4

1 暗褐色土 白色粒子多量、炭化物少量、焼土粒子散見内む。

SD 5・6

1 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物散見含む。

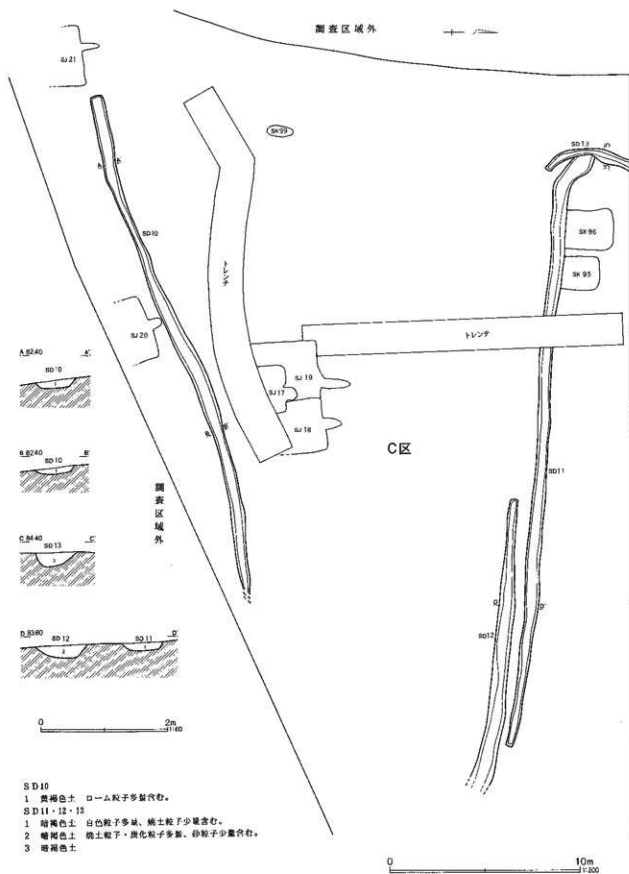
2 褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。

3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。

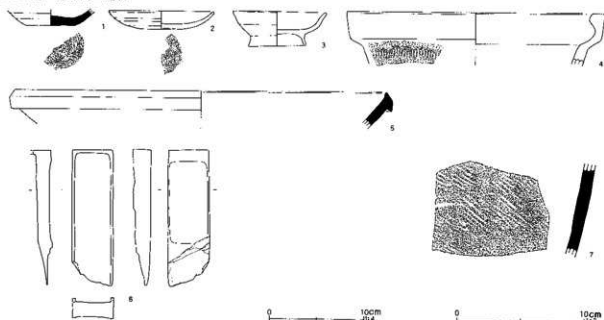
4 褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量含む。



第109図 第10～13号溝跡



第110図 溝跡出土遺物



溝跡出土遺物観察表 (第110図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	地成	色調	残存率	備考
1	須恵器環		5.0	A砂	普通	淡灰褐色	40	SD1	
2	皿	(11.2)	1.9	(4.4) 砂	普通	淡黄褐色	30	SD1 瀬戸美濃産または唐津産	
3	かわらけ	9.9	3.6	6.0 A砂	普通	淡黒褐色	95	SD8 高台付	
4	火鉢	(27.6)		A砂	普通	淡黒褐色	10	SD1	
5	須恵器甕	(39.6)		A砂	良好	灰色	10	SD16	
6	瓦	残存長14.2cm	幅4.314.2cm	厚さ1.914.2cm	重さ190.1g		80	SD1 表面は砥石として再利用している	
7	須恵器甕			A針砂	良好	青灰色	破片	SD6	

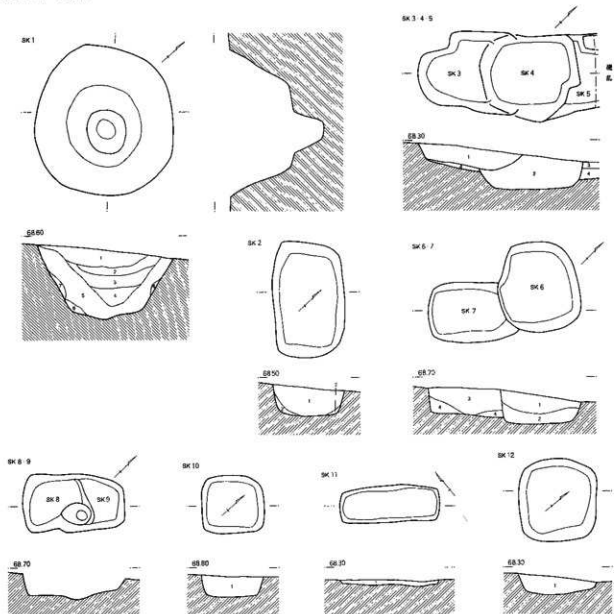
(3) 土壌 (第111~117図)

土壌は100基検出された。土壌の分布範囲はA区で平安時代の集落の周辺と南東の斜面部の2箇所、C区で1箇所概ね3箇所に集中する。平面形態には円形、楕円形、不整形、長方形などがある。断面の形状にはU字形、皿形、箱形などがある。規模は様々であるが、長径が約2m、短径が約1m、深さが約0.3mの土壌が主体を占める。出土遺物には須恵器環、土師器環、甕、かわらけ、陶器碗、皿、古銭などがある。これらの遺物の中には住居跡などの周辺に位置している場合は土壌内に入ってしまうこともあり、必ずしも伴わないことも考えられる。以下、遺物(第118図)の出土した土壌について記す。

1はSK19から出土した須恵器環の破片である。2・3はSK33から出土した須恵器環と土師器甕である。甕は厚いつくりである。4~6はSK62から出土した土師器環と甕である。環は破片であるが、やや大振りの平底と考えられる。SK63からは18枚の古銭が

まとめて出土した(第119図)。いずれも「波銭」と呼ばれる四文銭で、16枚が文久永寶、2枚が寛永通寶である。文久永寶の「文」の文字は少なくとも三種類以上あり、異なる鑄造所で鑄造された可能性がある。SK63は長径が1mにも満たない楕円形の土壌で、底面にも起伏があることから、墓塚とは考え難い。何らかの祭祀に関連する可能性も考えられる。7はSK69から出土した土師器甕で、口縁部は「コ」の字化している。9はSK70から出土した土師器環の小破片で、風化が著しい。10~13はSK77から出土した土師器甕で、いずれも「コ」の字口縁である。SK80は長径1.76m、短径1.21m、深さ0.25mの楕円形の土壌である。遺物はかわらけ(第118図-14)、小環(第118図-15)各1点、古銭(第120図-1~5)が5点出土した。古銭は寛永通寶3点(銅銭)、熙寧元寶(?), 他の1点は判読できなかった。出土遺物から墓塚とみられる。SK81は長径1.44m、短径1.2m、深さ0.44mの円形に

第111図 土塚(1)



SK 1

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化粒子・焼土粒子少量、白色粒子微量含む。
- 2 暗褐色土 炭化粒子・焼土粒子多量、ローム粒子少量、黒色粒子微量含む。
- 3 暗褐色土 炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子・黒色粒子微量含む。
- 4 暗褐色土 炭化粒子・焼土粒子少量、ロームブロック・黒色粒子微量含む。

SK 2

- 1 褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・白色粒子微量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量含む。

SK 3・4・5

- 1 褐色土 ローム粒子多量、炭化粒子少量含む。
- 2 褐色土 ロームブロック多量含む。
- 3 褐色土 ローム粒子多量、炭化粒子微量含む。
- 4 褐色土 ローム粒子多量含む。

SK 6・7

- 1 褐色土 ローム粒子多量、黒色粒子少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 3 褐色土 ローム粒子少量、炭化粒子少量含む。
- 4 褐色土 ローム粒子多量、白色粒子少量含む。

SK 10

- 1 褐色土 ローム粒子多量、白色粒子少量含む。

SK 11

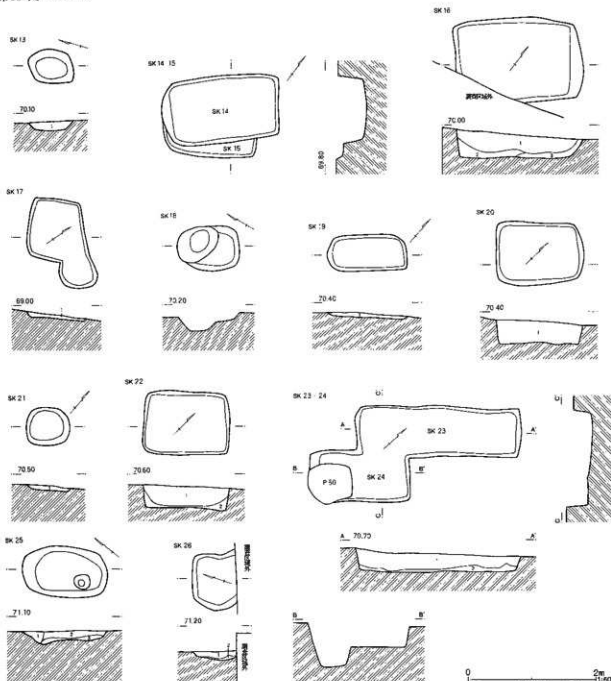
- 1 褐色土 ローム粒子多量、黒色粒子・白色粒子少量含む。

SK 12

- 1 褐色土 ローム粒子多量、炭化粒子・白色粒子少量、微量含む。

0 2m

第112図 土壌(2)



SK 13

1 褐色土 ローム粒子多量、炭化物・ロームブロック少量、腐炭層含む。

SK 16

1 褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量含む。

2 褐色土 ローム粒子多量含む。

3 褐色土 ローム粒子多量、白色ブロック少量含む。

SK 17

1 黄褐色土 炭化物・ローム粒子・白色ブロック少量含む。

SK 19

1 褐色土 ローム粒子多量、黒色ブロック少量含む。

SK 20

1 褐色土 炭化ブロック・ローム粒子・ロームブロック・白色ブロック少量含む。

SK 21

1 褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量含む。

SK 22

1 褐色土 ローム粒子多量含む。

2 褐色土 ローム粒子・白色ブロック少量含む。

SK 23

1 褐色土 ローム粒子多量、炭化粒子少量含む。

2 褐色土 ローム粒子多量、炭化粒子少量、白色ブロック少量含む。

SK 25

1 褐色土 ローム粒子多量、白色粒子少量含む。

2 褐色土 ローム粒子多量、白色粒子少量含む。

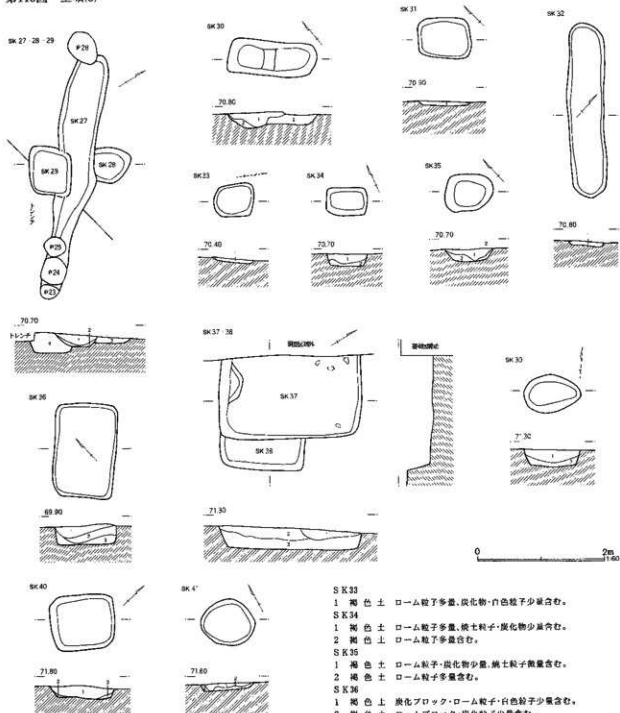
3 褐色土 ローム粒子多量含む。

SK 26

1 褐色土 ローム粒子多量含む。

2 褐色土 ローム粒子多量含む。

第113図 土壌(3)



SK 27・28・29

- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量、白色粒子微量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量、白色粒子少量含む。
- 3 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 4 暗褐色土 白色粒子微量含む。

SK 30

- 1 褐色土 ローム粒子多量、粘土粒子少量、白色粒子微量含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック少量含む。

SK 31

- 1 褐色土 ローム粒子・白色粒子少量含む。

SK 32

- 1 褐色土 炭化物・粘土粒子・ローム粒子少量、白色粒子微量含む。

SK 33

- 1 褐色土 ローム粒子多量、炭化物・白色粒子少量含む。

SK 34

- 1 褐色土 ローム粒子多量、粘土粒子・炭化物少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量含む。

SK 35

- 1 褐色土 ローム粒子・炭化物少量、粘土粒子微量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量含む。

SK 36

- 1 褐色土 炭化ブロック・ローム粒子・白色粒子少量含む。
- 2 褐色土 ロームブロック・炭化粒子少量含む。
- 3 褐色土 ローム粒子・炭化粒子少量含む。

SK 37

- 1 褐色土 炭化物・粘土粒子多量、ローム粒子少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3 褐色土 ローム粒微少量含む。

SK 39

- 1 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子少量含む。

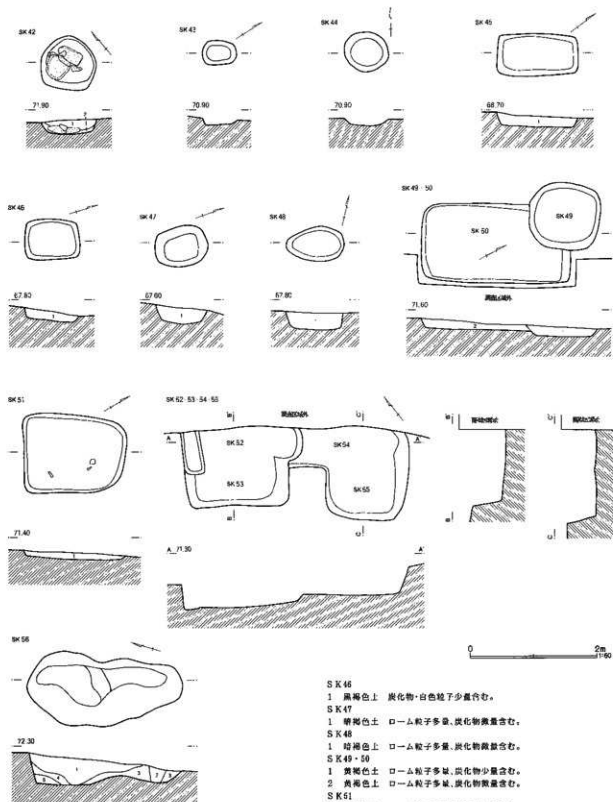
SK 40

- 1 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子少量含む。

SK 41

- 1 褐色土 ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量含む。

第114図 土壇(4)



SK 42

- 1 暗褐色土 炭化物・焼土粒子・ローム粒子少量、白色粒子微量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量含む。

SK 45

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化物微量含む。

SK 46

- 1 黄褐色土 炭化物・白色粒子少量含む。

SK 47

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化物微量含む。

SK 48

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化物微量含む。

SK 49-50

- 1 黄褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量含む。

SK 49

- 2 黄褐色土 ローム粒子多量、炭化物微量含む。

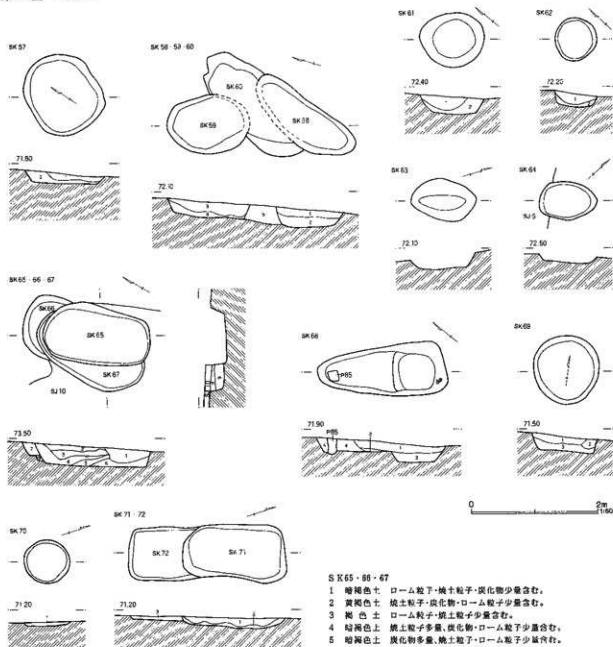
SK 51

- 1 黄褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量含む。

SK 56

- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量含む。
- 3 褐色土 ローム粒子多量、明褐色粒子少量含む。
- 4 黄褐色土 ローム粒子少量、炭化物少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

第115圖 土坑(5)



S K 57

- 1 褐色土 炭化物・ローム粒子少量、白色粒子・明褐色粒子微量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子多量、炭化物・黒色粒子少量含む。

S K 58・59・60

- 1 褐色土 ローム粒子微量含む。
- 2 暗褐色土 黒褐色ブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多量、白色粒子少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒・白色粒子少量含む。

S K 61

- 1 褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量含む。

S K 62

- 1 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子少量含む。
- 2 黄褐色土 ローム。

S K 65・66・67

- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量含む。
- 2 黄褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。
- 3 褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子少量含む。
- 5 暗褐色土 炭化物多量、焼土粒子・ローム粒子少量含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子少量含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
- 9 暗褐色土 炭化物多量、ローム粒子・焼土粒子少量含む。

S K 68

- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3 褐色土 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化物ブロック微量含む。
- 4 褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。

S K 69

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子多量、焼土ブロック・ロームブロック少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロック多量含む。

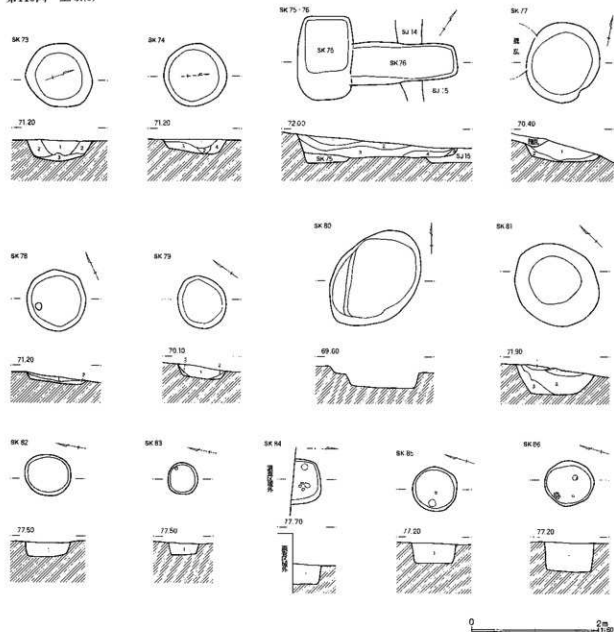
S K 70

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。

S K 71・72

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- 2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロック多量含む。

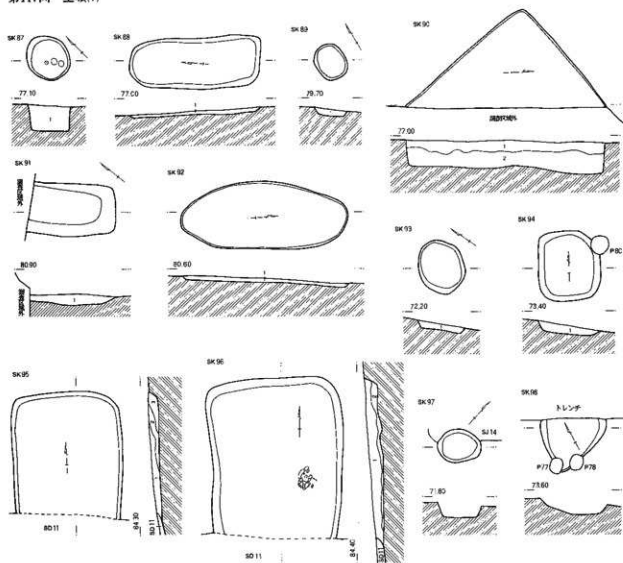
第116図 土塚(6)



- SK 73**
 1 黒褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
 3 褐色土 ローム粒子多量含む。
- SK 74**
 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量含む。
 2 暗褐色土 焼土粒子少量、ロームブロック微量含む。
 3 褐色土 ロームブロック多量、焼土粒子少量含む。
 4 褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
- SK 76**
 1 褐色土 ロームブロック多量、炭化物・灰少量含む。
 2 暗褐色土 炭化物・ローム粒が多量、焼土粒子少量含む。
 3 黒褐色土 炭化物多量、焼土粒子・ローム粒少量含む。
 4 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
 5 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
- SK 77**
 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
 2 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒子・炭化物多量含む。

- SK 78**
 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
 2 暗褐色土 ローム塊。
- SK 79**
 1 暗褐色土 炭化物多量、焼土粒子・ローム粒少量含む。
 2 暗褐色土 ローム粒子多量含む。
- SK 81**
 1 暗褐色土 焼土粒子・ローム粒子多量、炭化物少量含む。
 2 褐色土 ローム粒多量、焼土粒子・炭化物少量含む。
 3 褐色土 焼土粒子・ローム粒少量含む。
- SK 82**
 1 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- SK 83**
 1 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- SK 84**
 1 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- SK 85**
 1 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子微量含む。
- SK 86**
 1 暗褐色土 炭化物少量、焼土粒子微量含む。

第117図 土壇(7)



SK 87

1 黒褐色土 炭化物少量、焼土粒子少量含む。

SK 88

1 褐色土 ローム粒子・白色粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。

SK 89

1 暗褐色土 炭化粒子・ローム粒子・白色粒子少量、焼土粒子微量含む。

SK 90

1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量含む。

2 褐色土 炭化物少量、灰白色粘土微量含む。

SK 91

1 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量含む。

SK 92

1 暗褐色土 ローム粒子・白色粒子多量、焼土粒子少量、炭化物微量含む。

SK 93

1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物多量含む。

SK 94

1 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子少量含む。

SK 95

1 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子多量、白色粒子少量含む。

2 暗褐色土 焼土粒子少量含む。

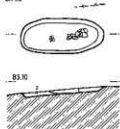
3 暗褐色土 白色粒子少量含む。

SK 96

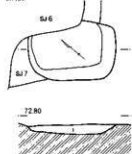
1 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子・白色粒子少量含む。

2 褐色土 1層と地山黄褐色土層との需移の層。

SK 98



SK 100



SK 99

1 暗褐色土 炭化物多量、焼土粒子・ローム粒子少量含む。

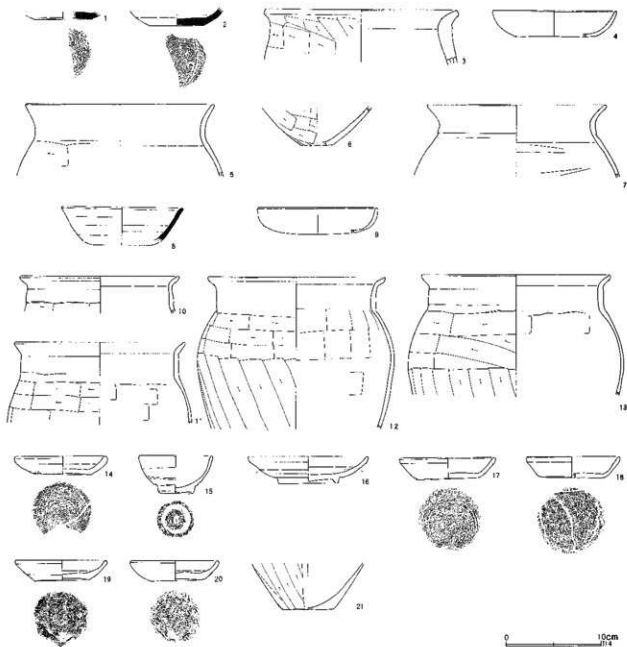
2 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量、白色粒子微量含む。

SK 100

1 褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子少量、暗褐色ブロック微量含む。

0 2m
1:50

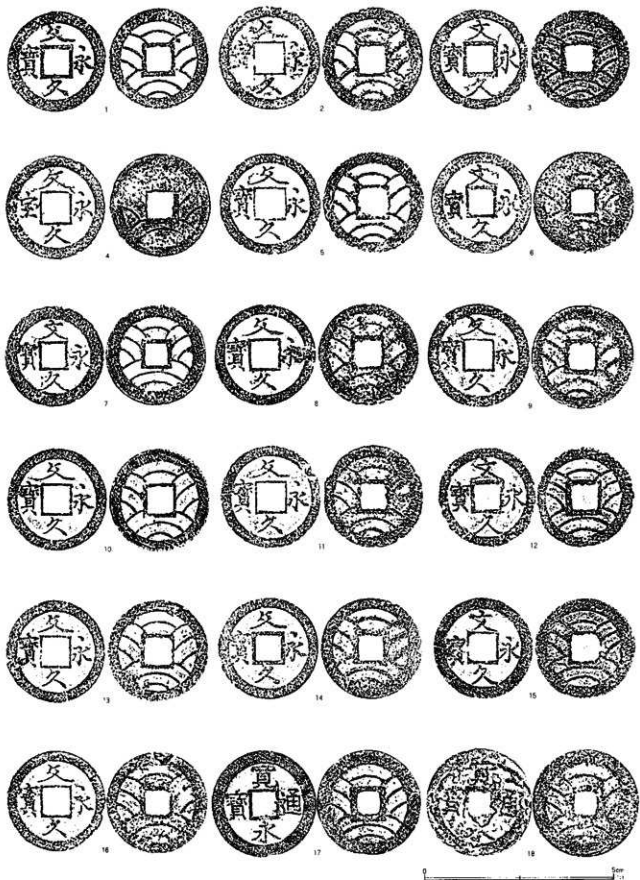
第118圖 土壙出土遺物

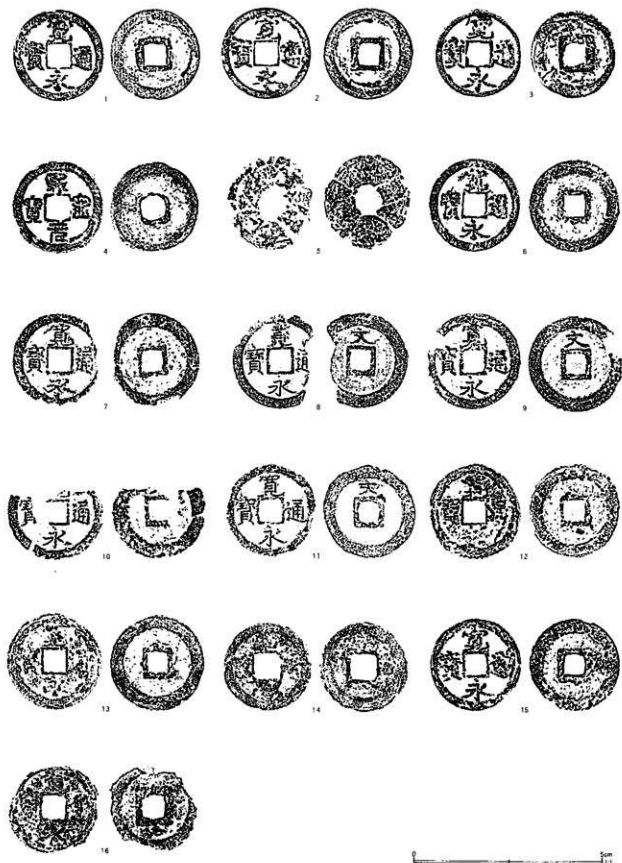


土壙出土遺物觀察表 (第118圖)

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	燒成	色调	残存率	備考
1	須惠器环		(6.0)		ACF針	普通	暗褐灰色	40	SK19 南北企産
2	須惠器环		5.8		A針砂	良好	淡赤褐色	40	SK33 南北企産
3	土師器腰	(20.2)			A砂櫻	普通	暗赤褐色	10	SK33
4	土師器环	(13.0)	2.7		AB砂	普通	淡橙褐色	10	SK62
5	土師器腰	(20.0)			砂	普通	淡赤褐色	20	SK62
6	土師器腰		(3.6)		A砂	普通	淡褐色	30	SK62
7	土師器腰	(19.0)			砂	普通	淡赤褐色	30	SK69
8	須惠器环	(13.0)			A針	良好	灰色	25	SK64 南北企産
9	土師器环	(12.5)			ABC F	普通	褐色	20	SK70
10	土師器腰	(16.5)			ABC F	普通	褐色	10	SK77
11	土師器腰	(17.8)			ABD F	普通	褐色	15	SK77

第119図 第63号土壙出土古銭





第10表 日向遺跡土壌一覽表

番号	位 置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1	L30	N-44°-W	2.31	2.21	1.48
2	M·L30	N-48°-E	1.82	1.14	0.44
3	M29·M30	N-47°-E	(1.62)	1.24	0.44
4	M29·M30	N-47°-E	1.56	1.34	0.58
5	M29·M30	N-47°-E	-	-	0.26
6	M29	N-44°-E	1.44	1.31	0.52
7	M29	N-46°-E	(1.16)	0.94	0.44
8	L29	N-47°-E	-	0.89	0.34
9	M29·L29	N-41°-W	(1.05)	0.80	0.29
10	L29	N-49°-E	0.99	0.91	0.33
11	M29	N-41°-W	1.60	0.58	0.10
12	N28	N-52°-E	1.30	1.26	0.28
13	L28	N-75°-W	0.69	0.53	0.15
14	L28·L29	N-37°-E	1.86	1.05	0.44
15	L28·L29	N-37°-E	1.41	-	0.11
16	L28	N-39°-E	2.03	1.34	0.42
17	M27	N-32°-W	1.36	0.94	0.08
18	L27	N-60°-W	0.98	0.70	0.25
19	L27	N-44°-E	1.26	0.55	0.05
20	L27	N-47°-E	1.40	0.90	0.42
21	L26	N-44°-W	0.70	0.59	0.08
22	L26	N-47°-W	1.37	1.01	0.35
23	L26	N-47°-E	2.64	0.77	0.29
24	L26·K26	N-48°-W	-	0.80	0.32
25	K26	N-52°-E	1.36	0.82	0.21
26	K26-27	N-21°-E	0.90	-	0.14
27	L27	N-32°-W	-	0.63	0.19
28	L27	N-59°-E	0.56	-	0.09
29	L27·K27	N-32°-W	0.76	0.65	0.32
30	K26	N-39°-W	1.42	0.54	0.22
31	K26	N-16°-W	0.84	0.64	0.08
32	L26·K26	N-47°-W	2.74	0.54	0.06
33	L28	N-82°-E	0.63	0.51	0.06
34	L26	N-26°-W	0.64	0.45	0.20
35	L26	N-42°-W	0.73	0.38	0.19
36	M27·L27	N-45°-E	1.49	0.99	0.33
37	K25	N-60°-E	2.28	-	0.51
38	K25	N-30°-W	1.35	-	0.37
39	K26	N-6°-E	0.92	0.61	0.29
40	J25	N-48°-E	1.03	0.88	0.20
41	J25	N-28°-E	0.86	0.73	0.13
42	I25	N-41°-W	0.89	0.84	0.24
43	K27	N-38°-E	0.54	0.38	0.12
44	K27	N-35°-W	0.70	0.64	0.09
45	M27	N-55°-E	1.29	0.67	0.19
46	N27	N-75°-E	0.87	0.62	0.15
47	N27	N-71°-E	0.86	0.64	0.25
48	N26	N-15°-E	0.92	0.52	0.26
49	I24	N-63°-E	1.11	1.04	0.15
50	I24	N-63°-E	2.38	1.25	0.14

番号	位 置	主軸方向	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
51	I24	N-60°-E	1.63	1.21	0.11
52	K25-26	-	(1.91)	-	0.72
53	K25	-	(1.13)	-	0.56
54	K26	-	-	-	0.54
55	K26	-	-	(1.31)	0.46
56	L18	N-74°-W	2.48	1.01	0.47
57	L18	N-57°-W	1.28	0.13	0.17
58	L18	N-74°-E	(1.84)	0.68	0.29
59	L18	N-74°-W	(1.31)	0.88	0.24
60	L18	N-57°-E	2.01	(0.87)	0.29
61	M18	N-51°-W	1.01	0.86	0.27
62	M18	N-47°-W	0.67	0.66	0.22
63	L18	N-73°-E	1.05	0.69	0.21
64	L17	N-49°-E	0.93	0.61	0.10
65	M17	N-59°-W	1.72	(0.84)	0.30
66	M17	N-59°-W	-	-	0.21
67	M17	N-35°-E	-	-	-
68	N·M19	N-51°-W	2.06	0.72	0.29
69	M19	N-80°-W	1.08	1.04	0.28
70	M19	N-72°-E	0.74	0.68	0.08
71	N·M19	N-72°-E	1.63	0.81	0.17
72	N·M19	N-72°-E	-	0.84	0.08
73	N19-20	N-71°-E	1.06	1.01	0.32
74	N20	N-86°-E	1.01	1.00	0.24
75	N19	N-55°-W	1.31	0.87	0.43
76	N19	N-34°-E	-	0.64	0.29
77	N20	N-78°-W	1.26	1.16	0.31
78	L19	N-24°-W	0.96	0.95	0.09
79	L20	N-55°-W	0.82	0.76	0.19
80	L20	N-35°-E	1.76	1.21	0.25
81	M20	N-44°-E	1.32	1.28	0.44
82	G12	N-81°-W	0.73	0.62	0.21
83	H12	N-11°-E	0.51	0.47	0.18
84	G13	-	-	0.71	0.32
85	G13	N-74°-W	0.70	0.40	0.31
86	H13	N-73°-W	0.78	0.72	0.45
87	H13	N-44°-W	0.68	0.67	0.41
88	I13	N-85°-W	2.09	0.78	0.07
89	G11	N-90°-W	0.56	0.46	0.11
90	II·G13	-	-	-	0.51
91	H10	N-51°-W	-	0.84	0.19
92	II10	N-86°-E	2.66	1.04	0.06
93	J16	N-33°-E	0.82	0.74	0.11
94	J15	N-1°-W	1.09	0.99	0.19
95	D3	N-88°-E	-	1.76	0.16
96	D3	N-90°-E	-	2.05	0.22
97	N19	N-43°-E	0.70	0.52	0.22
98	J15	N-29°-W	-	-	0.21
99	C·B2	N-85°-E	1.31	0.55	0.06
100	L17	N-60°-W	1.39	0.94	0.14

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
12	土師器甕	(18.5)			ABCF	普通	橙褐色	30	SK77
13	土師器甕	(19.8)			ABDF	普通	褐色	20	SK77
14	かわらけ	9.5	2.0	6.0	ABEF	普通	明褐色	80	SK80
15	小坏	7.6	4.0	3.2	CEF	普通	茶褐色	100	SK80 瀬戸美濃産
16	皿	12.6	2.8	6.3	A	良好	乳白色	100	SK81 瀬戸美濃産
17	かわらけ	9.8	2.9	6.6	ABCF	普通	明褐色	90	SK82
18	かわらけ	9.8	2.3	6.6	ABCF	普通	明褐色	90	SK82
19	かわらけ	9.4	2.3	5.7	ABCF	普通	明褐色	100	SK83
20	かわらけ	9.1	2.2	5.3	ABCF	普通	明褐色	100	SK85
21	土師器甕			(5.4)	ABCF	普通	暗褐色	20	SK92

古銭観察表(1) (第119図)

番号	貨幣	直径/cm	孔径/cm	重さ/g	出土遺構
1	文久永貨	2.65	0.60	3.61	SK63
2	文久永貨	2.70	0.70	3.66	SK63
3	文久永貨	2.60	0.70	2.66	SK63
4	文久永貨	2.70	0.70	3.97	SK63
5	文久永貨	2.65	0.80	3.39	SK63
6	文久永貨	2.65	0.60	3.59	SK63
7	文久永貨	2.65	0.60	3.47	SK63
8	文久永貨	2.65	0.70	3.33	SK63
9	文久永貨	2.70	0.65	3.68	SK63
10	文久永貨	2.65	0.70	3.06	SK63
11	文久永貨	2.65	0.65	3.61	SK63
12	文久永貨	2.60	0.60	2.49	SK63
13	文久永貨	2.65	0.70	3.87	SK63
14	文久永貨	2.65	0.60	4.13	SK63
15	文久永貨	2.65	0.60	2.49	SK63
16	文久永貨	2.60	0.60	4.68	SK63
17	寛永通寶	2.70	0.60	4.00	SK63
18	寛永通寶	2.80	0.60	4.44	SK63

古銭観察表(2) (第120図)

番号	貨幣	直径/cm	孔径/cm	重さ/g	出土遺構
1	寛永通寶	2.40	0.60	2.74	SK79
2	寛永通寶	2.40	0.60	3.16	SK79
3	寛永通寶	2.35	0.55	3.22	SK79
4		2.40	0.60	3.36	SK79
5		(2.35)	(0.60)	1.20	SK79

古銭観察表(3) (第120図)

番号	貨幣	直径/cm	孔径/cm	重さ/g	出土遺構
6	寛永通寶	2.40	0.55	3.12	SK80
7	寛永通寶	2.40	0.55	2.12	SK80
8	寛永通寶	2.45	0.50	1.83	SK80
9	寛永通寶	2.50	0.55	2.44	SK80
10	寛永通寶	2.40	0.50	1.13	SK80

近い土壌で、出土遺物から墓塚と考えられる。遺物は瀬戸美濃産の灰釉皿(第118図-16)と古銭が5点出土した。古銭はすべて寛永通寶で、そのうち3点はいわ

古銭観察表(4) (第120図)

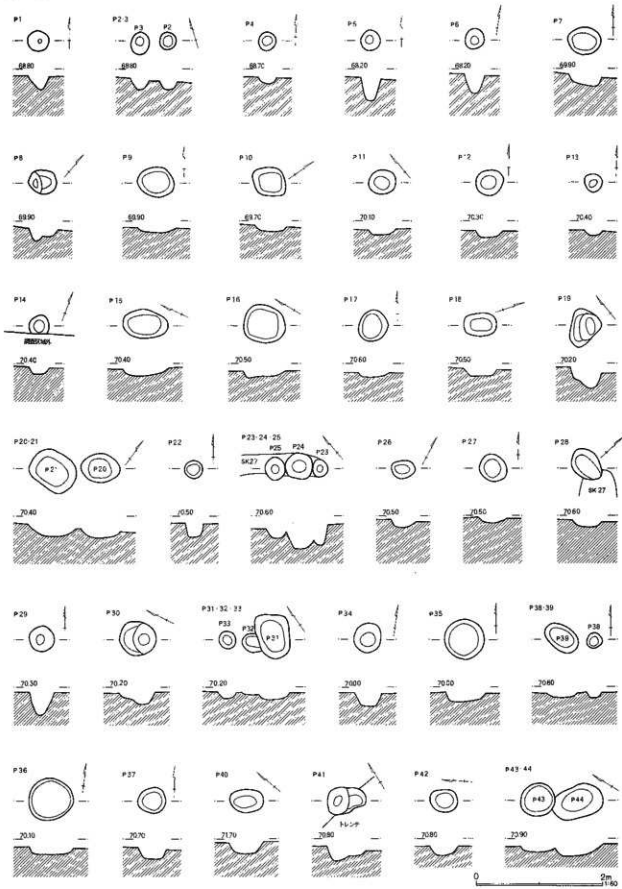
番号	貨幣	直径/cm	孔径/cm	重さ/g	出土遺構
11	寛永通寶	2.40	0.55	2.29	SK83
12		2.45	0.60	3.17	SK83
13		2.45	0.50	3.17	SK83
14		2.40	0.70	2.50	SK83
15	寛永通寶	2.40	0.50	3.26	SK83
16		2.45	0.60	1.78	SK83

ゆる「文銭」である。SK82からはかわらけが2点(第118図-17・18)出土した。円形で、小規模であるが墓塚の可能性が有る。SK83はSK82よりも小規模な土壌であるが、遺物の出土状況が似ており、墓塚とみられる。遺物はかわらけ(皿・第118図-19)と古銭(第120図-11~16)が6点出土した。判読できないものが約半数あるが、大半は寛永通寶とみられ、11は「文銭」である。SK85はSK82と同規模で、墓塚と考えられる。かわらけ(第118図-20)が1点出土した。SK92からは土師器甕の底部付近の破片が出土した。周辺の遺構から混入したものと考えられる。

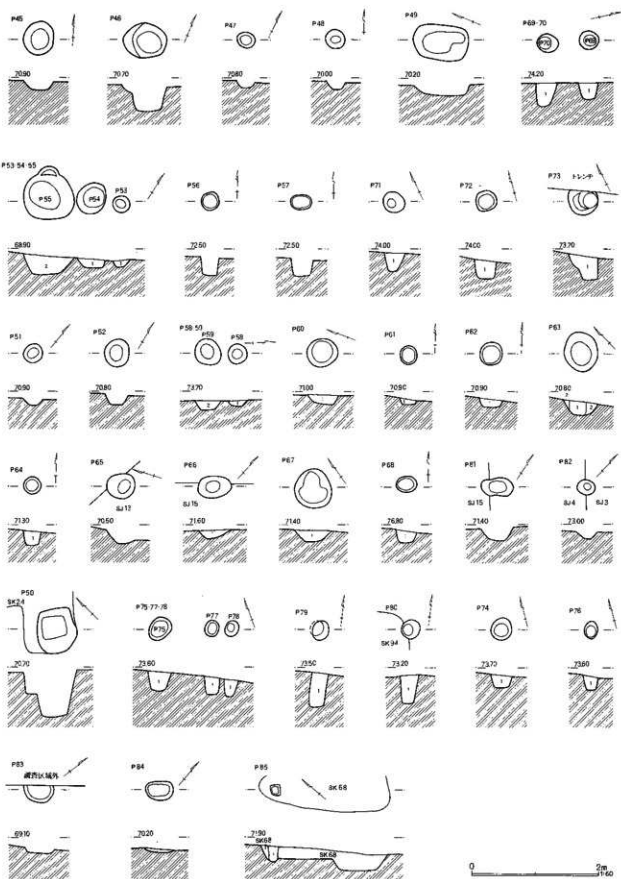
(4) ピット状遺構 (第121・122図)

ピットは主に調査区ではA区南西部に集中する傾向があり、B・C区では殆ど検出されなかった。平面形態は円形または楕円形が主体で、僅かであるが方形もみられる。ピットについては台地の高い部分に平安時代の集落が展開することから、掘立柱建物跡の存在も考えられたが、方向性や寸法などが一致せず単独ピットとして掲載した。遺物は出土しなかった。

第121図 ビット(I)



第122図 ビット(2)



P53・P54・P55

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、炭化物微量含む。
2 褐色土 白色粒子少量含む。

P58・P59

- 1 褐色土 炭化物・ローム粒子少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。

P60

- 1 褐色土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子多量含む。

P61・P62・P64・P66

- 1 暗褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量含む。

P63

- 1 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量含む。
2 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量含む。

P67

- 1 黄褐色土 炭化物多量、焼土粒子・ローム粒子・ロームブロック少量含む。

P68

- 1 暗褐色土 炭化物・ローム粒子少量含む。

P69～P80

- 1 黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・白色粒子多量含む。

P81

- 1 褐色土 ローム粒子多量含む。

P83

- 1 暗褐色土 ローム粒子・ローム粒子多量含む。

第11表 日向遺跡ピット一覧表

番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
1	L29	円形	0.34	0.32	0.22
2	L29	円形	0.29	0.27	0.14
3	L29	楕円形	0.36	0.29	0.16
4	L29	円形	0.30	0.28	0.11
5	M29	円形	0.33	0.31	0.36
6	M29	円形	0.33	0.31	0.30
7	L28	楕円形	0.54	0.44	0.15
8	L28	不整形楕円形	0.46	0.37	0.20
9	L28	楕円形	0.59	0.48	0.09
10	L28	方形	0.51	0.45	0.10
11	L28	円形	0.43	0.38	0.10
12	L28	円形	0.44	0.40	0.12
13	K・L28	円形	0.29	0.29	0.08
14	K28	円形	(0.30)	0.32	0.11
15	K28	楕円形	0.72	0.46	0.13
16	K28	方形	0.67	0.59	0.11
17	K27	円形	0.50	0.47	0.07
18	K27	長方形	0.53	0.37	0.12
19	L28	不整形	0.61	0.49	0.29
20	L27	楕円形	0.63	0.45	0.13
21	L27	方形	0.76	0.59	0.16
22	L27	円形	0.29	0.29	0.20
23	K27	円形	0.28	0.25	0.33
24	K27	円形	0.43	0.41	0.35
25	K27	円形	0.37	0.32	0.17
26	K27	楕円形	0.38	0.29	0.12
27	L27	円形	0.45	0.43	0.09
28	L27	楕円形	0.58	0.43	0.09
29	L27	円形	0.40	0.40	0.37
30	L27	楕円形	0.59	0.53	0.19
31	L28	方形	0.71	0.51	0.12
32	L28	楕円形	(0.28)	0.30	0.05
33	L28	円形	0.27	0.27	0.11
34	L27	円形	0.47	0.43	0.21
35	L27	円形	0.63	0.63	0.15
36	L26	円形	0.71	0.67	0.13
37	L26+27	円形	0.45	0.41	0.17
38	L26	円形	0.25	0.25	0.10
39	L26	楕円形	0.59	0.37	0.08
40	K26	楕円形	0.53	0.37	0.18
41	K26	不整形	0.61	0.41	0.21
42	K26	楕円形	0.44	0.35	0.14
43	K26	円形	0.55	0.53	0.10

番号	位置	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
44	K26	楕円形	0.81	0.49	0.18
45	K26	円形	0.53	0.48	0.14
46	K27	楕円形	0.70	0.55	0.43
47	K27	円形	0.29	0.25	0.11
48	L27	円形	0.31	0.31	0.13
49	L28	方形	0.88	0.55	0.18
50	K・L26	方形	0.71	0.63	0.75
51	K27	円形	0.30	0.30	0.11
52	K27	円形	0.44	0.39	0.17
53	M26	円形	0.28	0.27	0.11
54	M26	円形	0.50	0.46	0.14
55	M26	楕円形	0.84	0.79	0.31
56	M18	円形	0.30	0.29	0.29
57	M18	方形	0.34	0.23	0.27
58	M16	円形	0.31	0.31	0.10
59	M16	円形	0.43	0.40	0.15
60	N20	円形	0.49	0.45	0.15
61	M・N20	円形	0.30	0.27	0.10
62	M20	円形	0.36	0.35	0.13
63	M20	楕円形	0.63	0.53	0.21
64	M19	円形	0.28	0.28	0.22
65	N20	円形	0.45	0.40	0.18
66	N19	楕円形	0.53	0.35	0.13
67	L19	円形	0.62	0.60	0.18
68	I13	楕円形	0.33	0.25	0.19
69	J14	円形	0.31	0.29	0.26
70	J14	円形	0.35	0.30	0.37
71	J14+15	円形	0.36	0.32	0.29
72	J15	円形	0.34	0.32	0.29
73	J15	円形	0.47	(0.38)	0.37
74	J15	円形	0.36	0.33	0.21
75	J15	楕円形	0.40	0.31	0.31
76	J15	円形	0.28	0.21	0.22
77	J15	円形	0.26	0.22	0.27
78	J15	円形	0.26	0.21	0.27
79	J15	円形	0.31	0.27	0.35
80	J15	円形	0.31	0.29	0.45
81	N19	楕円形	0.51	0.27	0.20
82	L17	円形	0.29	0.24	0.12
83	M27	円形	0.48	(0.27)	0.68
84	L27	楕円形	0.45	0.29	0.06
85	N19	方形	0.16	0.16	0.25

(5) 炭焼窯跡

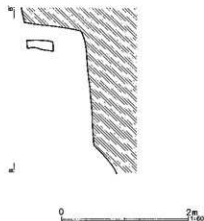
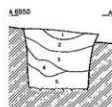
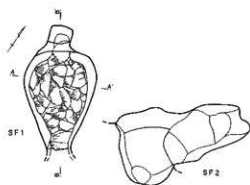
炭焼窯跡はA区中央部で5基検出された。第1～4号炭焼窯跡は隣接して構築されているが、第5号炭焼窯跡はやや離れた台地の高い地域に構築されていた。平面形態は窯体の奥が膨らむ卵形で、いずれも同規模である。前庭部は殆どが焚き口部分が崩落し、地盤が流れていることもあり、灰原の広がりが掴みきれなかった。主軸は第2号炭焼窯跡を除いて、西または北西である。遺物は出土しなかったため、構築された時期には特定できないが、類例は比企郡滑川町中尾遺跡、年中坂A・B遺跡であわせて3基検出されている。窯構造は半地下式と推定される。

第1・2号炭焼窯跡 (第123図)

第1・2号炭焼窯跡はK-20グリッドに位置している。第1号炭焼窯跡の平面形態は、奥壁に近い部分が膨らむ卵形で、規模は全長約2m、焚き口幅0.4m、最大幅1.2m、深さ0.95mである。窯跡は焚き口、燃焼

部、焼成部、煙道部からなるが、前庭部は確認できなかった。底面は平坦であるが、焚き口から奥壁に向かって僅かに傾斜が設けられ、奥壁から煙道部にかけては直角に近い角度で立ち上がる。煙道部は奥壁側が崩落していた。底面には全体に緑泥片岩が敷き詰められ、煙道部にも方形に加工した緑泥片岩が使用されていた。覆土中には焼上、炭化物が多量に含まれ、天井部については焼土ブロックが多量に下層にみられることから、崩落しているものと推定される。また、被熱部分は壁の外側約20cmにまで及んでいた。第2号炭焼窯跡はSF1の東側に隣接している。斜面部に位置し、焼上や炭化物が殆どみられないことや主軸や形態なども異なることから、実際には炭焼窯として機能しなかったものとみられる。また、図示しなかったが、断面は平坦な面が少なく、土塊状の形態を採っており、遺構としても疑問が残る。

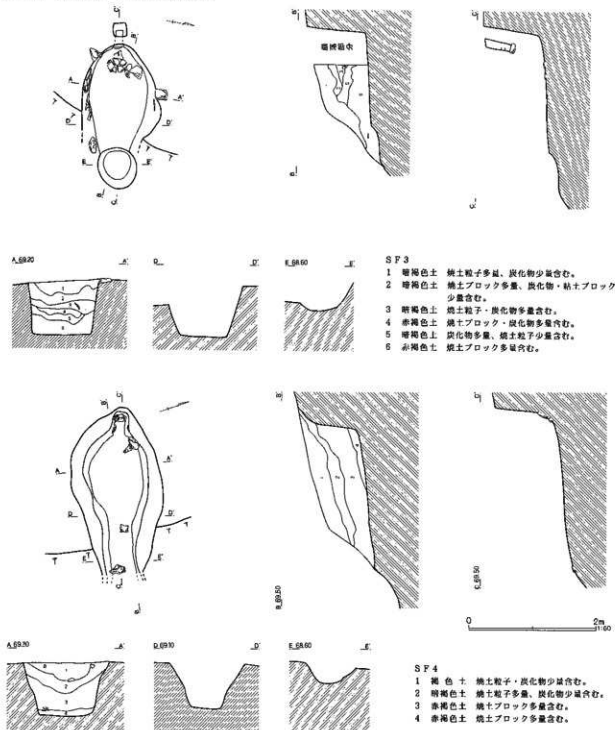
第123図 第1・2号炭焼窯跡



SF1

- 1 赤褐色土 焼土粒・焼土ブロック・砂粒少量含む。
- 2 褐色土 焼土粒・炭化物少量含む。
- 3 赤褐色土 焼土ブロック・炭化物多量含む。
- 4 赤褐色土 焼土ブロック少量含む。
- 5 赤褐色土 焼土ブロック多量含む。

第124図 第3(上)・4号(下)炭焼窯跡



第3・4号炭焼窯跡 (第124図)

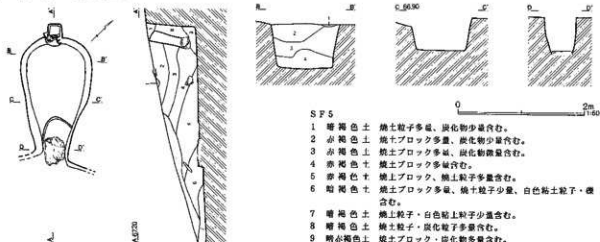
第3号炭焼窯跡はSF-1・2の東側、L-21グリッドに位置している。平面形態は卵形で、規模は全長2.6m、最大幅1.25m、深さ0.85mである。窯跡は燃焼部、焼成部、煙道部が検出され、焚き口部は明確に確認できなかったが、ピット状の掘り込みが窯の形態が

絞り込まれる位置に設けられており、この付近が該当するものと考えられる。底面は平坦で、焚き口付近から奥壁にかけて緩やかな傾斜がつけられている。底面、側壁、奥壁には軸約15cm程の厚さで被熱部分が認められた。覆土は焼土や炭化物を多く含むが、下層にはSF1と同様に焼土ブロックが多量に堆積しており、天

井部が崩落した可能性がある。第4号炭焼窯跡はSF3の北側、M-21グリッドに位置している。平面形態は卵形で、規模は全長2.6m、焚き口幅0.65m、最大幅1.45m、深さ0.85mである。窯跡は焚き口、燃焼部、焼成部、煙道部からなるが、前庭部は確認されなかった。

窯体内では煙道部に崩落がみられたが、他の残存状

第125図 第5号炭焼窯跡



SF5

- 1 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物少量含む。
- 2 赤褐色土 焼土ブロック多量、炭化物少量含む。
- 3 赤褐色土 焼土ブロック多量、炭化物微量含む。
- 4 赤褐色土 焼土ブロック多量含む。
- 5 赤褐色土 焼土ブロック、焼土粒子多量含む。
- 6 暗褐色土 焼土ブロック多量、焼土粒子少量、白色粘土粒子・微含む。
- 7 暗褐色土 焼土粒子・白色粘土粒子少量含む。
- 8 暗褐色土 焼土粒子・炭化物多量含む。
- 9 暗赤褐色土 焼土ブロック・炭化物多量含む。

第5号炭焼窯跡 (第125図)

第5号炭焼窯跡はP-23グリッドに位置している。平面形態は卵形で、規模は全長2.2m、焚き口幅0.4m、最大幅1.15m、深さ0.7mと他の窯に比べてやや小振りである。底面は平坦で、他の窯ほどには勾配は少

なく、煙道部はほぼ垂直につくられている。覆土には焼土や炭化物が多量に含まれる。天井は断面の観察からは、焼成部から煙道部付近が崩落していると推測される。また、焚き口付近には底面に長径約50cm、短径約30cm、厚さ5cmの緑泥片岩が敷かれていた。

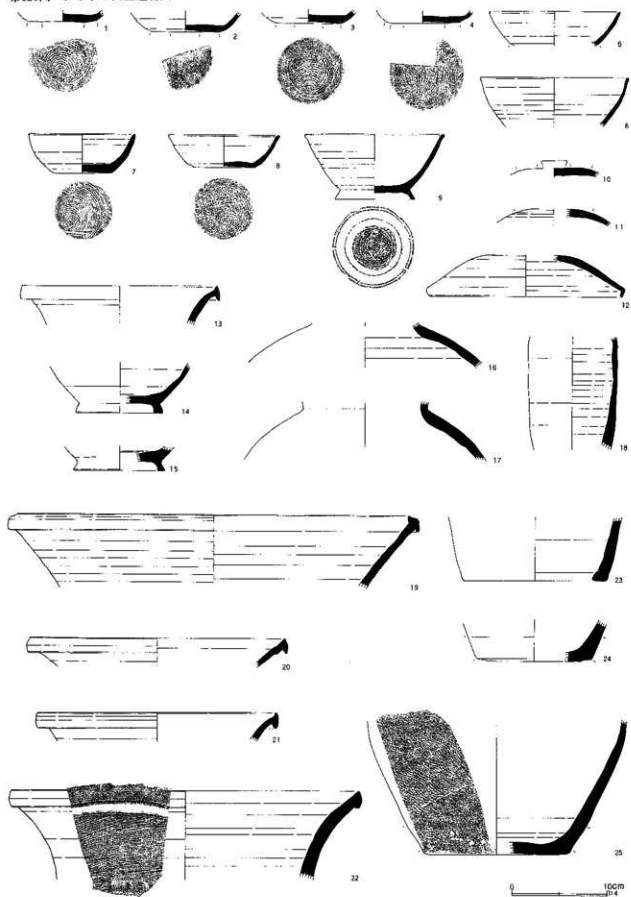
(6) グリッド出土遺物(第126～129図)

日向遺跡では遺構以外からも遺物が多数出土した。調査区内には谷地形が入っており、遺構を伴わない遺物は谷周辺に集中している。出土遺物には須恵器環、碗、蓋、長頸瓶、甕、壺G、灰釉碗、鉢、土師器環、鉢、片口鉢、上釜、かわらけ、磁石、磁器碗、鉢、丸瓦、平瓦などがある。須恵器については南比企産が主体で、一部産地不明のものがある。以下、観察表に記載できなかった丸瓦、平瓦(第129図)について記す。

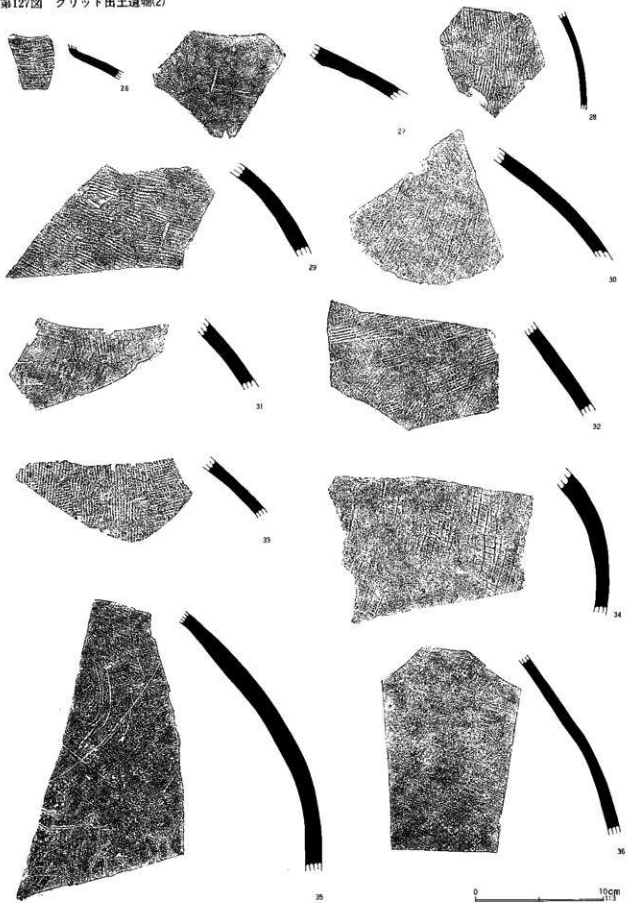
57～59は丸瓦の破片である。57、59は薄手、58は厚手である。凸面はいずれもへラケズリ、凹面は58は布

目を縦方向にナデ消している。59には布の縦じま合わせ目が見える。60～70は平瓦の破片である。60～67は凸面が縄目、凹面は布目である。縄目や布目は61と64は類似するが、他はいずれも異なる。68は凸面がへラケズリ後、縦方向のナデ、凹面は大部分を縦方向のナデで布目を消している。69、70は薄手、69は凸面は縦方向のナデまたはへラケズリ、凹面は布目を残す。70は胎土が他の10点とは異なり、きめ細かい。側面の面取りも鋭く、全体的な印象は比企郡滑川町寺谷廃寺の平瓦の薄手の一群に類似する。60～69は一枚つくりであるが、70は桶巻きつくりの可能性がある。

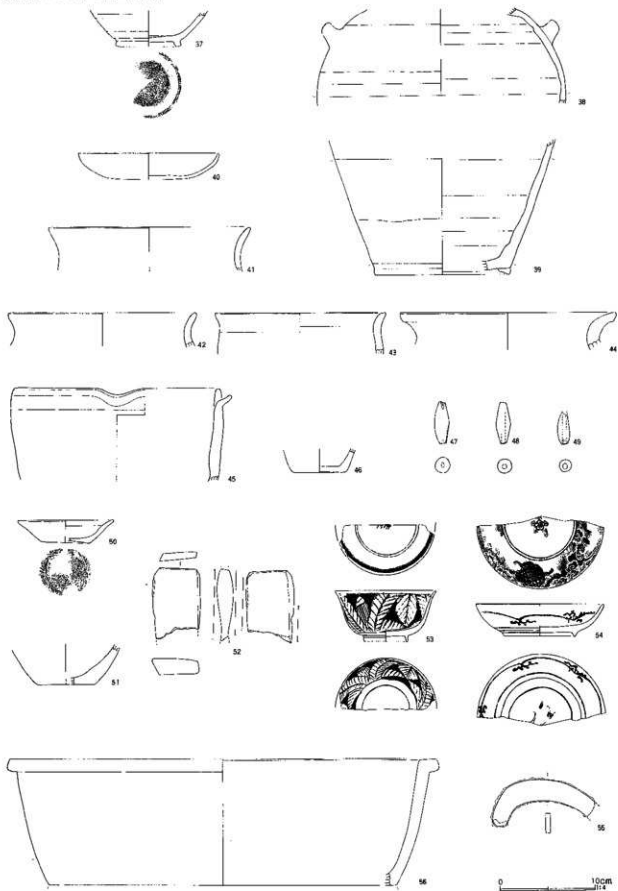
第126図 グリッド出土遺物(1)



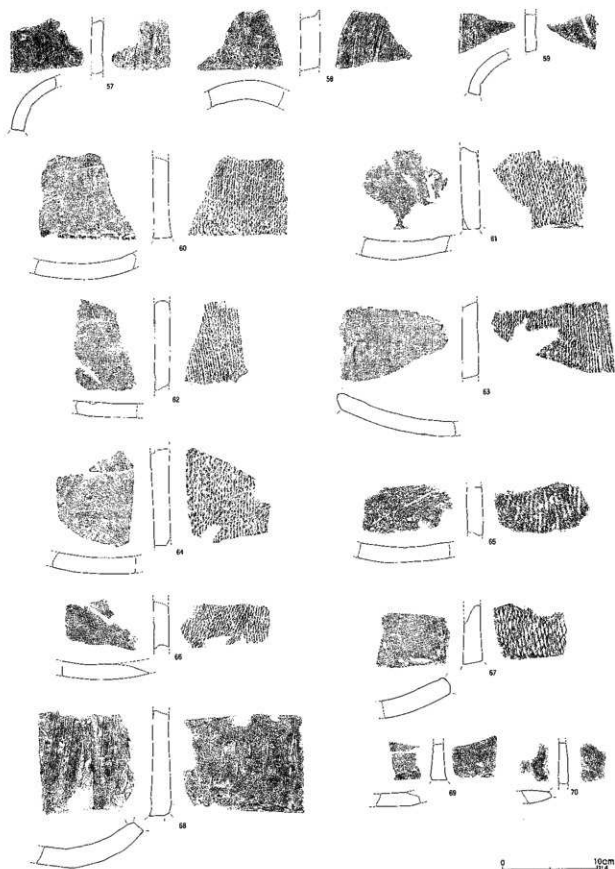
第127図 グリッド出土遺物(2)



第128図 グリッド出土遺物(3)



第129図 グリッド出土遺物(4)

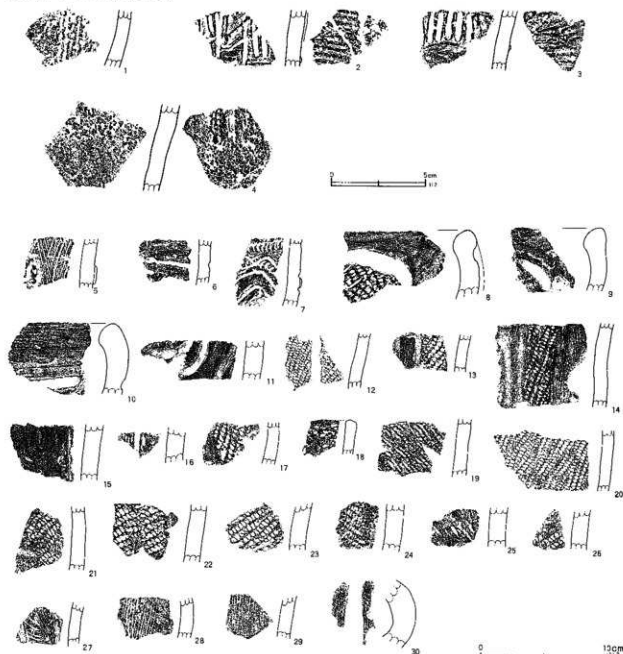


グリッド出土遺物観察表 (第126~128回)

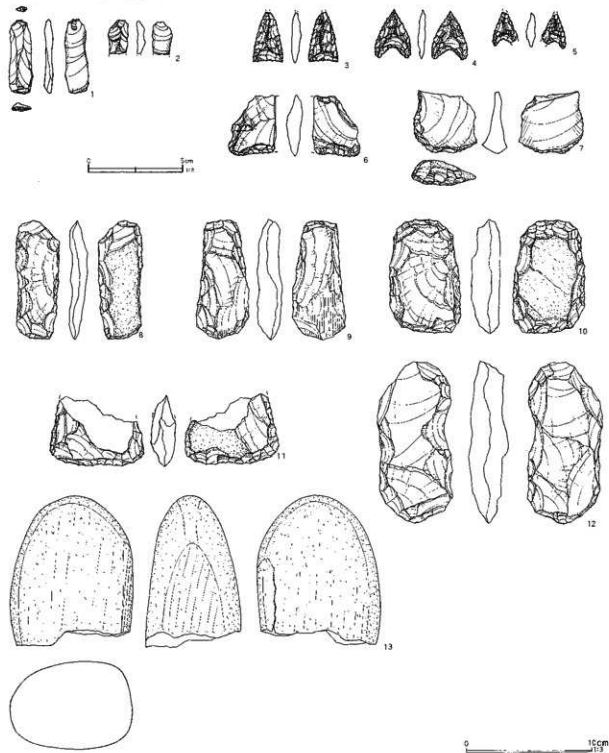
番号	器種	口径	器高	口径	土	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵器環			7.4	A針砂	良好	淡青灰色	60	谷奥 南北企産
2	須恵器環			(7.2)	A砂	良好	灰色	40	F8表様
3	須恵器環			6.8	A針	普通	淡灰褐色	90	谷 F10 南北企産
4	須恵器環			7.8	A針	良好	灰色	70	E8 南北企産
5	須恵器環	(13.6)			C F針	普通	淡灰色	20	C谷32 南北企産
6	須恵器碗	(15.4)			A E F	良好	青灰色	10	C谷F9
7	須恵器環	(11.3)	4.1	6.2	A針砂	良好	淡青灰色	60	Iトレンチ-41 南北企産
8	須恵器環	(11.8)	3.4	(6.6)	A針	良好	淡灰色	50	F8-1 南北企産
9	須恵器高台甕	14.8	6.8	8.4	A砂礫	普通	青灰色	60	C谷奥I様 木野産
10	須恵器甕				A C E F針	普通	灰褐色	50	C谷 南北企産
11	須恵器甕				A C E F針	良好	青灰色	20	E10谷 南北企産
12	須恵器甕	(20.4)			A針砂	普通	淡灰色	20	H5 南北企産
13	須恵器甕	(20.6)			A砂	良好	灰色	10	谷 F10
14	須恵器甕			(9.0)	A C E F	普通	灰褐色	30	谷 F10
15	須恵器甕			(9.7)	A B E F	普通	灰色	30	谷 F9
16	須恵器甕				A B針	普通	淡灰色	10	C1 南北企産 外面に自然釉付着
17	須恵器甕				A C E F針	普通	灰色	10	C谷10 南北企産 外面に自然釉付着
18	須恵器壺				A C E	良好	青灰色	30	C谷23-13
19	須恵器甕	(41.8)			A C E F針	普通	灰色	10	C区谷No64 南北企産
20	須恵器甕	(26.9)			A B F針	普通	青灰色	10	C区 G10 南北企産 外面に自然釉付着
21	須恵器甕	(25.2)			A B F	普通	暗灰色	10	谷 C-32 外面に自然釉付着
22	須恵器甕	(36.8)			A B C E F針	普通	青灰色	10	C区谷 南北企産
23	須恵器瓶			(15.0)	A C E F	普通	灰色	10	C E10谷
24	須恵器壺			(12.2)	A B C F針	普通	灰色	10	C谷 F1 南北企産 内面に摺痕有り
25	須恵器甕			(15.6)	A C E F針	普通	暗灰色	50	C区谷 南北企産
26	須恵器甕				A針	良好	褐色	破片	C区 E10谷 南北企産
27	須恵器甕				A礫	普通	淡褐色	破片	谷 F10
28	須恵器甕				A砂	良好	褐色	破片	C谷9
29	須恵器甕				A針礫	普通	淡青灰色	破片	試掘南端住居跡 南北企産
30	須恵器甕				A針礫	普通	暗青灰色	破片	C谷18 南北企産
31	須恵器甕				A針礫	良好	淡青灰色	破片	谷 C35 南北企産
32	須恵器甕				A針礫	普通	淡青灰色	破片	谷 F10 南北企産
33	須恵器甕				A礫	普通	青灰色	破片	C谷 E10
34	須恵器甕				A針礫	普通	黒褐色	破片	谷 C20 南北企産
35	須恵器甕				A E F針	普通	暗灰色	破片	C区谷 南北企産
36	須恵器甕				A針	良好	灰色	破片	C区 Dトレンチ第5-6 P地 南北企産
37	高古付陶			(7.0)	A	良好	灰白色	30	灰釉陶器
38	壺				A F	良好	淡灰色	20	C区谷 灰釉陶器
39	甕			(14.0)	A E F	普通	淡灰色	20	C区谷 灰釉陶器
40	土師器環	(14.8)	2.8		A砂	普通	淡赤褐色	40	C44
41	土師器甕	(21.4)			A砂	普通	橙褐色	20	C谷 E10
42	土師器甕	(20.0)			A礫	普通	淡茶褐色	10	C谷 D10
43	土師器甕	(18.0)			A礫	普通	淡赤褐色	10	A N8
44	土師器壺	(23.0)			A砂礫	普通	灰褐色	10	C谷 E10
45	片口鉢	(21.6)			A B C D F	普通	暗褐色	10	南トレンチ
46	土師器小型甕			(5.2)	A C砂礫	普通	灰褐色	10	試掘
47	土罐	長4.4cm 径1.6cm			砂	良好	淡褐色	95	C区 F10 孔径0.5cm 重さ9.05g
48	土罐	長4.4cm 径1.5cm			A砂	良好	淡赤褐色	100	D10 孔径0.5cm 重さ8.18g
49	土罐	残存長3.3cm 径1.3cm			A砂	良好	淡赤褐色	90	谷奥 F10 孔径0.5-0.6cm 重さ5.38g
50	かわりけ	10.0	2.5	5.0	A B D E F	普通	褐色	50	0-8 A区

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存率	備考
51	土師器			(6.0)	A礫	良好	淡暗赤褐色	10	0-8
52	磁石							60	H7
					残存長7.6cm 幅5.0cm 厚さ1.8cm 重さ89.0g				
53	甌	(10.7)	5.4	4.6	—	良好	—	50	D8 塗付
54	皿	13.5	3.4	7.5	—	良好	—	55	D8N 大木痕跡 塗付
55	鉄製品							—	C7 腐食著しい
		残存長10.8cm 最大幅2.2cm 背幅0.5cm 重さ92.9g							
56	鉢	(46.0)	13.3	(36.8)	A砂	普通	暗黒褐色	10	D区

第130図 グリッド出土遺物(5)



第131図 グリッド出土遺物(6)



第130図、第131図は縄文時代の出土遺物である。日向遺跡からは、若干ではあるが縄文時代の遺物が出土している。

第130図1～30は縄文土器で、1は早期初頭の燃糸文土器群で、燃糸Lを施文する。施文の特徴から、

稲荷台式に比定されよう。2～4は後葉の条痕文土器群であり、細線起線文区画内に集合沈線文を施文する野鳥式に比定される。胎土に若干の繊維を含む。

5は1点のみの出土であるが、前期の諸磯C式土器である。地文の矢羽根状条線文の上に、やや縦長の貼

第12表 日向遺跡新旧対照表

1. 調査区

新番	旧番
A区	A区
	B区
	C区
	D区
	E区
B区	F区
C区	G区

2. 小グリッド

新番	旧番
A 1	
A 2	AA18
A 3	AB18
B 2	AA17
B 3	AB17
B 4	AC17
B 5	AD17
C 2	AA16
C 3	AB16
C 4	AC16
C 5	AD16
C 6	AE16
D 2	AA15
D 3	AB15
D 4	AC15
D 5	AD15
D 6	AE15
D12	AK15
E11	AJ14
E12	AK14
F10	AI13
F11	AJ13
F12	AK14
G10	AI12
G11	AJ12
G12	AK12
G13	A12
G14	B12
G22	J12
G23	K12
H 9	AH11
H10	AI11
H11	AJ11
H12	AK11
H13	A11
H14	B11
H15	C11
H16	D11
H17	E11
H23	K11

新番	旧番
H24	L11
I10	AI10
I11	AJ10
I12	AK10
I13	A10
I14	B10
I15	C10
I16	D10
I17	E10
I18	F10
I19	G10
I20	H10
I23	K10
I24	L10
I25	M10
J12	AK 9
J13	A 9
J14	B 9
J15	C 9
J16	D 9
J17	E 9
J18	F 9
J19	G 9
J20	H 9
J21	I 9
J22	J 9
J24	L 9
J25	M 9
J26	N 9
K13	A 8
K14	B 8
K15	C 8
K16	D 8
K17	E 8
K18	F 8
K19	G 8
K20	H 8
K21	I 8
K22	J 8
K23	K 8

新番	旧番
K24	L 8
K25	M 8
K26	N 8
K27	O 8
K28	P 8
L14	B 7
L15	C 7
L16	D 7
L17	E 7
L18	F 7
L19	G 7
L20	H 7
L21	I 7
L22	J 7
L23	K 7
L24	L 7
L25	M 7
L26	N 7
L27	O 7
L28	P 7
L29	Q 7
L30	R 7
L31	S 7
M15	C 6
M16	D 6
M17	E 6
M18	F 6
M19	G 6
M20	H 6
M21	I 6
M22	J 6
M23	K 6
M24	L 6
M25	M 6
M26	N 6
M27	O 6
M28	P 6
M29	Q 6
M30	R 6
M31	S 6

新番	旧番
M32	T 6
N18	F 5
N19	G 5
N20	H 5
N21	I 5
N22	J 5
N23	K 5
N24	L 5
N25	M 5
N26	N 5
N27	O 5
N28	P 5
N29	Q 5
N30	R 5
N31	S 5
O20	H 4
O21	I 4
O22	J 4
O23	K 4
O24	L 4
O25	M 4
O26	N 4
O27	O 4
O28	P 4
O29	Q 4
O30	R 4
P22	J 3
P23	K 3
P24	L 3
P25	M 3
P26	N 3
P27	O 3
P28	P 3
P29	Q 3
Q24	L 2
Q25	M 2
Q26	N 2
Q27	O 2
Q28	P 2

付文を施文する。

6、7は中期中葉の勝坂式土器で、6はペン先状結節沈線を描いた施文するやや古い段階の破片で、7は沈線に爪形文を沿わせる終末の破片である。

8～30は末葉の加曾利E式土器群である。8、9は口縁部文様帯を持つキャリパー形深鉢の破片で、10は無文の口縁部を持つ浅鉢の可能性が高い。胴部破片は磨消懸垂文を持つもの(13～17)、縄文施文のもの(18～26)、条線を施文するもの(27～29)がある。30は両耳蓋の把手部である。何れも、加曾利EⅢ式に比定される。

第131図1～13は石器である。1、2は黒曜石製の縦長ブレイドで、旧石器の可能性もある。1は長さ3.8cm、幅1.2cm、厚さ0.4cm、2は長さ1.8cm、幅1.1cm、厚さ0.4cmを測る。

3～5は石鏃である。3は黒曜石製で、長さ2.6cm、幅1.6cm、厚さ0.5cm、4は黒曜石製で、長さ2.6cm、幅1.9cm、厚さ0.4cmを測る。5はチャート製で、長さ1.8cm、幅1.3cm、厚さ0.5cmを測る。

6、7は掻器である。6はチャート製で、長さ3.2cm、幅2.6cm、厚さ0.8cm、7は黒曜石製で、長さ3.3cm、幅3.4cm、厚さ1.3cmを測る。

8～12は打製石斧である。8は頁岩製で、長さ9.3cm、幅3.5cm、厚さ1.7cm、9は緑色片岩製で、長さ9.2cm、幅2.8cm、厚さ1.4cm、10は砂岩製で、長さ8.9cm、幅5.8cm、厚さ2.2cm、11は対部のみ現存し、砂岩製で、長さ5.4cm、幅7.5cm、厚さ1.9cm、12は頁岩製で、長さ12.6cm、幅5.8cm、厚さ3.1cmを測る。

13は閃緑岩製の磨石で、半分が欠損する。長さ11.7cm、幅11.2cm、厚さ7.5cmを測る。

第13表 日向遺跡土器新旧対照表

新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号
SK 1	←	SK26	SK24	SK51	SK47	SK76	SK72
SK 2	←	SK27	SK22	SK52	SK48	SK77	SK73
SK 3	SK98	SK28	SK23	SK53	SK49	SK78	SK74
SK 4	SK 3	SK29	SK44	SK54	SK51	SK79	SK75
SK 5	SK99	SK30	SK25	SK55	SK52	SK80	SK76
SK 6	SK 4	SK31	SK26	SK56	SK53	SK81	SK77
SK 7	SK 5	SK32	SK27	SK57	SK54	SK82	SK78
SK 8	SK32	SK33	SK28	SK58	SK55	SK83	SK79
SK 9	SK 6	SK34	SK29	SK59	SK56	SK84	SK80
SK10	SK 7	SK35	SK30	SK60	SK57	SK85	SK81
SK11	SK 8	SK36	SK31	SK61	SK58	SK86	SK82
SK12	SK 9	SK37	SK33	SK62	SK59	SK87	SK83
SK13	SK10	SK38	SK50	SK63	SK60	SK88	SK84
SK14	SK11	SK39	SK34	SK64	SK61	SK89	SK88
SK15	SK97	SK40	SK35	SK65	SK62	SK90	SK85
SK16	SK12	SK41	SK36	SK66	SK69	SK91	SK86
SK17	SK13	SK42	SK37	SK67	SK70	SK92	SK87
SK18	SK14	SK43	SK38	SK68	SK63	SK93	SK90
SK19	SK15	SK44	SK39	SK69	SK64	SK94	SK89
SK20	SK16	SK45	SK40	SK70	SK65	SK95	SK91
SK21	SK17	SK46	SK41	SK71	SK66	SK96	SK92
SK22	SK18	SK47	SK42	SK72	SK100	SK97	SK95
SK23	SK19	SK48	SK43	SK73	SK67	SK98	SK96
SK24	SK20	SK49	SK45	SK74	SK68	SK99	SK93
SK25	SK21	SK50	SK46	SK75	SK71	SK100	SK94

VII 発掘の成果

1 大木前遺跡出土の古墳時代の鏡について

はじめに

今回の大木前遺跡の調査によって、丘陵斜面裾に営まれた奈良・平安期の竪穴住居跡が26軒検出され、丘陵部に展開する小規模集落の様相が明らかにされた。また、そのうちの3軒から小鏡治が検出されているほか、焼上塊や炭化物を大量に伴う土壌が数多く発見され、鍛冶工房的な性格をもった集落の側面を垣間見ることができると考えられる。

このうち第5号住居跡は、出土した土器の様相から9世紀後半に位置づけられているにもかかわらず、竈脇から古墳時代前期に製作されたと考えられる鏡の小片が発見された。鏡の製作年代と住居跡の年代に大きな隔りがあり認められることから、その出土意義をめぐり大きな注目を集めている。ここでは大木前遺跡から出土した鏡片について、内区主文様を中心とする検討から原鏡を同定し、類似鏡との比較からその製作年代について検討をおこなうこととする。

(1) 鏡片の出土状況

第5号住居跡は北壁に竈をもつ長軸6.5m、短軸2.5mほどの長方形平面の通常の竪穴住居跡で、遺構の上での特異な点は認め難い。鏡片は竈に向かって左手約1mの壁面付近の床面からやや浮いた状態で出土しており、特別な埋納坑などは確認されておらず、廃棄に近い状況であった。しかし、この住居跡は小鏡治を床面に設けた鍛冶工房と考えられ、また住居跡絶後にも小鏡治に関連する土壌群が多数掘削され、作業場的な空間として利用されていたようである。中でも第19号土壌からは石帯の巡方などが出土しており、集落内部における本住居跡の特異性を際立たせている。

(2) 鏡片の観察とその特徴

鏡片は鈕とその周囲部分の破片で、神像と侍仙、獸

像がそれぞれ一つずつ残されている。外区を欠失しているため、銘帯及び外区文様の構成については不明である。銅質は精良で錆上りも良く、文様の表出は比較的鮮明で、鏡面は青銅色、鏡背面は赤銅色を呈している。注目される点として、周縁部が故意に細かく打ち割られ、さらに破断面の一部には研磨痕が観察されることから、この鏡が鑄造してから遺棄されるまでの間の保有状況のあり方を示唆している。

次に、事実報告の繰り返しになるが、内区の各部位について簡単に説明しながら鏡の特徴を概説する。

鈕はやや腰高の半球形で、やや形の崩れた長方形の鈕孔が穿たれている。福永伸哉氏の研究によれば、長方形鈕孔は三角縁神鏡に特徴的にみられ、古墳時代の仿製鏡の中では神鏡鏡や獸形鏡などに比較的多く認められるとしている(福永1991)。(註1)。また、鈕孔底部が鈕の基部とほぼ同じ位置にあることから、船載鏡ではなく仿製鏡である蓋然性が高いことが知られる(秦1994)。乳は三角錐形の円座乳を2つだけ残しているが、本来の配置は4乳によって内区を4区画していたようである。

これらの点から大木前鏡は、円座鈕の周りに円圏を1条めぐらし、内区を円座の4乳によって区切り、その間に神像と侍仙、獸像を交互に配列した二神二獸が鑄出されていた蓋然性が高いことが判明した。

神像は、両側に雲気の張り出した神座に座した坐像表現を表わしたもので、特徴的な三日月形の隆帯によって衣の襷や膝の上に拱手する手を表現している。また両肩からは外向きの弧線によって翼が表現されているなど、神像表現としては原鏡を忠実に模倣している様子が窺える平面、顔は丸い頭部に点状の眼珠と鼻梁線を表現しただけで口の表現を欠き、萎縮した表現となっているのが大きな特徴である。さらに船載斜縁二神二獸鏡では神像の頭部に冠を表現し、双卷冠を戴く

西王母と三山冠を戴く東王父を表現しているのに対して、大木前鏡では冠の表現がみられず、その別が当然としなくなっている点も挙げられる。

侍仙は立像か、あるいは横向きの膝をついた人物を表現したものと考えられるが、簡略化した表現のためその決め手を欠いている。仮に立像を表現したものとすれば、西王母に伴う侍仙（玉女）である。

首を横に傾げ、短い弧線によってスカート状の衣を表わし、腕を上にも挙げた姿態を流麗に表現している。顔は丸い顔部に点状の眼珠と丸く大きな鼻を表現しただけの萎縮した表現で、頭上には3条の弧線が線影されている。

獣像は右向きに走獣を半円彫したもので、船載斜縁二神二獸鏡の多くが、正面形と側面形の獣像を左向きに配している場合が多いのに対して、逆向きに配されており、仿製鏡としての根拠のひとつに数えられる。

頭部は鳥頭表現に近い側面形で表現され、楕円形の顔部に点状の眼珠と短線で嘴と髯を表現する。頭部の後方には長くのびた角があることから「龍」を表現したものと考えられる。頭部は鳥首状に大きく後方に反り返り、2節1単位の有節表現をもち、単線で鬘が表現されており、獣鏡鏡類の鳥頭表現をもつ一群のものとの強い結びつきが想定される（赤塚1998）。

獣像の肩部には半球に三巴が浮彫形式に表現され、羽翼が線影されている。このような肩部の渦文表現は管見では、大分県免ヶ平古墳（斜縁二神二獸鏡）、大分府安満宮山古墳（4号鏡：斜縁「吾作」二神二獸鏡）、愛知県東之宮古墳（四獣形鏡）、静岡県松林山古墳（四獣形鏡）などにみられる。船載斜縁二神二獸鏡を原鏡とし、仿製鏡の中でも神獸鏡や獣形鏡の一群に認められる表現手法のひとつであり（田中1979）、作鏡者集団の問題を考える上で重要な手がかりとなる。

(3) 原鏡の同定と製作年代

前節で検討したように、大木前遺跡から出土した鏡片は、銅質が良く錆上りが比較的良好的であるが、各図像本来の形態が失われていることや鈕孔底面が鈕の

基部と同じ位置にあるなどの特徴から仿製鏡と判断されるものである。そして、神像及び獣像の表現手法や配置などから船載斜縁二神二獸鏡を原鏡として、模倣されたものと位置づけられる。

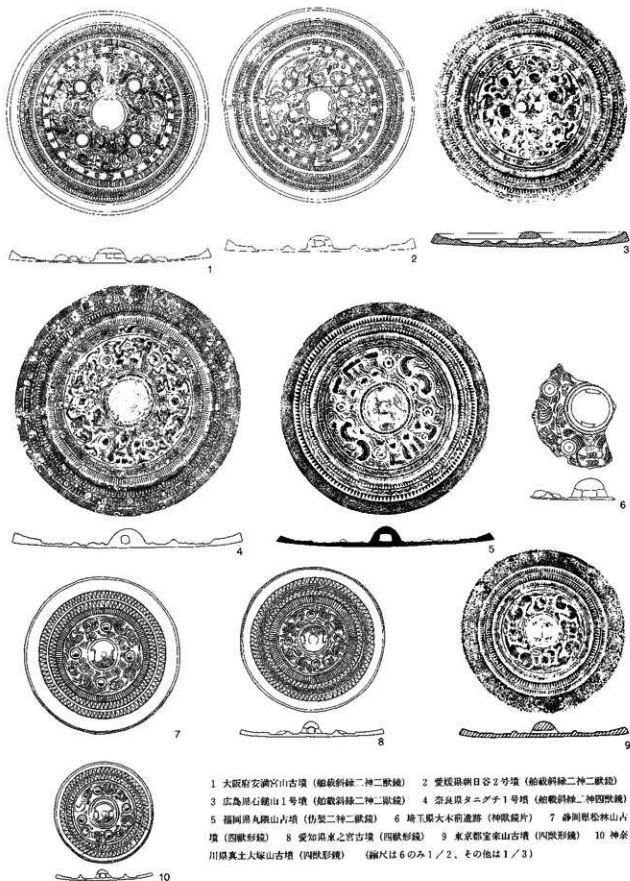
ここで大木前鏡の原鏡と想定した船載斜縁二神二獸鏡の特徴について概説する。

船載斜縁二神二獸鏡は、国内でこれまでに40例ほどが出土しているほか、朝鮮半島の乘浪郡域と中国から若干例が発見されている。岡村秀典氏による漢鏡7期に位置づけられ、その製作年代は2世紀後半から3世紀前半に比定されている（岡村1999）。大分府安満宮山古墳や奈良県桜井茶臼山古墳などのように前期古墳の中でも古い段階のものから出土している例も知られるが、その多くは前期中葉以降のやや新しい段階の小規模墳から出土している。その分布は、西は福岡県から東は山梨県までひろがり、分布の密度は滋賀県・三重県より西に偏り、倣製三角縁神獸鏡に似た分布状況を示している。東日本では長野県兼清塚古墳、山梨県小平沢古墳から船載斜縁二神二獸鏡が出土しているにすぎない。

斜縁二神二獸鏡は、神人龍虎画像鏡から派生した鏡式と考えられており、基本的には内区は4乳で分割した区画に侍仙を伴う二神と二獸を配置し、その外側には銘帯・櫛齒文帯、外区は鋸齒文と複波文という外周突線を配し、縁は斜縁という構成をとっている（森田1998）。縁は三角縁に近いものもあり、三角縁神獸鏡との親縁関係が指摘されているが、三角縁神獸鏡よりも小型で、鏡径が16～12cmを測り、銘文は「吾作明鏡」で始まる「兩鏡三商」式のものが多く、三角縁神獸鏡とは異なっている（樋口1979）。

このような特徴をもつ船載斜縁二神二獸鏡に対して、仿製の二神二獸鏡は原鏡から大きく変容したものが多く、滋賀県安土縣草山古墳、奈良県作紀丸塚古墳、福岡県九隈山古墳出土の仿製斜縁二神二獸鏡が原鏡を忠実に模倣したのとして最古段階に位置づけられている（田中1979）。それらの製作年代については、安土縣草山古墳の中央石室から方形板葺銅鏡甲、扇形石製

第1図 大木前鏡と関連鏡



1 大坂府安満宮山古墳 (船載斜縁二神二獸鏡) 2 愛媛県朝日谷2号墳 (船載斜縁二神二獸鏡)
 3 広島県石鎚山1号墳 (船載斜縁二神二獸鏡) 4 奈良県タニグチ1号墳 (船載斜縁二神四獸鏡)
 5 福岡県丸隈山古墳 (仿製二神二獸鏡) 6 埼玉県大木前遺跡 (神獸鏡片) 7 静岡県松林山古墳 (四獸形鏡)
 8 愛知県東之宮古墳 (四獸形鏡) 9 東京都宝来山古墳 (四獸形鏡) 10 神奈川県真土大塚山古墳 (四獸形鏡) (縮尺は6のみ1/2、その他は1/3)

品、筒形銅器、柳葉式銅鏝などが伴出していることから4世紀中葉を遡ることは確実である。話を大木前鏡にもどせば、獸像の表現が鳥頭表現へと大きく変容しながらも、角や鬘などの表現がみられ、龍としての意識が残っていることや図像配置などから仿製鏡としては古い段階に位置づけられ、4世紀中葉頃の製作年代を想定しておきたい。

関東地方の前期古墳から出土した仿製神鏡には、西文帯神鏡を原鏡とする群馬県二本木古墳の仿製神鏡や栃木県山王大塚塚古墳の仿製四神鏡（変形神鏡）などが知られるだけで類例が少なく、福永伸哉氏が提唱する「新式鏡群」に該当する大木前鏡は、古墳時代前期から中期にかけての政治的変動を反映した鏡として重要な位置を占めている（註2）。

(4) 鏡片の意味するもの

最後に、平安時代の住居跡から出土した古墳時代の鏡の性格について考えてみたい。

弥生時代後期から古墳時代前期を中心に鏡の鑄造時期とあまり時期を隔てない時代の遺構から出土する場合は、関東地方でも東京都・神奈川県・千葉県など南関東を中心に類例が知られている。

埼玉県内では弥生時代後期の大宮市三崎台遺跡第52号住居跡から出土した小型仿製鏡が最も古く位置づけられる（笹森1996）。続く古墳時代では、福川市八幡耕地遺跡第4次調査で古墳時代後期の第8号住居跡から珠文鏡の破片が出土した例が知られているにすぎない（今井1989）。

一方、大木前遺跡と同じく奈良・平安時代における鏡の住居跡からの出土例には、熊谷市一本木前遺跡第13号住居跡から瑞花鸞八鏡鏡片が出土している（寺社下2000）。年代的には10世紀末～11世紀初頭に位置づけられ、鏡を出土した竪穴住居跡からは大量の鉄滓や炭化物に混じって砥石なども出土しており、小鏡冶に関連した住居であると指摘されている。大木前遺跡との共通性が窺われるが、出土した鏡は唐式鏡と大きく異なり、同列にその背景を論じることはできない。

このほかに住居跡以外では、浦和市明花向遺跡から小型海獣葡萄鏡の内区のみを鋳出した小型鏡が遺構に伴わずに単独で出土しているほか（越持1984）、熊谷市北島遺跡第14地点の第1号溝から瑞花文八鏡鏡片が出土している（鈴木1998）。両者とも水辺祭祀に関わる鏡の使用例と想定される。

前述したように大木前遺跡から出土した鏡片は、4世紀代に倭国で製作された仿製鏡であるが、それと隔てること約500年の年代差を示す住居跡から出土しており、このような鏡の製作年代と住居の時期が大きく乖離するような事例はあまり類例がない。

管見にふれたものでは、千葉県千葉市下田遺跡で9世紀前半の第49号住居跡から珠文鏡（倉田1997）が出土しているほか、住居の詳細な時期は不明であるが千葉県成田市下方内野南遺跡第38号住居跡から五獣形鏡（川津1991）が出土しているだけである。

大木前遺跡から出土した鏡片の性格については、

- ① 古墳時代前期に大和政権から威信財として配布された鏡が、長期間にわたって集団内保存・伝世された。
- ② 鑄造・鍛冶集団などの職能集団において、鏡が貴重な器物として祭器化され、「懸仏」などの神格化された器物として再利用された。
- ③ 周辺における前・中期古墳の副葬鏡が何らかの事情で発掘された。

等々、いくつかの場合が想定されるが、いずれにしても鏡が製作されてから住居跡へ遺棄されるまでの間に、どこで、どのような状況で保有され、そして最終的に住居内に遺棄されたのか、それぞれの要因を合理的に説明することは難しく、恣意的な解釈に陥ってしまう恐れがあり、にわかはその出土意義を断案することはできない。

ここでは森下章司氏によって新しい視点から問題提起された、共同体における威信財としての鏡の長期間保存・伝世の問題（森下1998）を考慮したうえで、周辺における古墳時代前期の政治的動向の中に大木前鏡を位置づけていく視座が、今後必要であろうことを指

摘しておきたい(註3)。

ちなみに、6世紀前半に築造された朝霞市一夜塚古墳には魏晉鏡に比定される方格規矩八鳳鏡が副葬されており(車崎2000)、古墳時代においても200年を越すような年代差を示す長期間保有・伝世がなされた場合があったことが指摘されている。

おわりに

大木前遺跡から出土した鏡片について内区主文様の比較検討から、4世紀中葉頃に倭国内で舶載斜縁二神二獸鏡を原鏡として、忠実に模倣された仿製二神二獸鏡の内区部分の鏡片であることを指摘した。外区文様などを欠いているため詳細な編年の位置づけは難しいが、仿製鏡の初期の作品に位置づけられ、獸像表現にみられる肩部の渦文表現や鳥頭・鳥首表現など、獸形鏡類の展開に大きな影響を与えたものと想定される。

しかしながら、大木前鏡が大きな年代差をもつ住居

跡から何故出土したのか、その要因を説明することは至難であり、今後に残された課題も大きい。周辺における前期古墳の動向などとの関連を含め、さらに検討を重ねていきたいと考えている。

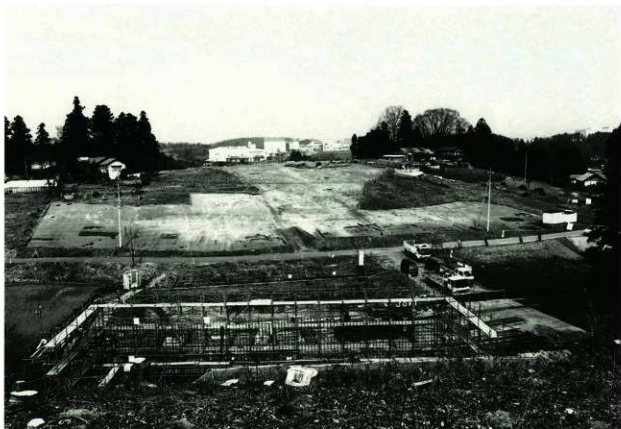
註

- (1) 福永伸哉氏は、古墳時代の仿製鏡のなかには、大きく分けると三角縁神鏡および一部の神鏡、獸形鏡などの長方形鑑孔を持つグループと、内行花文鏡、方格規矩形、龍鏡などの半円形鑑孔を持つグループが存在していたと想定している(福永1991)。
- (2) 福永伸哉氏は、斜縁神鏡や方置式神鏡の複製鏡の製作が中心系列鏡群や複製三角縁神鏡の製作より一段遅れることを指摘し、その背後に神鏡複製制作に関する管理の存在と政治勢力の変動を読み取ろうとする(福永1999)。
- (3) 大木前遺跡周辺の北北東丘陵内部には、江神町塚古墳群や橘川町月輪古墳群などに前・中期古墳が存在している。

引用・参考文献

- 水塚二郎 1998 「獸形文鏡の研究」『考古学フォーラム』10 考古学フォーラム
- 今井正文 1989 『昭和63年度 福川市遺跡群発掘調査報告書』福川市教育委員会
- 岡村秀典 1999 「三角縁神鏡の時代」吉川弘文館
- 川津和久 1991 「下方内野南遺跡」『平成2年度 千葉県遺跡調査研究発表会 発表要旨』千葉県文化財法人連絡協議会他
- 合田義広 1997 「下田遺跡」『平成8年度 千葉県遺跡調査研究発表会 発表要旨』千葉県文化財法人連絡協議会他
- 車崎正彦 2000 「古墳祭祀と祖霊観念」『考古学研究』第47巻第2号 考古学研究会
- 創持和夫 1984 『明花向・明花上ノ台・井沼方馬場・とうのこし』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第35集
- 笠森紀己子 1996 「三崎台遺跡—第3次調査—」大宮市遺跡調査会報告書第56集 大宮市遺跡調査会
- 寺下 博 2000 「平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書 一本木前遺跡」熊谷市教育委員会
- 杉崎茂樹 1999 「大木前遺跡出土の鏡片」『東北・関東前方後円墳研究会連絡誌』第7号
- 鈴木孝之 1998 「北鳥遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第195集
- 田中 琢 1979 『古鏡』日本の原典美術 8 講談社
- 田中 琢 1981 『古鏡』日本の美術 No.178 中央堂
- 栗 憲二 1994 「鑑孔製作技術から見た三角縁神鏡」『先史学・考古学論叢』龍田考古会
- 樋口隆康 1979 『古鏡』新泉社
- 福永伸哉 1991 「三角縁神鏡の系譜と性格」『考古学研究』第38巻第1号 考古学研究会
- 福永伸哉 1999 「古墳時代前期における神鏡複製制作の管理」『国家形成期の考古学』
- 森下章司 1991 「古墳時代仿製鏡の変遷とその特質」『史林』第74巻第6号 史学研究会
- 森下章司 1998 「鏡の伝世」『史林』第81巻第4号 史学研究会
- 森田克行 1998 「青龍三年鏡とその伴品」『古代』第105号 早稲田大学考古学会

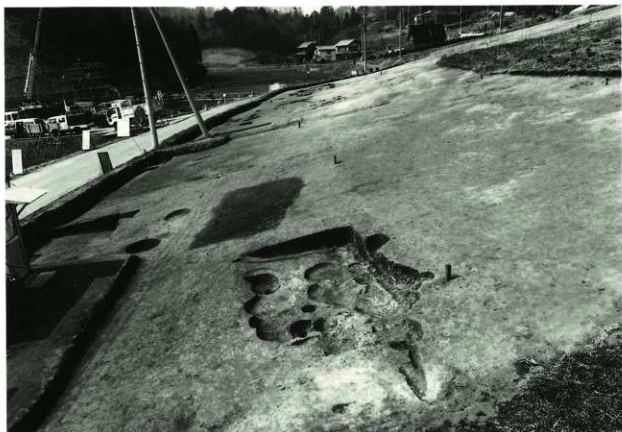
写真図版



大木前遺跡全景（南から）



調査区全景（中央部東から）



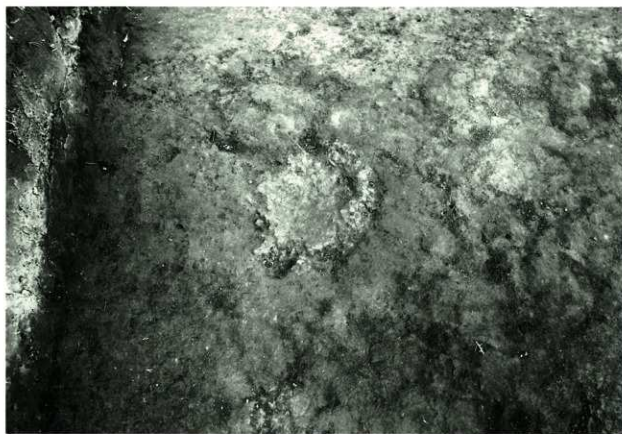
調査区全景（東から）



調査区全景（中央部西から）



第1号住居跡



第1号住居跡鍛冶炉



第2号住居跡



第3・4号住居跡



第5号住居跡



第6号住居跡



第 5 号住居跡鏡出土状態



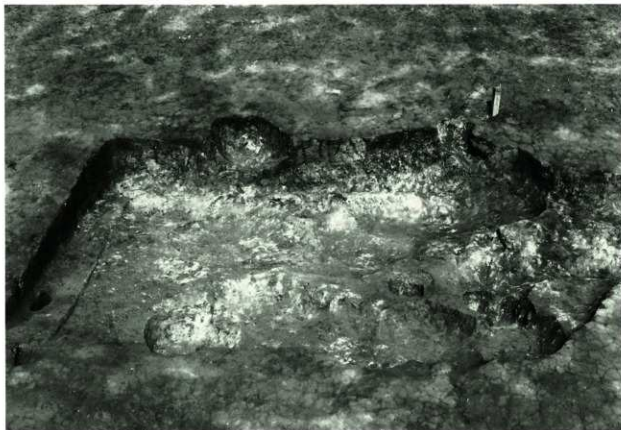
第 5 号住居跡貯蔵穴



第9号住居跡



第11・18・19号住居跡



第12・13・14・16号住居跡



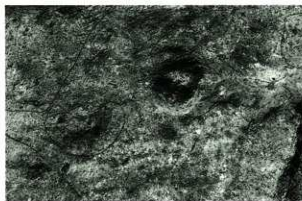
第12・13・14・16号住居跡（西から）



第13号住紡錘車出土状態



第13号住刀子出土状態



第13号住内鍛冶炉



第15号住居跡



遺物出土状況 (全景)



竈遺物出土状態



遺物出土状況 (近景)



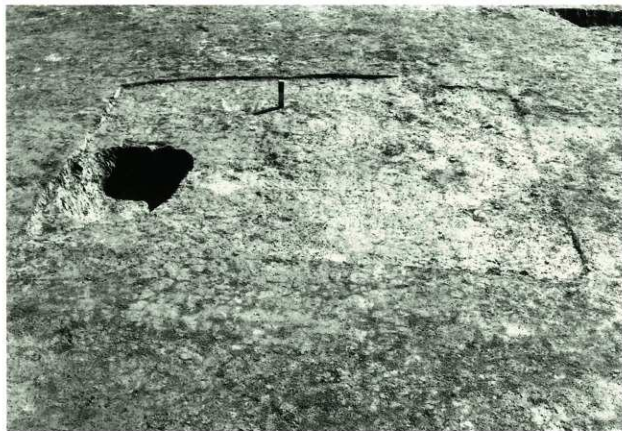
遺物出土状況 (近景)



第17号住居跡



第17号住居跡貯藏穴



第21号住居跡



第21号住居跡貯蔵穴



第22号住居跡



第22号住居跡貯藏穴



第23号住居跡



第24号住居跡



第25・26号住居跡



第25号住居跡遺物出土状態



第69号土坑 (炉穴)



第19号土坑



第39号土坑遺物出土状態



第1号土坑



第4～6号溝跡



第3号溝跡



第6号溝跡



第7号溝跡



4住-1



4住-3



4住-4



5住-13



5住-14



5住-19



6住-2



6住-3



13住-9



15住-1



15住-2



15住-4



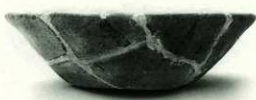
15住-6



15住-8



15住-10



15住-12



15住-20



15住-21



15住-30



15住-5



17住-1



17住-2



17住-3



21住-1



21住-3



21住-2



24住-1



24住-2



24住-3



24住-4



25住-3



25住-1



26住-4



26住-6



26住-5



18土-3

大木前遺跡



19±-9



20±-13



21±-19



48±-12



57±-13



18±-4



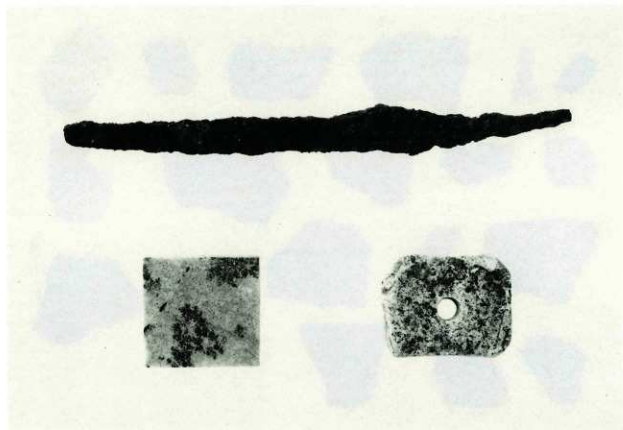
46±-9



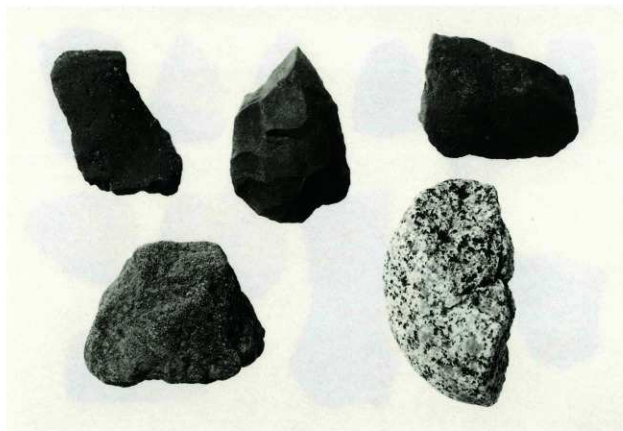
64±-24



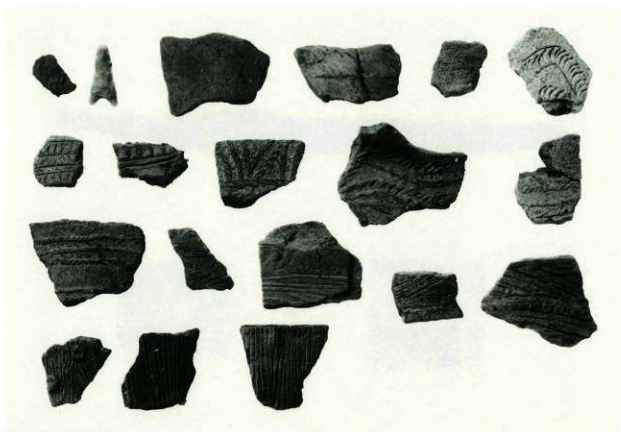
60±-189



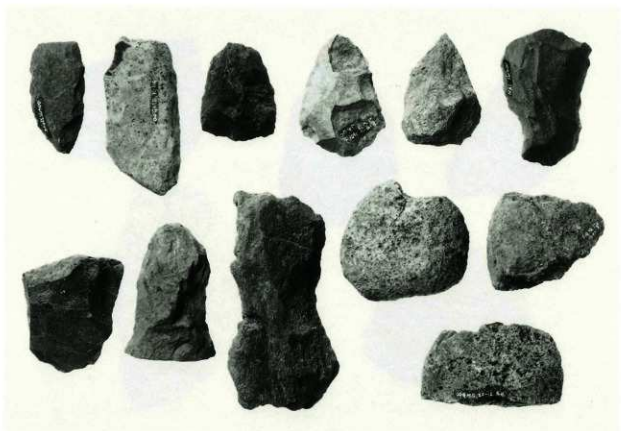
刀子・石帯・紡錘車



第69号土壙（炉穴）出土遺物



グリッド出土縄文土器



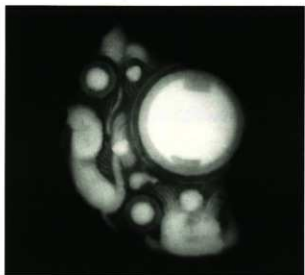
グリッド出土石器



第5住出土鏡片 鏡背面



同 鏡面



同 X写真



同 鈕孔



同 神像



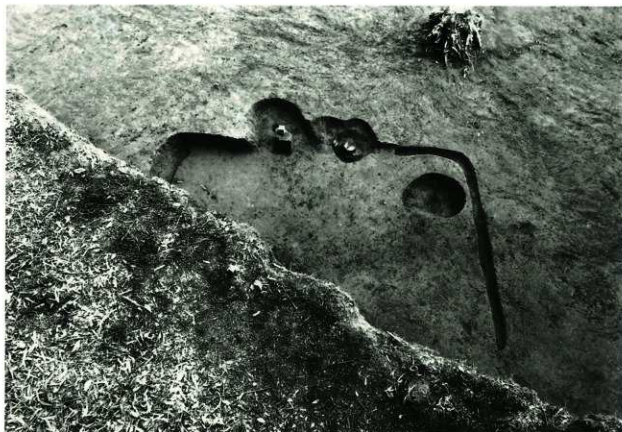
同 獸像



小栗北遺跡全景



第1号住居跡



第2号住居跡



第2号住居跡ピット



第3号住居跡・第8号土壇



第5号土壇（炉穴）遺物出土状態



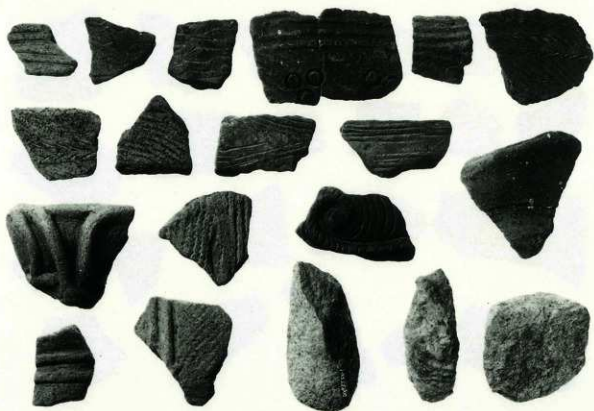
2住-1



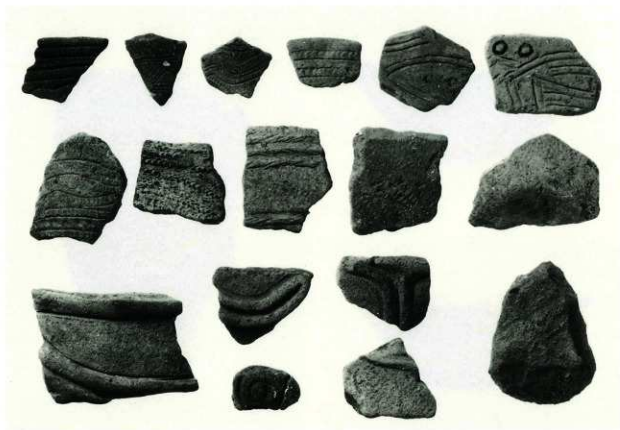
2住-2



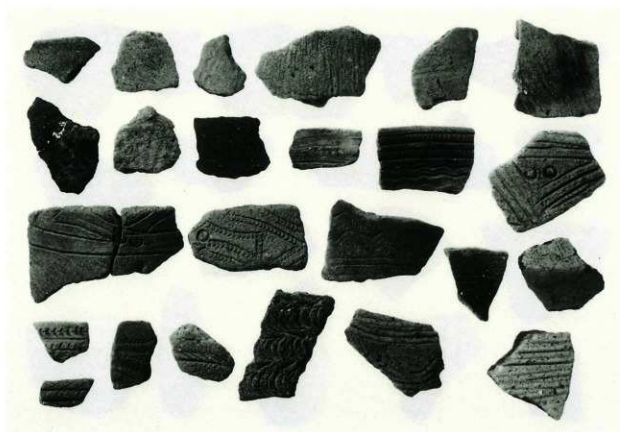
5土-1



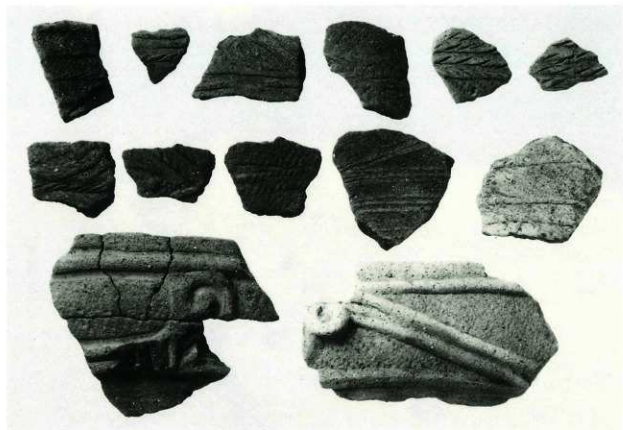
第3号住居跡出土遺物



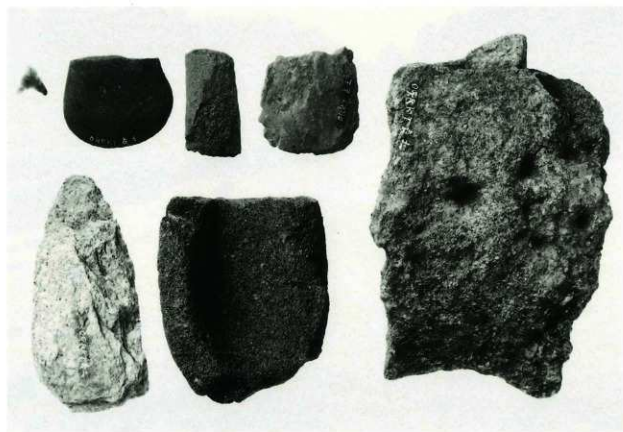
第8号土壇出土遺物



小栗北遺跡グリッド出土土器(1)



小栗北遺跡グリッド出土土器(2)



小栗北遺跡グリッド出土土器



小栗遺跡全景（南から）



小栗遺跡全景（西から）



第2・3号住居跡



第4号住居跡



第1・2・4号掘立柱建物跡



第3号掘立柱建物跡



第5号掘立柱建物跡



第6号掘立柱建物跡



日向遺跡 A 区東側（西から）



日向遺跡 A 区東側（南から）



日向遺跡A区中央部（南から）



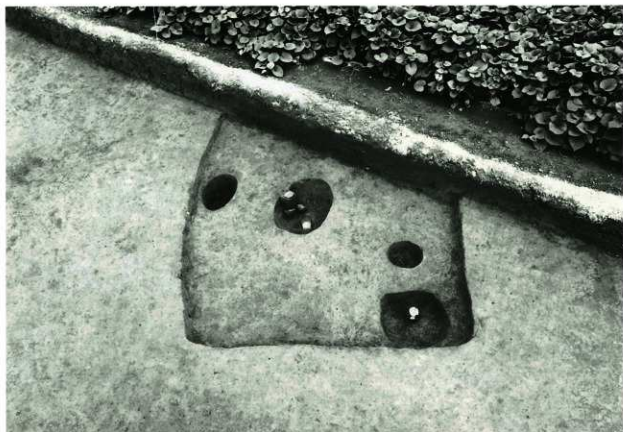
日向遺跡A区中央部（北から）



日向遺跡A区中央部（西から）



日向遺跡B区全景



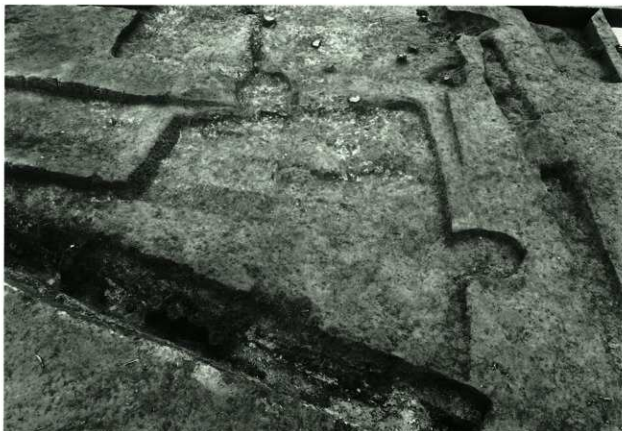
第1号住居跡



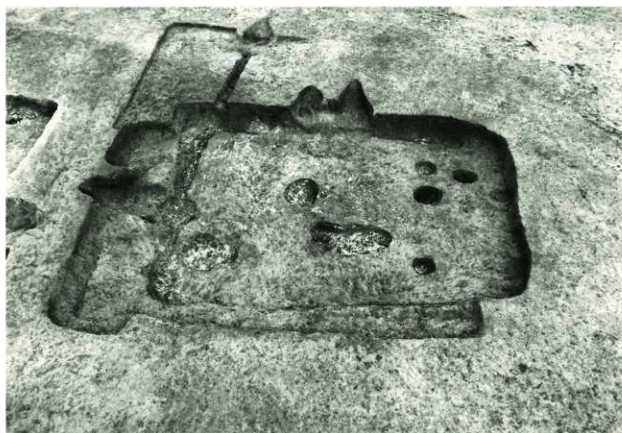
第2号住居跡



第3・4号住居跡



第5号住居跡



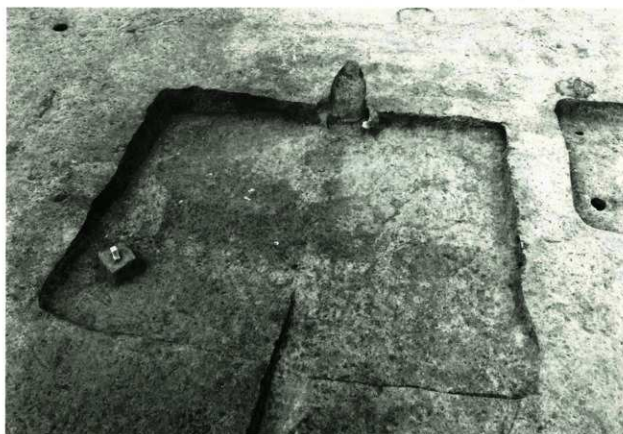
第6・7号住居跡



第9号住居跡



第10号住居跡



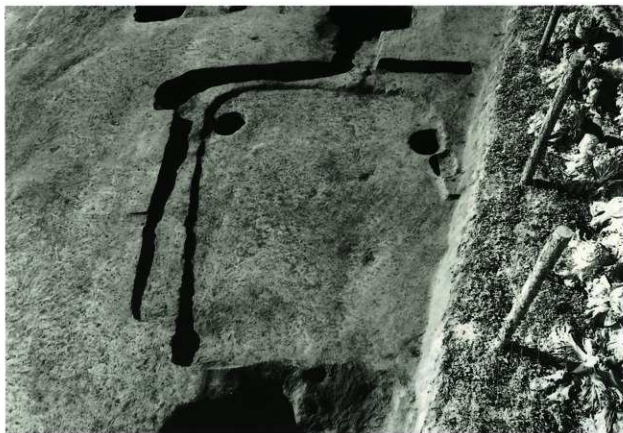
第11号住居跡



第12号住居跡



第13号住居跡



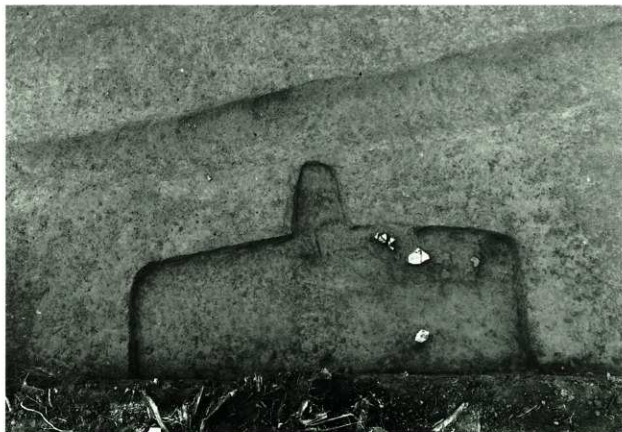
第14・15号住居跡



第17号住居跡



第18・19号住居跡



第20号住居跡



第22号住居跡



第1号溝跡



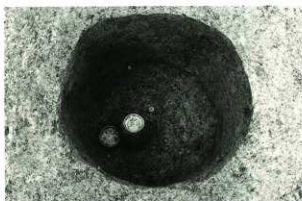
第17号土坑



第63号土坑



第80号土坑



第83号土坑



第93号土坑



第1号炭窟



第3号炭窟



第5号炭窟



1住-1



3住-1



4住-8



7住-2



7住-3



7住-4



9住-1



9住-6



11住-7



13住-1



16住-1



17住-2



18住-3



19住-2



20住-1



清-5



22住-1



土-12



土-14



土-15



土-16



土-17



土-18



土-19



土-20



土-50



土-53



土-54

報告書抄録

ふりがな		おおぎまえ・おぐりきた・おぐり・ひなた								
書名		大木前／小栗北／小栗／日向								
副書名		主要地方道熊谷小川秩父線関係埋蔵文化財発掘調査報告								
巻次										
シリーズ名		財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書								
シリーズ番号		第259集								
編著者名		金子直行・佐間孝志								
編集機関		財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団								
所在地		〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木4-4-1				TEL 0493-39-3955				
発行年月日		西暦2001(平成13)年3月23日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯		東経		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "					
大木前	埼玉県比企郡 嵐山町大字越畑 字大木前453 他	11342	36-188	36° 04' 13"	139° 18' 47"	19981201 ～19990331 20001020 ～20001228	6340	道路建設		
小栗北	嵐山町大字 越畑字小栗 399 他	11342	36-190	36° 04' 08"	139° 18' 43"	20001020 ～20001228	500			
小栗	嵐山町大字 越畑字小栗 383-1	11342	36-090	36° 04' 05"	139° 18' 41"	19990104 ～19990331	1800			
日向	小川町大字 中爪字馬戸場 1015 他	11343	35-021	36° 03' 45"	139° 18' 00"	19990408 ～19991228	11745			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項		
大木前	集落跡	縄文 奈良・平安		炉穴 住居跡 土壇 井戸 ビット 溝跡		1基 26軒 68基 1基 30個 7条		縄文土器・石器 須恵器 土師器 鏡 刀子 紡錘車		
小栗北	集落跡	中世 平安		住居跡 が穴 土壇 ビット状遺構 溝跡 住居跡		1軒 5基 18基 7個 1条 2軒		縄文土器・石器 須恵器 土師器		
小栗	寺院跡	奈良・平安		住居跡 掘立柱建物跡 溝跡 土壇 ビット		5軒 6棟 1条 17基 137個		縄文土器・石器 須恵器 土師器 瓦		
日向	集落跡	奈良・平安 中・近世		住居跡 溝跡 土壇 ビット 炭焼窯跡		22軒 13条 100基 85個 5基		縄文土器・石器 須恵器 土師器 陶磁器・かわらけ		

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第259集

比企郡嵐山町・小川町

**大木前／小栗北
小栗／日向**

主要地方道熊谷小川秩父線関係埋蔵文化財発掘調査報告

平成13年3月22日 印刷

平成13年3月23日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 大里郡大里村船木台4-4-1

電話 0493(39)3955

印刷／㈱太陽美術

大木前遺跡全側図

